

1	経営学入門	LM-A-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Management		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	<input type="radio"/> 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
企業の仕組みと働きを理解し、企業が直面する問題について自分なりに考えられるようになること。			
授業の概要			
本講義では主として企業という組織に焦点を当てる。現代の社会に与える企業の影響力が非常に大きいことはもちろん、我々は様々な形で企業と関係を持っており、企業の仕組みと働きを学ぶことは重要な意味を持つと思われるからである。具体的には、企業の仕組みや働きに加えて、企業と環境の関わりの問題や、企業の社会的責任 (CSR) の問題など、企業の抱える現代的課題にも着目し、企業の全体像を幅広い視点から把握できる能力の獲得を目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメガバンクでの勤務経験を活用し、企業を捉える場合のポイントや組織のマネジメントについて、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

1	経営学入門	LM-A-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Management		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	なぜ経営学を学ぶのか	経営学を学ぶ意味を考える。 経営学を学ぶ意味についてノートを整理する。	2 2
第 2 回	企業とは何か	企業とは何かを考える。 様々な企業形態とその特徴についてノートを整理する。	2 2
第 3 回	企業と環境の関わり	企業を取り巻く環境について考える。 環境のとらえ方と企業との関わりについてノートを整理する。	2 2
第 4 回	経営戦略の基本的考え方	経営戦略の意味について考える。 経営戦略の必要性とその種類についてノートを整理する。	2 2
第 5 回	成長戦略	企業の成長の方法について考える。 企業の成長戦略とその実例についてノートを整理する。	2 2
第 6 回	競争戦略	企業が競争優位を得るための方法について考える。 企業の競争戦略とその実例についてノートを整理する。	2 2
第 7 回	経営管理とは何か	管理の意味を考える。 経営管理の基本的考え方についてノートを整理する。	2 2
第 8 回	組織と経営管理	経営者の役割を考える。 それぞれの管理活動についてノートを整理する。	2 2
第 9 回	様々な組織	様々な組織について考える。 基本的な組織形態とその特徴についてノートを整理する。	2 2
第 10 回	組織と人員配置	人員配置について考える。 人員配置の方法と留意点についてノートを整理する。	2 2
第 11 回	企業と環境	企業と環境について考える。 実例を元に企業と環境の関係を整理する。	2 2
第 12 回	企業と戦略	企業と戦略について考える。 実例を元に企業と戦略について整理する。	2 2
第 13 回	企業の社会的責任	企業の社会的責任について考える。 企業の社会的責任の考え方についてノートを整理する。	2 2
第 14 回	まとめと試験	講義についてノートを整理し直す。 理解が不十分だった点を見直す。	2 2

2	会計学入門	LM-B-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Accounting		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 川島 和浩			
授業の達成目標			
<p>貸借対照表や損益計算書などの財務諸表は、会計情報利用者が適切な判断と意思決定をするために必要な書類であり、社会人にとって必須の知識となっています。本授業では、会計情報の良き利用者になるため、会計学とはどのようなものであるか、経済社会でどのように役立ち、また、どのような限界があるかを理解することを目標にしています。</p>			
授業の概要			
<p>会計学は、複式簿記を基礎として、財務会計、原価計算、会計監査、管理会計、経営分析などの会計分野が発展してきました。このような状況のもとで、会計理論が構築され、会計基準が確立して、企業活動における経済的基盤が支えられています。本授業では、会計学の体系を学びながら、会計情報の読み方の理解に重点を置いています。また、実際の企業行動が、会計情報にどのように反映されているのかを学びます。なお、授業時間中に、学生の理解度を確認するために、学生のスマートフォンあるいはパソコンを利用して、Formsによる回答をしてもらいます。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
吉見宏編著(2022)『ビギナーズ会計学』中央経済社。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回の授業レポート(40%)、課題レポート(20%)、期末試験(40%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート・課題については、WebClass および次回の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

2	会計学入門	LM-B-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Accounting		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	会計学の世界	会計学の隣接分野である経営学、経済学、法学、数学についての関連性について調べてみる。 一般的な会計学の学び方について確認をしてみる。	2
第2回	会計史	複式簿記の歴史について調べると同時に、損益計算方式に変化についても調べてみる。 会計技術や会計制度の進歩とともに株式会社がどのようにして発展してきたか、その特徴を確認してみる。	2
第3回	簿記	複式簿記の勘定記入法について調べてみる。 簿記の役割が経営成績を明らかにする損益計算書の作成と、財政状態を明らかにする貸借対照表の作成にあることを確認してみる。	2
第4回	会計制度	日本の会計制度が、会社法、金融商品取引法、法人税法の3つの法律によって体系化されていることを調べてみる。 関心のある企業のHPから、有価証券報告書を手がかりとして、貸借対照表と損益計算書の開示情報を確認してみる。	2
第5回	財務会計	企業の経営者と企業を取り巻く利害関係者(ステークホルダー)とが、どのような利害関係にあるかを調べてみる。 外部報告会計である財務会計のもとで、貸借対照表における流動・固定の区分や損益計算書における利益計算区分について確認してみる。	2
第6回	原価計算	株式会社の発展になかで原価計算がどうして必要になったかについて調べてみる。 原価計算基準で規定されている原価計算の目的について確認してみる。	2
第7回	会計監査	会計監査の意義と役割について調べるとともに、日本の会計監査制度について調べてみる。 公認会計士が行う会計監査の領域が拡張するなかで、監査の保証業務がどのように行われているかを確認してみる。	2
第8回	管理会計	内部報告会計である管理会計は、会計法規を遵守する財務会計とは異なり、会計情報の目的適合性が重要であることと、経営計画と予算の関係について調べてみる。 原価低減と利益管理の関係とともに、新たな管理会計手法の導入事例について確認してみる。	2
第9回	経営分析	経営分析の方法として時系列比較や同業他社比較のもとで、売上高利益率や資本利益率など、どのような経営指標があるかについて調べてみる。 関心のある企業のHPから有価証券報告書をダウンロードして経営分析を行い、経営指標の数値を確認してみる。	2
第10回	公会計	政府や自治体などの公的部門やNPO法人、学校法人などが公表する財務諸表について調べてみる。 関心のある自治体やNPO法人、学校法人のHPから計算書類や財務諸表をダウンロードして財産管理がどのようになされているかを確認してみる。	2
第11回	環境・CSR会計と統合報告	関心のある企業のHPから、情報開示されている環境会計やCSR会計、サステナブル会計を調べてみる。 関心のある企業のHPから、財務情報と非財務情報を統合した統合報告書をダウンロードして経営者のメッセージが目指す企業の存在価値について確認してみる。	2
第12回	会計理論	一般的な理論の構造である、帰納法と演繹法について調べてみる。 会計学における帰納法と演繹法を確認し、実証理論と規範理論について確認してみる。	2
第13回	会計実務	企業経営のもとで体系されている組織構造とそこでの会計の役割について調べてみる。 経理部における会計の機能と役割について確認してみる。	2
第14回	会計学入門の振り返りの授業を行い、理解を確認するために期末試験を実施する	授業ノート等により授業内容の理解を深めて期末試験に備える。 期末試験に出題した問題について再確認をしてみる。	2

3	数学基礎	LM-C-101	選択 2単位 1 年前期
	Basic Mathematics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年1組、1年2組 青山 純 野崎 壽彦			
授業の達成目標			
経営学・経済学を学ぶ上で必要な、関数と微分についての知識と計算力を身につける。			
授業の概要			
基本的な関数および、微分の基本と応用を学ぶ演習も取り入れていく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「大学新入生のための数学入門」増補版 石村園子著 共立出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
中間試験・期末試験(70%)、授業中に実施する小テスト(30%)で評価し、60点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストは採点結果を返却し、模範解答は支援講座で解説する。			
備考			

3	数学基礎	LM-C-101	選択 2単位 1 年前期
	Basic Mathematics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	数と式の計算 (四則演算・繁分数)	数式の四則演算・繁分数について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第2回	数と式の計算 (展開・因数分解・平方根)	多項式の展開・因数分解・平方根について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第3回	数と式の計算 (分数式・部分分数展開・無理式)	分数式・部分分数展開・無理式について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第4回	方程式 (連立1次方程式・代数方程式)	連立1次方程式・代数方程式について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第5回	関数とグラフ (直線・放物線)	直線・放物線の方程式とグラフについて教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第6回	関数とグラフ (円・楕円と双曲線)	円・楕円の方程式とグラフについて教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第7回	不等式 (2次不等式・領域)	2次不等式・不等式の表す領域について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第8回	これまでのまとめと中間試験	これまでの内容について教科書や講義中の課題を見直し予習する。 中間試験で解答できなかった項目を復習する。	2
第9回	数列 (等差数列・等比数列)	等差数列・等比数列等についてプリント教材を読み疑問点を整理し予習する。 学習資料の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第10回	微分 (微分係数・導関数・微分計算)	微分係数・導関数・微分計算について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第11回	微分 (関数の増減とグラフ)	関数の増減とグラフについて教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第12回	順列・組合せ	順列・組合せについて教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第13回	確率	確率・期待値について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第14回	これまでのまとめと試験	これまでの内容について教科書や講義中の課題を見直し予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2

4	心理学入門	LM-D-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Psychology		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
以下の4点を理解することを目標とする。①人間がどのようにして外界を理解しているのか②自分をよりよく理解するためにはどうすればいいのか③他人を理解し、良い関係を保つためにはどうすればいいのか④多くの人々の行動や嗜好を調べるためにはどうすればいいのか			
授業の概要			
本講義では、心理学のさまざまな分野の研究を概説する。特に、“人間の情報処理的側面の理解”、“自己理解”、“他者理解と対人認知”、“心理測定”という4つの項目に焦点を当て、講義を進める。			
授業の理解度を調べるために、各回の授業の中でLMSを用いて小テストや課題を実施する。また、時折授業の最中にMicrosoft Formsを用いてクイズやアンケートを実施し、リアルタイムにフィードバックする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「図説心理学入門」 齊藤勇著 誠信書房			
参考書等			
成績評価方法・基準			
予習の有無を書くための確認テストおよび授業中に提示する課題(40%)と学期末テスト(60%)の成績に基づいて評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
確認テストや授業中に提示する課題はすべて LMS を用いて実施し、レポートのフィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

4	心理学入門	LM-D-101	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Psychology		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	心理学とは何か	教科書の序章(p1-12)を熟読し心理学の研究对象や心理学の分野について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第2回	心理学の歴史	LMSに掲載している資料を熟読し心理学の歴史について予習する。資料を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第3回	感覚・知覚	教科書の第1章 §1~ §5(p13-28)を熟読し、人間の感覚と知覚について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第4回	認知	教科書の第1章 §6~ §8(p28-39)を熟読し、知覚より高次な過程を含む認知について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第5回	欲求と動機付け	教科書の第2章 §1~ §4(p40-54)を熟読し、行動の源となる欲求や動機付けについて予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第6回	感情	教科書の第2章 §5~ §4(p54-65)を熟読し、感情について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第7回	学習・思考	教科書の第3章 §1~ §2(p65-94)を熟読し、人間を含む生物の学習過程について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第8回	社会的学習・記憶	教科書の第3章 §3~ §4(p94-111)を熟読し、記憶について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第9回	発達	教科書の第4章 §1~ §2(p112-131)を熟読し、人間の発達過程について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第10回	発達と教育	教科書の第4章 §3~ §4(p131-141)を熟読し、発達と教育の関わりについて予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第11回	心のやまいとパーソナリティ	教科書の第5章(p142-167)を熟読し、心のやまいとパーソナリティについて予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第12回	対人認知・対人関係	教科書の第6章(p168-182)を熟読し、対人認知と対人関係について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第13回	社会心理	教科書の第6章(p182-195)を熟読し、社会の中で人間の行動について予習する。教科書を読んで分からない点や疑問点を見出しておく。講義を受講し、新たにわかったことなどをまとめ、理解を深める。また、小テストで間違った点や分からなかった点については教科書をもう一度確認する。	2 2
第14回	まとめと試験	予め14回までの講義内容をまとめ、質問項目等を洗い出しておく。試験を受けた上で理解が足らなかった点に関しては教科書を読みもう一度復習する。	2 2

5	コミュニケーション入門	LM-D-102	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Communication		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 宮曾根 美香			
授業の達成目標			
コミュニケーションについての諸理論および特徴について学び、効果的にコミュニケーションを行う方法を学習する。			
授業の概要			
最初に自分のコミュニケーションについて振り返り、コミュニケーションとは何か、何故行うのかを考えてみる。続いてコミュニケーションの定義とレベル、特徴および複数のコミュニケーションモデルを学ぶ。さらに、コミュニケーションの構成要素である言語および非言語メッセージ、ノイズ他について特徴と重要性を理解する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、外資系企業における実務経験と、コミュニケーションの分野で活躍した実績と経験を活かし、授業において、対人およびビジネスで必要とされるコミュニケーション能力の養成を目指す。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 『コミュニケーション学 その展望と視点 増補版』 末田清子/福田浩子 松柏社 2,000 円+税 その他ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
中間試験 50%および期末試験 50%で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出された課題についてはコメントを書いて返す。必要な場合授業で全体的なコメントをする。			
備考			

5	コミュニケーション入門	LM-D-102	必修 2単位 1 年前期
	Introduction to Communication		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス 授業の達成目標、概要、進め方、評価、教科書等について説明。	教科書をそろえ、目次の章立てを確認する。	2
		ガイダンスの内容をまとめる。	2
第 2 回	コミュニケーションの定義・特徴・レベル	教科書の第 1 章を読んで整理する。	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 3 回	コミュニケーションモデル	教科書の第 3 章を読んで整理する。	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 4 回	対人コミュニケーションの定義・特徴・構成要素	教科書の第 2 章を読んで整理する。	2
		対人コミュニケーションについて要点と疑問点を整理する。	2
第 5 回	言語の特徴とインパクト	教科書の第 5 章、第 6 章を読んで言語コミュニケーションとコミュニケーション能力についてまとめる。	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 6 回	言語メッセージ、コミュニケーションの場と背景	教科書の第 7 章、第 9 章を読んで整理する。	2
		言語コミュニケーション、およびコンテキストについて要点と疑問点を整理する。	2
第 7 回	まとめと試験	試験範囲について学習する。	2
		試験範囲の設問の解答を確認する。できなかったところは復習しない。	2
第 8 回	非言語コミュニケーションの特徴と機能	教科書の第 10 章、第 11 章を読んで整理する。	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 9 回	非言語コミュニケーションのタイプ	教科書の第 12 章を読んで整理する。	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 10 回	非言語メッセージ	教科書の第 13 章を読んで整理する。	2
		非言語コミュニケーションについて言語コミュニケーションと対比させながら要点と疑問点を整理する。	2
第 11 回	自己概念	自己概念について調べてまとめる、	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 12 回	コミュニケーションと自己概念	自己開示と自己呈示について調べてまとめる、	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 13 回	異文化間コミュニケーション	教科書の第8章8.1を読んで整理する。	2
		講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2
第 14 回	まとめと試験	試験範囲について学習する。	2
		試験範囲の設問の解答を確認する。できなかったところは復習しない。	2

6	英文法基礎	LM-F-101	必修 2単位 1 年前期
	Basic English Grammar		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 佐藤 夏子 設楽 宏二			
授業の達成目標			
高校卒業程度の英文法を修得する。			
授業の概要			
高校卒業までに必要な文法項目で重要な部分について解説し、問題演習を行う。小テストを数回ごとに実施する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は授業開始までに指示する。(参考書) 高山英士著 () ALL IN ONE Basic (Linkage Club)			
参考書等			
ALL IN ONE 高山英士 Linkage Club 2007 カラー改訂版 世界一わかりやすい英文法の授業 関正生 KADOKAWA 2018			
成績評価方法・基準			
試験 (50%)、小テスト (30%)、提出課題 (20%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出課題や試験、小テストなどへのフィードバックはLMS および授業内で行う。			
備考			

6	英文法基礎	LM-F-101	必修 2単位 1 年前期
	Basic English Grammar		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	自動詞・他動詞	自動詞・他動詞に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、自動詞・他動詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 2 回	形容詞・副詞・前置詞	形容詞・副詞・前置詞に関する教科書の問題を解いておく。 復習として授業ノートを見直し、形容詞・副詞・前置詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 3 回	名詞・冠詞	名詞・冠詞に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、名詞・冠詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 4 回	完了形	完了形に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、完了形の間違った問題を解き直す。	2 2
第 5 回	助動詞	助動詞に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、助動詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 6 回	受動態	受動態に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、助動詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 7 回	不定詞	不定詞に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、受動態の間違った問題を解き直す。	2 2
第 8 回	動名詞	動名詞に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、不定詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 9 回	分詞	分詞に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、動名詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 10 回	比較	比較に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、分詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 11 回	関係詞	関係詞に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、比較の間違った問題を解き直す。	2 2
第 12 回	仮定法	仮定法に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、関係詞の間違った問題を解き直す。	2 2
第 13 回	否定表現	否定表現に関する教科書の問題を解いておく。 授業ノートを見直し、仮定法の間違った問題を解き直す。	2 2
第 14 回	まとめと試験	まとめテストの練習をする。 まとめテストにおいて間違った問題を解き直す。	2 2

7	経営コミュニケーションセミナーⅠ	LM-J-101	必修 1単位 1 年前期
	Management and Communication Seminar I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 猿渡 学 宮曾根 美香 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 大石 加奈子 小祝 慶 紀 川島 和浩			
授業の達成目標			
①本学科での学習に必要なスキルと心構えを学ぶ。② 4 年間の目標を明確にし、就職に対する意識や必要な知識・スキルを涵養する。			
授業の概要			
大学での学習、生活一般についての概説と指導から始まり、さまざまな課題を通して、これから4年間経営コミュニケーション学科で学ぶために必要な学習スキル・知識・態度を獲得する。その中で、これからの社会において重要となる人工知能の基礎についても学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
必要に応じて随時知らせる。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
少人数学習評価 (60%) とその他の受講レポート等評価 (40%) を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各所属セミナー教員を通して、輪読評価や受講レポートなどについて添削などによって到達度を知らせる。			
備考			

7	経営コミュニケーションセミナーⅠ	LM-J-101	必修 1単位 1 年前期
	Management and Communication Seminar I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	履修登録と学内情報システムについての説明	シラバスや学生生活など、大学からの配布物を読み、疑問点などを整理することを予習とする。	0.5
第2回	学びに関するリレー講義 その1	ポータルサイトの利活用について習熟し、シラバスなどをもとにして履修計画を立案することを復習とする。	0.5
第3回	学びに関するリレー講義 その2	講演レジュメを読むことを予習とする。	0.5
第4回	学びに関するリレー講義 その3	講演レジュメを読むことを予習とする。	0.5
第5回	START (学修成果可視化システム) 入力・個人面談	講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第6回	少人数学習① 輪読① -1	生涯の目標、大学4年間の目標、1年生前期の目標(具体的に何を、何のために、期限や数値で示しながらどのように実施するか)を記入できるようにまとめておくことを予習とする。	0.5
第7回	少人数学習② 輪読① -2	面談で指摘された部分を修正して目標設定を明確にすることを復習とする。	0.5
第8回	職務適性テスト	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。	0.5
第9回	少人数学習③ 輪読② -1	少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第10回	少人数学習④ 輪読② -2	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。	0.5
第11回	SPI 講座	少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第12回	少人数学習⑤ 輪読③ -1	テキストの範囲を読んでおくことを予習とする。	0.5
第13回	少人数学習⑥ 輪読③ -2	授業で学習した問題を再度解いてみることを復習とする。	0.5
第14回	自己発見レポートフォローアップ・START (学修成果可視化システム) ・個別面談	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。	0.5
		就きたい職業に必要な勉強や資格、資質を調べることを予習とする。この Semester の学習ならびに大学生活を振り返り、STAR (学修成果可視化システム) に入力する。	0.5
		個別面談によりこの期を振り返り、指摘されたことをもとにしてSTAR (学修成果可視化システム) に修正を行い、次の Semester における目標などを設定することを復習とする。	0.5

8	組織心理学	LM-A-102	必修 2単位 1年後期
	Organization Psychology		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
様々な組織に関わる個人の心理を理解し、それを日常生活や組織経営に役立てられるようになること。			
授業の概要			
本講義では、我々が様々な組織の一員としてよりよく生きるために必要な心理学的知識について解説を行う。具体的には、個人のモチベーション、リーダーシップ、集団力学等を取り上げ、多くの実例を交えながらそれらの概念について学ぶこととする。これによって、自分が所属する組織内での様々な問題に対し、心理学的見地から自分の言葉で考えられるようになることを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメガバンクでの勤務経験を活用し、組織における個人の行動や心理について、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

8	組織心理学	LM-A-102	必修 2単位 1年後期
	Organization Psychology		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	組織心理学とは何か	組織心理学を学ぶ意味について考える。 組織心理学の学問的特徴についてノートを整理する。	2 2
第2回	人間の行動と知覚	知覚とは何かを考える。 人間の知覚の特性についてノートを整理する。	2 2
第3回	態度と組織	態度について考える。 態度変容の理論についてノートを整理する。	2 2
第4回	モチベーションの内容理論	モチベーションについて考える。 内容理論の特徴と問題点についてノートを整理する。	2 2
第5回	モチベーションの過程理論	モチベーションについて考える。 過程理論の特徴と問題点についてノートを整理する。	2 2
第6回	個人の意思決定	個人の意思決定について考える。 個人の意思決定プロセスについてノートを整理する。	2 2
第7回	集団力学	集団力学について考える。 集団力学が組織に及ぼす影響についてノートを整理する。	2 2
第8回	コミュニケーション	コミュニケーションのプロセスについて考える。 コミュニケーションの促進・阻害要因についてノートを整理する。	2 2
第9回	役割と規範	組織における役割の意味について考える。 役割や規範が個人に及ぼす影響についてノートを整理する。	2 2
第10回	権力と政治	権力の源泉について考える。 組織における権力と政治の概念についてノートを整理する。	2 2
第11回	リーダーシップ	リーダーシップについて考える。 リーダーシップの代表的な理論についてノートを整理する。	2 2
第12回	集団的意思決定	集団での意思決定について考える。 リーダーシップの代表的な理論についてノートを整理する。	2 2
第13回	組織変革	組織の変革について考える。 組織変革の重要性とそのプロセスについてノートを整理する。	2 2
第14回	まとめと試験	講義内容についてノートを見直す。 理解が不十分だった点を見直す。	2 2

9	経済学入門	LM-C-102	必修 2単位 1年後期
	Introduction to Economics		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎部分を理解する。			
授業の概要			
ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎部分を扱う。上級学年で開講される「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」が本科目の続編となっており、本科目に加えて両科目を履修することにより、学部レベルのミクロ・マクロ経済学の標準的内容が網羅される。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書	講義ノートを配付する。		
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト(40%) + 試験(60%)で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては、webclassにてフィードバックを行う。			
備考			

9	経済学入門	LM-C-102	必修 2単位 1年後期
	Introduction to Economics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	経済学とはどのような学問か	経済学という学問分野の性格について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第2回	ミクロ経済学を学ぶための準備	ミクロ経済学において使用される簡単な数学について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第3回	効用関数	効用関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第4回	予算制約式	予算制約式について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第5回	価格・所得の変化と効用最大化点	価格・所得の変化と効用最大化点について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行うことを復習とする。	2 2
第6回	効用最大化(計算による説明)	効用最大化(計算による説明)について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第7回	中間のまとめと試験	それまでに学習した内容について理解し、復習する。 内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第8回	マクロ経済学とは・GDPの三面等価性	マクロ経済学という学問およびGDPの三面等価性について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第9回	消費・貯蓄・投資	消費・貯蓄・投資について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第10回	消費関数	消費関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第11回	総需要関数	総需要関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第12回	45度線図: 45度線の意味	45度線の意味について調査・研究を行う。 ことを予習とし、講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第13回	45度線図: 均衡と調整過程	45度線図について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどの作成を行う。	2 2
第14回	まとめと試験	これまでに学んだことを整理する。 授業中に解いた試験問題を復習する。	2 2

10	対人コミュニケーション	LM-D-203	必修 2単位 1年後期
	Interpersonal Communication		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 宮曾根 美香			
授業の達成目標			
対人コミュニケーションに関する理論的知識を実生活に応用できるコミュニケーション能力を養う。			
授業の概要			
対人コミュニケーションについての基本的理論の他、自他を尊重するコミュニケーションの方法(アサーティブ・コミュニケーション)についての理論的学習と演習を行なう。アサーティブ・コミュニケーションに関連して、聴き方、話し方についても学ぶ。さらに、職場(組織)におけるコミュニケーション、ビジネスで必要とされるコミュニケーションスキルについて理解を深める。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、外資系企業における実務経験と、コミュニケーション分野で活躍した実績と経験を活かし、授業において、対人およびビジネスで必要とされるコミュニケーション能力の養成を目指す。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 『コミュニケーション学 その展望と視点 増補版』 末田清子/福田浩子 松柏社 2,000 円+税 その他ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
『人間関係を学ぶための 11 章』 中西雅之 くろしお出版 1,400 円+税			
成績評価方法・基準			
中間試験 50%および期末試験 50%で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出された課題にはコメントをして返す。必要に応じて授業で全体的コメントをする。			
備考			

10	対人コミュニケーション	LM-D-203	必修 2単位 1年後期
	Interpersonal Communication		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス、アサーティブ・コミュニケーション1	授業シラバスをWebClassで確認してくる。 授業で学んだことをまとめる。	2 2
第2回	アサーティブ・コミュニケーション2 ~ストレスとの関連から~	アサーティブ・コミュニケーションについて調べてくる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第3回	アサーティブ・コミュニケーション3 ケーススタディ、	アサーティブ・コミュニケーションの実践方法について調べてくる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第4回	聴くこと2、演習	コミュニケーション行動としての「聴く」について調べてくる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第5回	聴くこと3、演習	良い聴き方について調べてくる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第6回	感情	感情および感情表現について調べてくる 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第7回	まとめと試験話すこと、演習	試験範囲を学習する。 試験の設問の解答を確認する。できなかったところは復習しなおす。	2 2
第8回	話すこと、演習	コミュニケーション行動としての「話す」について調べてくる 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第9回	グループ・ディスカッション(意見の聴き方、述べ方、質問の仕方等)	グループ・ディスカッションの仕方について調べてくる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第10回	組織におけるコミュニケーション、会社の中で働くことについて	職場ではどのようなコミュニケーションをとることになるのか、調べて整理する。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第11回	プレゼンテーションスキル	プレゼンテーションとは何か、どのようにするかを調べてくる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第12回	コンフリクトについて	コンフリクトとは何かを調べ、今自分の周囲にあるコンフリクトについてまとめてみる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第13回	ウェルビーイング(Well-being)について	ウェルビーイングについてどのようなことを指すのか、何が必要かを調べてくる。 講義内容を振り返り要点と疑問点をまとめる。	2 2
第14回	まとめと試験	試験範囲を学習する。 試験の設問の解答を確認する。できなかったところは復習しなおす。	2 2

11	メディアコミュニケーション入門	LM-E-101	必修 2単位 1年後期
	Introduction to Media Communication		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 猿渡 学			
授業の達成目標			
<p>「メディアコミュニケーション」とは何かを学習し、情報伝達のためのシステムとしてのコミュニケーションに関する幅広い知識を活かしながら、古今東西のメディアについて分析を行うことを目標とする。特に「広告」についての学習を通して「音声」「画像」「動画」に代表される表現メディアに触れ、TVCF やプロモーション映像などを広告の観点から考察できる。また技術面での理解を深めるために「映像音響処理技術者資格認定」の取得のための基礎学習を習得する。</p>			
授業の概要			
<p>「メディア論」についての研究史を概観し、古今東西の「広告」について資料などを提示しながら歴史的学習を進めた後に、実際の「VCF」などを紹介しながら映像が持つ時代性について考える。特に「音声」「画像」「動画」についてはその技術的な側面も踏まえる（「映像音響処理技術者資格認定」の取得のための基礎学習）。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義プリントなどを配付する。講義で取り扱う映像や参考書などは別途指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義中に数回のミニレポート(A:10ポイントのものを3回)を実施するとともに、最終レポートを課す(B)。Aについては30ポイント、Bについては70ポイントを満点とし、(A)と(B)の合算によって最終評価とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出されたレポートや復習課題(提出されたもの)については、講義中又はLMSにてフィードバックをおこなう。			
備考			

11	メディアコミュニケーション入門	LM-E-101	必修 2単位 1年後期
	Introduction to Media Communication		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	メディアとは何か?	「メディア」というタームは頻繁に使用されているが、その意味について様々な見解があることを紹介しながら、改めて「メディア」という概念を精査する。事前に配付する資料に基づく学習を予習課題とする。 講義の内容をまとめることを復習課題とする。	2 2
第2回	メディアの誕生と発展	第1回の講義を受けて「メディア」がどの時点で誕生し、どのように発展したのかを概観する。事前に配布する資料に基づく学習を予習課題とする。 メディアの歴史を年表などでビジュアル化することを復習課題とする。	2 2
第3回	メディア論：広告戦略とは何か?	マーケティングの一つである表現戦略について、他の戦略との関連性を解説する中で、歴史的展開から現在的問題について概観する。事前に配付する資料で予習課題とする。 広告とプロパガンダについて、それらの歴史をビジュアル化することを復習課題とする。	2 2
第4回	メディア論：広告とは何か?	身の回りにおける紙媒体の広告をピックアップして、その背景を表現戦略という観点から分析する。また広告がマーケティング戦略のどのポジションなのかを学習する。紙媒体の広告を一つピックアップして、その広告主は誰かなどを調査することを予習課題とする。 講義の内容を踏まえたレポートを作成することを復習課題とする。	2 2
第5回	表現メディアの持つ特性：広告戦略から見るCFの表現	広告戦略に基づいて展開された過去のCFについて、その戦略の分析を行い、CFの持つ文化的機能について学習する。予習課題として指定されたCFについて、その広告戦略がどのようなものであったのかをまとめることを予習課題とする。 文化的機能について、実例を挙げながら各自なりにまとめることを復習課題とする。	2 2
第6回	表現メディアの可能性：映像の原理	映像の原理について、視覚認識という観点から解説を行う。映像技術史についても触れる。事前に指定されたいくつかの映像を見ておくことを予習課題とする。 映像の原理についてまとめることを復習課題とする。	2 2
第7回	表現メディアの可能性：映像制作のワークフロー	映像制作のワークフローを解説し、実際に制作された作品を紹介しながら映像が出来上がるまでのプロセスを学ぶ。事前に指定されたいくつかの映像を見ておくことを予習課題とする。 講義内容をまとめることを復習課題とする。	2 2
第8回	表現メディアの可能性：映像の文法(撮影編)	映像の文法について解説を行い、実際に制作された作品を素材として、ショット分析やカット割りについて説明を行う。事前に指定された動画を鑑賞しファーストインプレッションについてまとめておくことを予習課題とする。 ファーストインプレッションがどのような映像の文法によってもたらされたのかを分析することを復習課題とする。	2 2
第9回	表現メディアの可能性：映像の文法(編集編)	全ての情報は編集される。編集とは何かを考え、特に映像における編集の持つ重要性について学習する。事前に配付する資料を熟読することを予習課題とする。 講義で紹介した映像の分析を行うことを復習課題とする。	2 2
第10回	表現メディアの可能性：色彩・光	色彩の原理について解説を行うとともに、色が持つ意味について、社会や歴史との関連性の中で説明をおこなう。色の持つ文化性について、指定された映像を視聴し、調査することを予習課題とする。 色についての理論をまとめることを復習課題とする。	2 2
第11回	表現メディアの可能性：音響	音の原理などについて紹介する。音が映像に与える影響や、実際の集音作業のポイントなどについて機器を用いて紹介する。高校物理での「音波」などについて調べておくことを予習課題とする。 映像で使用する音についてまとめることを復習課題とする。	2 2
第12回	写真について	写真技術に関する歴史を紹介し、フィルムとデジタルの関連性について解説する。さらに写真における構図(フレーミング)と映像の文法の関連性について説明する。事前に指定された課題に基づく写真撮影を予習課題とする。 予習課題での写真についての自己分析を復習課題とする。	2 2
第13回	メディアとしての写真	写真がメディアであるとはどういう意味なのかを解説する。これまでの講義の内容をまとめることを予習課題とする。 写真がメディアであることを理論的に証明することを復習課題とする。	2 2
第14回	「メディア」をプロデュースするということ：企画	これまでの講義内容を踏まえ企画立案をおこなう。テーマなどについては講義中に指定する。事前に配付する資料などを通して、映像制作のワークフローを確認することを予習課題とする。 企画立案を復習課題とする。	2 2

12	ドキュメントコミュニケーション	LM-F-204	選択 2単位 1年後期
	Writing and Document Communication		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		○ 教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 二瀬 由理 大石 加奈子			
授業の達成目標			
効果的なレトリックコミュニケーションを行う上での文章の特徴と表現方法について理解を深め、ビジネス現場で活用できる技術を身につける。			
授業の概要			
ビジネスの場で求められるレトリックコミュニケーション能力を身につけるために、日本語および英語による文書の作成方法を学ぶ。まず、ロジカルな表現方法の基礎を修得し、続いてビジネス現場で日常的に作成する文書の表現トレーニングを協調学習により実践する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書等は授業において指示する。必要な講義資料はWebClassに載せる。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
各回の授業での課題を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中に提示する課題等はすべて LMS を用いて実施し、フィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

12	ドキュメントコミュニケーション	LM-F-204	選択 2単位 1年後期
	Writing and Document Communication		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス 科目の達成目標、概要、進め方、評価方法、テキスト等について説明。	シラバスに事前に目を通し、授業で扱う内容を把握する。	2
第2回	ロジカルシンキングのトレーニング 1	ビジネス場面における書くコミュニケーションの目標を明確にする。 論理的でわかりやすい文の条件を調べる。	2
第3回	ロジカルライティングのトレーニング 2	授業で習ったことを踏まえて、論理的でわかりやすい文の条件についてまとめる。 論理的でわかりやすい文書を作成するプロセスを調べる。	2
第4回	ロジカルライティングのトレーニング 3	授業資料を熟読し、ロジカルライティングに必要な注意事項を理解する。資料を見て理解できない点、疑問点を洗い出しておく。 授業を受講し、新たに分かったこと、小テストで回答できなかったところや自信のなかったところについて資料を見直す。	2
第5回	手紙の書き方基礎と実習	様々な相手に手紙を書くことを想定し、書く内容や書き方を予めイメージし書き出しておく。 授業で学んだ内容を整理し、ノートにまとめながら復習する。	2
第6回	Eメールの書き方の基礎と実習	様々な場面でEメールを出すことを想定し、書く内容や書き方を予めイメージし書き出しておく。 授業で学んだ内容を整理し、ノートにまとめながら復習する。	2
第7回	簡単な英文レター	英文レターを出すことを想定し、書く内容や書き方を予めイメージし書き出しておく。 授業で学んだ内容を整理し、ノートにまとめながら復習する。	2
第8回	ビジネス文書の基本知識 1	社会に出てどのような文書を書くことになるのかイメージし、どう書けばよいか予め考えておく。 講義で学んだ内容を整理し、ノートにまとめながら復習する。	2
第9回	ビジネス文書の基本知識 2	ビジネス文書の種類と書き方のポイントを調べる。 講義で学んだ内容を整理し、ノートにまとめながら復習する。	2
第10回	ビジネスで役立つ敬語とお礼の表現	敬語とお礼の表現を調べる。 講義で学んだ内容を整理し、ノートにまとめながら復習する。	2
第11回	ビジネス文章に必要な文法と謝罪の表現	ビジネス場面を想定し、どのようなルールやマナーが存在するか予めイメージし書き出しておく。 講義で学んだ内容を整理し、ノートにまとめながら復習する。	2
第12回	見てわかる文書の作成1	配付資料を読み、予習する。 学んだ事からを用いて練習課題を行う。	2
第13回	見てわかる文書の作成2	配付資料を読み、予習する。 学んだ事からを用いて練習課題を行う。	2
第14回	まとめと課題	授業を通じて得たことをまとめてくる。 全体の学習内容を復習する。	2

13	クリティカルシンキング	LM-F-103	選択 2単位 1年後期
	Critical Thinking		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 佐藤 飛鳥			
授業の達成目標			
論理的な思考法(ロジカルシンキング)をもとに、批判的な思考(クリティカルシンキング)をすることにより、客観的に相手の意見や情報を捉えてより正しい結論を導き、決断するための力を養う。違和感を感じたり、信憑性が不確かな事柄に対して疑問を持ち、単純に「批判」して終わらせることのないよう、その結論が導き出された前提、目的、根拠を効率的に知った上で正しさを判断し、最善の答えを導き出せるようにする。その際、相手を説得したり、win-win 関係に持ち込んだりして人間関係やビジネスに活かすことができる実践的な力をつけることが最終目標である。			
授業の概要			
ビジネスパーソンに必要な不可欠な論理的思考法、コミュニケーション方法、仮説構築法、問題解決法のベースを学ぶ。前半では MECE などの論理的思考法や批判的思考法を教授し、後半ではグループワークでビジネス上直面する架空の課題を取り上げ、取得した情報から説を立て、検証し、成果につながる自分自身の主張を相手に納得してもらえるように伝えるために効果的な方法を学ぶ。理論を抑えた上実践的なワークを通じてトレーニングし、考え方と伝え方のベースを身につける授業である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない。必要に応じて適宜ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義内で指示するワーク / ディスカッションの取り組み状況 (10%) や発言内容 (10%)、ワークシートの完成度 (20%)、最終プレゼンテーション資料 (60%) を合計して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
ワークへのフィードバックはLMS 上で行い、全体への改善点は次回の授業の冒頭で解説する。			
備考			

13	クリティカルシンキング	LM-F-103	選択 2単位 1年後期
	Critical Thinking		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	クリティカルシンキングとは：重要性と方法論	クリティカル・シンキングの書籍を読む。 インターネットで用語検索を行ってキーワードを復習をする。	2 2
第2回	ピラミッド・ストラクチャー	ピラミッド・ストラクチャーを調べる。 仮説・検証を行いワークの内容を完成させる。	2 2
第3回	イシューの特定	ニュースを見て、解決すべき社会問題を 1 つ設定する。 ワークでテーマとなったイシューの問題点を 5 つ挙げる。	2 2
第4回	演繹的思考、帰納的思考	(予習) 演繹：三段論法の文を 1 つ、帰納：3 つの観察事項から 1 つの結論を考える。 (復習) 演繹法・帰納法ともに 3 つ考える。	2 2
第5回	ゼロベース思考、フレームワーク思考、オプション思考	(予習) 各思考の内容を下調べする。 (復習) 講義ノートをまとめ直す。	2 2
第6回	現状把握：分析対象の捉え方、全体構成、構成要素	ばらつき、インバクト、差分、法則性、特異点、変曲点を調べる。 キーワードに注目して講義ノートをまとめ直す。	2 2
第7回	ロジックツリー・MECE (モレなくダブリなく)、マトリックス、プロセス	MECE (読み方はミッシーまたはミーシー) の概念を調べる。 講義中に行ったワークのテーマを MECE に捉え直す。	2 2
第8回	因果関係把握のステップ	日常生活の中で最近経験した「問題」を 1 つ設定する。 ワークのテーマについて因果の構造化を行う。	2 2
第9回	事実を疑う、問題の本質は何か：So What?、Why?、True?	ワークのテーマについて So What?、Why?、True? を 5 回ずつ繰り返す。 問題の本質を捉えたイシューの解決策を提案する。	2 2
第10回	よい仮説を立てる	新奇性・独自性がある仮説を立てる。 イシューから「ずれ」がなく、具体的な行動・意思決定に役立つ仮説を立てる。	2 2
第11回	伝えるための言語化、文章化	相手に不快感を与えた経験を書き留める。 相手に不快を与えずに自分の主張を伝える文章を作成する。メールの書き方のルールにも注意して送信してみる。	2 2
第12回	相手を説得するために：説得のレバー、感情、規範、利得、コミュニケーション	説得が必要な場面を想定する。 説得のレバーを探し、相手の条件とのすり合わせを意識して文章を作成する。	2 2
第13回	Win-win 交渉とジョイント・プロフィット・マキシマイゼーション	取引相手とお互いにメリットのある交渉を考える。 これならば取引しても良いと思える妥協点(落とし所)を考え、取引相手のメリットと自社のメリットを文章化する。	2 2
第14回	効果的なプレゼンテーション 講義全体のまとめと最終プレゼンテーション資料作成の注意点	全ての講義ノートとワークシートに再度目を通して理解を深める。 最終プレゼンテーション資料を作成する。	2 2

14	統計学入門	LM-H-101	必修 2単位 1年後期
	Introduction to Statistics		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
現代社会は、さまざまな情報であふれている。このような多くの情報の中から、有用な見解を得るためには、統計的な知識や技術が必要とされる。本講義では、統計学の基礎を習得し、基本的な概念と方法について理解することを全般的な目標とする。さらに、その能力を身に付けた上で様々なデータから、自分の身の回りの問題点や地域社会の問題点を見出し、解決する糸口を考案する能力を身につけることを期待する。			
授業の概要			
本講義では、統計的資料の見方、記述統計値の意味と算出方法、確率の基礎概念、データのビジュアル化の方法、データ収集の手法、統計的仮説検定の考え方など統計調査の基盤となる考え方を学ぶ。			
授業の理解度を調べるために、各回の授業の中でLMSを用いて小テストや課題を実施する。また、時折授業の最中にMicrosoft Formsを用いてクイズやアンケートを実施し、リアルタイムにフィードバックする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
授業中に必要な資料を配布する			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績評価は、随時授業中に行う確認テストおよび授業中に提示する課題(20%)および中間テスト(20%)、学期末のテスト(60%)にもとづいて行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
確認テストや中間テストはすべて LMS を用いて実施し、レポートのフィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

14	統計学入門	LM-H-101	必修 2単位 1年後期
	Introduction to Statistics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：身の回りにおけるさまざまなデータ	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 講義で学んだことを整理し、統計学に対するイメージを持つ。	2
第2回	資料整理の一例：度数分布表	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 度数というデータの意味、度数分布表の意味、データを度数分布表にまとめる方法、ヒストグラムの作成方法を復習する。	2
第3回	データとは何か	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 講義で学んだデータの定義、種類、データの尺度水準を復習する。	2
第4回	記述統計(1) 代表値の種類、特性、算出方法	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 平均値、中央値、最頻値の特性、算出方法を復習する。	2
第5回	記述統計(2) 散布度の種類、特性、算出方法	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 偏差平方和、分散、標準偏差、範囲のそれぞれの意味と算出方法を復習する。	2
第6回	記述統計(3) 度数分布表から代表値、散布度の求め方	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 度数分布表にまとめられた結果から代表値(平均値、中央値、最頻値)の求め方、散布度(標準偏差)の求め方を復習する。	2
第7回	記述統計(4) 2変数の関係性	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 2変数の関係性を図示する”散布図(相関図)”の書き方、2変数の関係を示す記述統計量である共分散や相関係数の算出方法を復習する。	2
第8回	順列・組み合わせ	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 順列と組み合わせの違いを理解し、それぞれが算出できるようになるよう復習する。	2
第9回	確率の基礎	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 確率の概念を理解し、さまざまな事象の確率計算ができるようになるよう復習する。	2
第10回	データ分布の理解	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 統計学で使用する様々な分布(2項分布、t分布、カイ2乗分布など)の意味と使用方法を復習する。	2
第11回	標準正規分布と正規分布	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 標準正規分布と正規分布を利用して、ある一定の条件での確率を求める方法を復習する。	2
第12回	調査とサンプリング、データの推定	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 全数調査と一部調査の違いを理解したうえで、サンプリングの際に注意すべきこと、さらにサンプリングしたデータから母数を推定する上での基礎知識について復習する。	2
第13回	統計的仮説検定の基礎	LMSに提示する資料を熟読し、理解できない点や質問項目などを洗い出す。 統計的仮説検定の考え方、帰無仮説と対立仮説、統計的仮説検定で生じる誤り、有意確率などさまざまな検定を行う上で必要となる基礎知識をまとめ、復習する。	2
第14回	まとめと試験	これまでの講義を見直し、疑問点を予め明らかにしておく。 総まとめの試験問題の中で、分からなかった箇所や間違っただけの箇所を復習し、理解を深める。	2

15	経営コミュニケーションセミナーII	LM-I-102	必修 1単位 1年後期
	Management and Communication Seminar II		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
○オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 猿渡 学 宮曾根 美香 佐藤 夏子 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 大石 加奈子 小祝 慶 紀 川島 和浩			
授業の達成目標			
①将来のキャリアを意識し、自己の目標を設定できるようになること。②能動的に学習を進められる方法、態度を身につけること。			
授業の概要			
経営コミュニケーションセミナーIに引き続き、大学での学習、生活一般についての概説を行い、さまざまな課題を通して、経営コミュニケーション学科で学ぶために必要な学習スキル・知識・能力・態度を身につける。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
必要に応じて随時知らせる。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
少人数学習評価(60%)とその他の受講レポート等評価(40%)を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出されたレポートなどを個別指導などでフィードバックする。			
備考			

15	経営コミュニケーションセミナーII	LM-I-102	必修 1単位 1年後期
	Management and Communication Seminar II		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・START(学修成果可視化システム)入力・セミナーごとの個人面談	1年生後期の目標(具体的に何を、何のために、期限や数値で示しながらどのように実施するか)をSTART(学修成果可視化システム)に記入しておくことを予習とする。 面談で指摘された部分を修正してSTART(学修成果可視化システム)に記入する。目標設定を明確にすることを復習とする。	0.5
第2回	外部講師による講演会	講演レジュメに目を通すことを予習とする。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第3回	SPI 講座 ①	SPI テキストを学科の割り当てられた範囲を学ぶことを予習課題とする。 不明な点を整理し、SPIの学習計画を立案し、実行することを復習課題とする。	0.5
第4回	少人数学習① 輪読④ -1	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。 少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第5回	SPI 講座 ②	SPI テキストを学科の割り当てられた範囲を学ぶことを予習課題とする。 不明な点を整理し、SPIの学習計画を立案し、実行することを復習課題とする。	0.5
第6回	少人数学習② 輪読④ -2	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。 少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第7回	SPI 講座 ③	SPI テキストを学科の割り当てられた範囲を学ぶことを予習課題とする。 不明な点を整理し、SPIの学習計画を立案し、実行することを復習課題とする。	0.5
第8回	少人数学習③ 輪読⑤ -1	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。 少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第9回	4年生による就職ガイダンス	将来の進路について構想することを予習課題とする。 講義内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第10回	少人数学習④ 輪読⑤ -2	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。 少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第11回	SPI 講座 SPI テスト④	これまでのSPI講座で苦手分野を十分に振り返っておくことを予習課題とする。 不明な点を整理することを復習課題とする。	0.5
第12回	少人数学習⑤ 輪読⑥ -1	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。 少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第13回	少人数学習⑥ 輪読⑥ -2	参加するセミナー教員の指示に従い少人数学習の準備を予習とする。 少人数学習の結果をノートに整理し、レスポンスシートなどの記載を行うことを復習とする。	0.5
第14回	STAC 入力・個別面談	このセメスターの目標を達成できたかどうかを自己評価し、START(学修成果可視化システム)に記入しておくことを予習課題とする。 面談で指摘された部分を、START(学修成果可視化システム)において修正し、2年次以降の目標を立て、実現するための計画を立案することを復習課題とする。	0.5

16	簿記論	LM-B-202	必修 2単位 1年後期
	Bookkeeping		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 川島 和浩			
授業の達成目標			
企業活動の取引を貨幣額で記録・計算・整理して会計情報を作成し、複式簿記の基本的な構造を理解することができる。また、決算手続きにおける簿記一巡の会計処理を行うことができる。			
授業の概要			
商業簿記および工業簿記に関する簿記特有の勘定科目を理解し、勘定科目による経営管理のあり方を理解していく。また、複式簿記の会計理論によって作成された会計情報の意味やその限界について学んでいく。 なお、授業時間中に、学生の理解度を確認するために、学生のスマートフォンあるいはパソコンを利用して、Formsによる回答をしてもらいます。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキスト 成川正晃編著(2022)『ビジネスセンスが身につく簿記(第2版)』中央経済社。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回の授業レポート(30%)と、課題レポート(10%)、中間試験(20%)、期末試験(40%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート・課題については、WebClass および授業のなかでフィードバックする。			
備考			

16	簿記論	LM-B-202	必修 2単位 1年後期
	Bookkeeping		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション。簿記とは何かについてその意味と目的を理解する。また、簿記の歴史について複式簿記	複式簿記とは何かについてその歴史を調べてみる。	2
第2回	貸借対照表の構成要素を理解する。また、貸借対照表による当期純損益の計算方法(財産法)を理解する。	簿記の役割が、財産の管理であり、企業の会計期末の財政状態や会計期間の経営成績を明らかにしていることを調べてみる。 企業が公表する財務諸表(決算報告書)から貸借対照表を調べてみる。 貸借対照表の構成要素から、資産、負債、純資産の区分を確認して、企業が算定した当期純損益の金額を調べてみる。	2
第3回	損益計算書の構成要素を理解する。また、損益計算書による当期純損益の計算方法(損益法)を理解する。	企業が公表する財務諸表(決算報告書)から損益計算書を調べてみる。 損益計算書の構成要素から、収益と費用の区分を理解して、企業が算定した当期純損益の金額を調べてみる。	2
第4回	簿記上の取引を理解し、記録・計算の単位である勘定と勘定科目について理解する。また、勘定記入の方法と	日常の経済取引と簿記上の取引の相違について調べてみる。	2
第5回	仕訳の手順を理解し、仕訳帳の作成方法を理解する。また、仕訳帳から総勘定元帳への転記を理解する。	取引の記録・計算の単位である勘定について、製造業や非製造業(小売業など)における勘定科目を調べてみる。 取引要素の結合関係にもつき、取引がどのように会計帳簿に記入されるかについて調べてみる。 簿記上の取引を仕訳帳に記入し、総勘定元帳に転記する会計実務を、テキストの練習問題を通じて復習する。	2
第6回	仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しいかどうかを検証する試算表の作成方法を理解する。また、試算表から早期に損益を算定する精算表の作成方法を理解する。	貸借対照表による利益計算方法である財産法と、損益計算書による利益計算方法である損益法の関係性について調べてみる。 試算表の作成方法と、6けた精算表の作成方法を、テキストの練習問題を通じて復習する。	2
第7回	決算の意味と決算一巡の手続きについて理解する。	企業が公表する財務諸表(決算報告書)について、企業のHPから調べてみる。 収益と費用の各勘定と損益勘定の締め切りと、資産、負債、純資産の各勘定の締め切りと繰越試算表の作成方法を、テキストの練習問題を通じて復習する。	2
第8回	決算報告の意義と貸借対照表と損益計算書の作成方法を理解する。簿記一巡の手続きを確認するために中間試	貸借対照表と損益計算書の作成に向けた簿記一巡の手続きについて再確認をする。 中間試験に出題した問題について再確認をする。	2
第9回	特別講義を通じて、地球温暖化の現状と企業の経営課題である脱炭素化に向けた取り組みについて理解する。	地球温暖化の現状について調べてみる。 特別講義を通じて、企業が取り組む脱炭素経営について意見や感想を提出する。	2
第10回	株式会社のしくみと純資産の部の構造を理解する。また、繰越利益剰余金の配当と処分を理解する。	株式会社のしくみと株主の権利について調べてみる。 株式会社の設立時の仕訳と決算時の繰越利益剰余金の計上と株主総会の決議による剰余金の配当と処分に関する仕訳を、テキストの練習問題を通じて復習する。	2
第11回	商品売買業と製造業における営業活動における仕訳を理解する。また、商品有高帳の作成方法を理解する。	商品売買業の購買活動と販売活動、製造業の購買活動、製造活動および販売活動の相違について調べてみる。 商品の掛け取引や返品・値引きの取引の仕訳と、製造活動における消費高計算の仕訳、商品有高帳の記帳方法を、テキストの練習問題を通じて復習する。	2
第12回	貸倒れの意味と貸倒れ発生時の仕訳を理解する。また、決算仕訳に際しての貸倒引当金の見積もり方法を理解	貸倒れの発生に伴う企業倒産の事例について調べてみる。 決算仕訳に際して、貸倒れの見積もりに関する仕訳(差額補充法による処理)を、テキストの練習問題を通じて復習する。	2
第13回	減価償却の意味と減価償却費の計算方法を理解する。また、財務諸表の種類について理解する。	減価償却費の計算式である、定額法、定率法、生産高比例法による償却額の相違と、財務諸表の種類について調べてみる。 決算仕訳に際して、減価償却費に関する仕訳(間接法による処理)を、テキストの練習問題を通じて復習する。	2
第14回	簿記実務のまとめを行い、理解を確認するために期末試験を実施する。	テキストにおける簿記実務について理解を深める。 期末試験に出題した問題について再確認をする。	2

17	経営管理論	LM-A-203	必修 2単位 2年前期
	Management Policy		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
組織を運営する経営者の役割とその重要性を正しく理解できるようになること。			
授業の概要			
本講義では、企業の存続と発展の鍵を握る経営者の役割に焦点を当てる。このことを学ぶに当たり、テイラーに始まり、バーナード、サイモン等を経て今日に至る一連の学説を取り上げ、経営管理の捉え方を考察する。さらに、経営者が組織を発展させるために不可欠である変化する環境への適応の問題や、人々から貢献を得るための仕組みとしてのリーダーシップやオーソリティ等の問題についても取り上げ、経営管理の主要部分について理解することを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメガバンクでの勤務経験を活用し、企業を捉える場合のポイントや組織のマネジメントについて、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

17	経営管理論	LM-A-203	必修 2単位 2年前期
	Management Policy		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	経営管理論の基本的考え方	経営管理を学ぶ意義について考える。 経営管理の学問的存在意義についてノートを整理する。	2 2
第2回	古典的管理理論	管理の歴史について考える。 代表的な古典的理論についてノートを整理する。	2 2
第3回	近代的管理理論	管理の意義について考える。 代表的な近代理論についてノートを整理する。	2 2
第4回	人間と協働	人間の協働について考える。 人間協働の捉え方についてノートを整理する。	2 2
第5回	組織の成立と存続	組織について考える。 公式組織の概念とその構成要素についてノートを整理する。	2 2
第6回	複合公式組織	複合公式組織の成り立ちについて考える。 公式組織と非公式組織の関わりについてノートを整理する。	2 2
第7回	組織と管理	管理について考える。 経営管理の基本的考え方についてノートを整理する。	2 2
第8回	組織づくりと専門化	専門化について考える。 専門化の概念と留意点についてノートを整理する。	2 2
第9回	組織づくりとオーソリティ	オーソリティについて考える。 オーソリティとコミュニケーションの関係についてノートを整理する。	2 2
第10回	存続のための意思決定	組織の意思決定について考える。 機会主義的意思決定についてノートを整理する。	2 2
第11回	動機付けのための誘因	誘因について考える。 誘因の方法についてノートを整理する。	2 2
第12回	管理過程	組織の存続について考える。 組織の四重経済についてノートを整理する。	2 2
第13回	管理責任	組織の道徳と責任について考える。 組織における道徳と責任の考え方についてノートを整理する。	2 2
第14回	まとめと試験	講義についてノートをまとめ直す。 理解が不十分だった点を見直す。	2 2

18	マーケティング論	LM-A-204	必修 2単位 2 年前期
	Marketing		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 佐藤 飛鳥			
授業の達成目標			
本講義ではビジネスの現場で必要とされるマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。マーケティングの概要、マーケティングの要素といったマーケティングの基礎を理解した上で、講義で紹介する概念やフレームワークを実際のビジネス・シーンに応用する力をつける。			
授業の概要			
今日、マーケティングは、ビジネス活動を行う企業はもちろんのこと、自治体や NPO においても欠くことのない存在となっている。経営関連の科目の中で唯一、市場・消費者を分析対象としているのが「マーケティング論」である。誰もが消費者という立場で毎日、何をいくらで買うか」という意志決定を行っているため、当事者として製品やサービスを考えることができる。一方、企業や組織、市場や社会に受け入れられ存続していくためにマーケティング戦略を用いている。企業や組織がどんな工夫(=マーケティング)をしているかを学習する。			
実務経験を活かした教育について			
文部科学省知的クラスター創成事業において石川県の予防型社会創造産業形成に携わった経験を授業に活かし、地域マーケティングの考え方を教示して還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書	テキストは使用しない。参考書 講義中に紹介する。		
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎講義の最後に指示するホームワークの(15回、講義内容の理解度と、マーケティングの考え方に基づき戦略提案ができているかをみる)評価を合計し70%、期末レポート(同上)30%の配分で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
ホームワークは次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。ただし、期末レポートは期末テストに代えて実施するものであり、期末レポート未提出者は単位が与えられないため注意すること。			
備考			

18	マーケティング論	LM-A-204	必修 2単位 2 年前期
	Marketing		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	マーケティングとは：マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス (4P)	マーケティング・ミックス (4P) をまとめる。	2
第2回	マーケティングのSTP：セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	講義内容のノートをもとめ直し、企業の実例を探してその4Pをまとめる。 実際の企業の STP 事例をまとめる。	2
第3回	マーケティングと消費者：顧客満足と消費者行動、代表的な消費者心理	講義内容のノートをもとめ直し、企業の実例を探してSTPをまとめる。	2
第4回	マーケティングと市場志向型戦略：ミッション、3C分析、SWOT 分析	顧客として離反(商品やサービスの購入先を変更)した経験をノートに書き出す。 講義内容のノートをもとめ直し、消費者心理の理論のうち、経験したことのある内容を書き出す。	2
第5回	戦略的マーケティング：リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー	マーケティング理論・フレームワークとしての「ミッション」、「3C分析」、「SWOT 分析」を調べ、理解を深める。 MC 学科の3C 分析と SWOT 分析を行う。	2
第6回	マーケティング・リサーチ：1次データ、質問法、観察法、実験法	企業の業界内のポジションである、「リーダー」、「チャレンジャー」、「フォロワー」、「ニッチャー」を調べ、理解を深める。	2
第7回	顧客価値の創造 ①製品：プロダクト・ミックス、プロダクト・ライフサイクル	実際の企業1つに注目し、業界内のポジション別戦略をまとめる。	2
第8回	顧客価値の創造 ②ブランド：ブランド・エクイティ、ブランド戦略	質問法、観察法、実験法など、マーケティングでも用いられる調査法を調べる。 講義で学習した調査法を用いて、一次データとなるマーケティング・リサーチ計画を立てる。	2
第9回	顧客価値の創造 ③サービス：無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性	マーケティング理論としての「プロダクト・ミックス」、「プロダクト・ライフサイクル」を調べ、理解を深める。	2
第10回	顧客価値の伝達 ①流通：チャネル設計、チャネル管理	ヒット商品を1つ取り上げ、その中核ベネフィットがなにか(顧客がその商品に求めているコア機能)を考える。 自分自身の回りにある商品の「商品名」を20個書き出す。	2
第11回	顧客価値の伝達 ②営業：4P と日本の営業、日常の中でマーケティングを考え営業力を高める	ヒット商品を1つ取り上げ、そのブランドの構成要素をまとめる。	2
第12回	顧客価値の説得 ①価格：損益分岐点、需要の価格弾力性	「サービス」の特徴である、無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性を調べ、理解を深める。 「サービス」を1つ取り上げ、無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性について具体的に特徴をまとめる	2
第13回	顧客価値の説得 ②広告：主要広告媒体、リーチ・カバレッジ・フリクエンシー、セールス・プロモーション	身の回りの商品を5つ取り上げ、製造元から自分自身が入手するまでの流通経路を書き出す。(ex. 製造企業>コンビニ本部>コンビニ店舗>顧客) チャネルのメリット・デメリットをまとめる。	2
第14回	顧客価値の説得 ③コミュニケーション：媒体、反応プロセスモデル (AIDMA、AISAS)、統合型マーケティング・コミュニケーション まとめ、期末レポートの執筆にあたって	自分自身が体験した、購入する気がなかったのに話している間に購入することになったケース(営業力の強い企業)の手法を思い起こし、ノートにまとめる。 「損益分岐点」、「需要の価格弾力性」を調べ、理解を深める。	2
		手元にある商品を1つ選び、まず消費者心理を考慮した価格設定を検討し、その後、経営上の損益分岐点を考慮して実現可能な価格かどうかを検討し、最終価格を決める。	2
		マーケティング用語としての「主要広告媒体」、「リーチ」、「カバレッジ」、「フリクエンシー」を調べ、理解を深める。 自分自身が体験したセールス・プロモーションをノートにまとめる。	2
		反応プロセスモデル (AIDMA、AISAS) を調べ、理解を深める。	2
		第1～14回のノートに目を通し分からないところを無くし、総まとめとして自分自身の考えをレポートに記述する。	2

19	キャリアプランニング	LM-D-204	選択 2単位 2年前期
	Career Planning		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
キャリア(カウンセリング)に関する理論を学ぶと共に、将来の進路選択および、日常生活の中で応用できるようになること。			
授業の概要			
本講義では、以下の3点を中心に学習する。①職業選択やキャリア発達などのキャリアに関する理論②キャリアプランニングを実施する上で必要な能力及び知識の修得③職場でのメンタルヘルス将来的に、ここで学んだ知識を、自らのキャリア選択や、就職後のよりよい職場環境の構築などに生かせるようになることが目標である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は指定せず、適宜資料を配付する。参考図書に関しては、講義中に随時紹介する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に指示する課題(40%)と試験(60%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中に提示する課題はすべて LMS を用いて実施し、レポートのフィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

19	キャリアプランニング	LM-D-204	選択 2単位 2年前期
	Career Planning		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	キャリア理論①(過去-現在-未来に関して)	予め自分の過去-現在-未来を振り返り、今後のキャリア選択とどのように関わってくるのか考えておく。講義を通して学んだことを踏まえ、もう一度、過去-現在-未来とキャリア選択がどのような関係にあるのかまとめる。	2
第2回	キャリア理論②(モラトリアムとは)	モラトリアムとはどのような状況を指すのか、心理学の本などを読み調べてくる。心講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第3回	事例	予め自分の関心のある企業2社以上のHPなどで、その企業が求める人材を調べておく。講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第4回	人間関係形成力①(社会で求められる力について)	予め社会に出て必要となる能力を5点以上あげる。社会人基礎力とはどのようなものであるかノートにまとめ復習する。	2
第5回	人間関係形成力②(社会で求められる力の育成)	社会人基礎力を養成するために必要なことは何か予め考えおく。講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第6回	グループディスカッション	“働くことの意味”に関して個人的な見解と一般的な見解を予め考えておく。復習としてグループディスカッションの結果をまとめ、ほかの人の意見を聞いて感じたこと、気づいたことをまとめておく。	2
第7回	意思決定について①(理論の学習)	講義で学んだそれぞれの理論についてまとめ復習する。	2
第8回	意思決定について②(理論の応用)	自分自身の意思決定に関して予めその特徴をまとめておく。講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第9回	ヘルピング①(基礎)	今現在、自分がキャリア選択において抱えている問題を洗い出しておく。講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第10回	情報の収集・分析	キャリアプランニングに必要な情報とは何か予め調べておく。講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第11回	情報の整理・活用	入手した情報の整理の仕方、活用方法を予め考えておく。講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第12回	キャリアを考える①(キャリアプランの作成)グループワーク実践	キャリアプランを作成するために必要な情報は何か調べておく。講義で行ったことをまとめる。	2
第13回	キャリアを考える②(プレゼンテーション)グループ毎の発表	予めプレゼンするための資料を作成しておくこと。他の人のプレゼンを見て、気づいたこと、学んだことをまとめておく。	2
第14回	まとめと試験	第14回までの講義でまとめたことを復習しておく。試験でできなかった部分をもう一度復習しておく。	2

20	イングリッシュコミュニケーション	LM-F-102	選択 2単位 2年前期
	English Communication		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 宮曾根 美香 設楽 宏二 佐藤 夏子			
授業の達成目標			
グローバル社会で共生するために必要とされる英語コミュニケーションの基本的能力を習得する。特に、リスニング、スピーキングといったオーラル・コミュニケーションスキルに重点をおき、主なコミュニケーション場面でのやりとりができるようになる。			
授業の概要			
共通のテキストを使用し、基本的コミュニケーション場面でのコミュニケーションの練習を行う。基本表現の学習と表現を使った会話の練習を行う。さらに、オリジナルの会話を作成して対人コミュニケーションの演習を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
開講時に指示する			
参考書等			
成績評価方法・基準			
会話試験と筆記試験で総合的に評価する。提出課題は Webclass および授業内にフィードバックを行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出された課題、試験の結果についてはコメントを行う。必要な場合、全体的コメントを行う。			
備考			

20	イングリッシュコミュニケーション	LM-F-102	選択 2単位 2年前期
	English Communication		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス 科目の達成目標、概要、テキスト、評価方法等について説明。 初めての人に話しかける Small talk	英語で自己紹介文を考える。	2
第2回	相手を褒める Compliments	初めての人に話しかける英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 相手を褒める英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第3回	聞き直す I beg your pardon?	相手を褒める英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 聞き直す英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第4回	一言加えて答える Answering with additional information	聞き直す英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 一言加えて答える英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第5回	あいづちを打つ Backchanneling	一言加えて答える英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 あいづちを打つ英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第6回	相手に興味を示す Showing interest	あいづちを打つ英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 相手に興味を示す英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第7回	お礼を言う Thanking	相手に興味を示す英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 お礼を言う英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第8回	まとめと演習1 Dialogue	お礼を言う英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 会話テストの原稿を作成し、練習する。	2
第9回	上手に苦情を言う Complaints	まとめと演習1 Dialogue 会話テストでうまくできなかったところを練習する。	2
第10回	上手に謝る Apologies	上手に苦情を言う英文を読み、わからない単語について調べておく。 上手に苦情を言う英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2
第11回	好まない質問へ上手に対処する Dealing with undesirable questions	上手に謝る英文を読み、わからない単語について調べておく。 好まない質問へ上手に対処する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。	2
第12回	丁寧に頼む Requests	好まない質問へ上手に対処する英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 丁寧に頼む英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第13回	誘う Invitation	丁寧に頼む英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 誘う英文を読み、わからない単語について調べておく。	2
第14回	まとめと試験	誘う英文の音声を聞き、音読をし、ディクテーションを行う。 会話テストの練習をし、筆記試験の対策として教科書とノートを読み直す。 会話試験、筆記試験でできなかった点をノートに書きだす。	2

21	ICT入門	LM-G-101	必修 2単位 2年前期
	Introduction to ICT		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 亀井 あかね			
授業の達成目標			
コンピュータ、情報システムの基本的な仕組み・機能、情報システムの計画・導入・運用の基本的な事項を学ぶことにより、社会においてコンピュータ、情報システムを活用できるための基礎力を身につける。			
授業の概要			
コンピュータや情報システムが社会においてどのように活用されているかを概観した後に、その基本的な構造を学ぶ。組織において情報システムを計画・導入・運用するうえでの基本的な事項についても学ぶ。講義形式で行う。プログラミングは行わない。ITパスポート資格修得を目指す。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
いちばんやさしいITパスポート絶対合格の教科書+出る順問題集(令和5年度/2023)、高橋京介著、SB Creative.			
参考書等			
独自資料、他について適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テスト、定期試験等を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストは次回授業で解説もしくはWebClassに模範解答資料をアップロードする。期末試験に関しては「情報処理推進機構」が公式HP上で公開している「ITパスポート試験過去問題(問題冊子・解答例)」を各自確認すること。			
備考			

21	ICT入門	LM-G-101	必修 2単位 2年前期
	Introduction to ICT		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション、「企業活動」と「法務」	「企業活動」および「法務」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第2回	「経営戦略マネジメント」	「経営戦略マネジメント」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第3回	「技術戦略マネジメント」	「技術戦略マネジメント」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第4回	「システム戦略」と「開発技術」	「システム戦略」および「開発技術」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第5回	「プロジェクトマネジメント」	「プロジェクトマネジメント」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第6回	「サービスマネジメント」と「システム監査」	「サービスマネジメント」および「システム監査」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第7回	前半の振り返りと中間試験	第1～6回の学習内容に関する教科書該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を精読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第8回	「基礎理論」と「アルゴリズム」	「基礎理論」および「アルゴリズム」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第9回	「コンピュータシステム」と「ハードウェア」	「コンピュータシステム」および「ハードウェア」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第10回	「ソフトウェア」と「データベース1：データベースの基本と関係データベース」	「ソフトウェア」および「データベース1：データベースの基本と関係データベース」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第11回	「データベース2：データベース設計・データベース管理システム」	「データベース2：データベース設計・データベース管理システム」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第12回	「ネットワーク」と「情報セキュリティ」	「ネットワーク」および「情報セキュリティ」に関する教科書の該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を再読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第13回	まとめと期末試験	第8～12回の学習内容に関する教科書該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を精読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2
第14回	ITパスポート模擬試験	第1～13回の学習内容に関する教科書該当箇所を読み、基本を理解する。 教科書を精読し、また、授業中に実施した小テストを復習する。	2

22	地域創生論	LM-I-101	必修 2単位 2 年前期
	Regional revitalization		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 佐藤 勝幸			
授業の達成目標			
地域創生の現状を知り、地域社会を積極的に改善するための基礎知識を得る。そのために、地域創生と社会動向の関わりを学ぶとともに、仙台・宮城・東北地方の地域や社会における課題に直接関わっている実践者の取り組み内容や役割から、地域創生の重要性、経営知識の活用方法等を学ぶ。			
授業の概要			
地域創生の現状を知り、地域社会を積極的に改善するための基礎知識や経営学で学ぶ様々な知識や手法の活用方法を学ぶ。そのために、地方社会が置かれている社会動向を学ぶとともに、実践者として地域社会で地域創生の事業に取り組む企業人を招き、地域創生に対する想いや具体的な手法、実践過程等から地域創生の理解を深める。さらに、様々な関係人口が関わる地域創生について、価値の共有等の観点から事業の推進方法について学び、地域創生の理解を深める。			
実務経験を活かした教育について			
経営コンサルタント（中小企業診断士）及びまちづくりコンサルタント（技術士）として地方自治体や民間企業が実際に取り組むまちづくり事業の支援経験を活かして、様々な主体が関わる地域創生の実践的な知識習得を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない。必要に応じて適宜ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
数回実施するレポート65%、課題レポート35%、評価合計60点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			
特になし			

22	地域創生論	LM-I-101	必修 2単位 2 年前期
	Regional revitalization		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	地域創生とは何か	該当シラバスを読み、「創生」の意味を予習。 地域創生についての復習。	2 2
第2回	人口減少社会における地域創生	人口減少、一極集中等の地域創生が必要となってきた、地域社会の課題について理解する。 人口減少による社会課題を振り返る。	2 2
第3回	地域創生と地方自治体	地方公共団体等の公表資料等から、人口減少により起きている地方公共団体の課題について理解を深める。 地方公共団体が抱える問題を振り返る。	2 2
第4回	地域創生と地域経済	国の公表資料等から、人口減により起きている商業や農業などの産業の課題について理解を深める。 身近な事業やアルバイトなどを通して産業の課題を振り返る。	2 2
第5回	地域創生の事業特性	地域創生を特徴づける事業上の構造について学習する。 地域創生の事業構造について再度理解を深める。	2 2
第6回	地域創生について事例で学ぶ①	地域創生を特徴づける事業上の構造について学習する。 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2 2
第7回	地域創生について事例で学ぶ②	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2 2
第8回	地域創生について事例で学ぶ③	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2 2
第9回	地域創生について事例で学ぶ④	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2 2
第10回	地域創生について事例で学ぶ⑤	県内外の地域創生の実践者による事例紹介から、実際の地域創生の取り組みを学習する 事業者のHPから地域創生の事業内容を再度確認する。	2 2
第11回	地域創生の事業を考える①	地域の活性化を支援するための具体的な取り組みを考えていくための仕組みについて学習する。 地域創生の事業の仕組みについて振り返る。	2 2
第12回	地域創生の事業を考える②	地域創生の取り組みを発想するための具体的な手法、社会データ等の地域特性の把握方法について学習する。 地域創生事業の考え方について、理解を深める。	2 2
第13回	地域創生の事業を考える③	様々な主体が連携して地域創生に取り組むため事業の要素となる価値の組み立て方について学習する。 価値連関の仕組みについて、再度理解を深める。	2 2
第14回	地域創生と事業構想（事業を計画する）	事業を構想する演習を行い、地域創生の仕組みを学ぶ 価値連関の仕組みを振り返る。 自身が考えたビジネスモデルを振り返る。	2 2

23	経営コミュニケーションセミナーⅢ	LM-J-203	必修 1単位 2年前期
	Management and Communication Seminar III		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 佐藤 夏子 宮曾根 美香 猿渡 学 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 大石 加奈子 小祝 慶 紀 川島 和浩			
授業の達成目標			
経営コミュニケーション学科の専門教育科目の学びにおいて必要とされる学士力の基礎を身につける。①経営学・会計学・経済学に関する理解力と分析力を養う。②ヒューマン・ビジネス・メディアコミュニケーション能力を養う。③ ICT(情報通信技術)を用いた調査分析能力を養う。			
授業の概要			
個別セミナー教員との面談にもとづいて、学生とともに WebClass の修学ポートフォリオへの記入内容の確認を行う。1年次の導入教育を発展させる少人数学習を中心として展開するとともに、経営コミュニケーションキャリアセミナーへの発展を支援するための講義など。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキスト SPIノートの会〔2022〕『これが本当のSPI3だ!』講談社 (1年次で配布したものです)			
参考書等			
成績評価方法・基準			
少人数学習評価(60%)、SPIテスト(20%)、レポート(20%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題提示や提出課題はLMSを通じて行い、フィードバックもLMSで実施する。			
備考			

23	経営コミュニケーションセミナーⅢ	LM-J-203	必修 1単位 2年前期
	Management and Communication Seminar III		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	セミナーごとに個別面談	WebClassの修学ポートフォリオへの記述 個別面談の内容をノートに整理すること	0.5 0.5
第2回	講演会	講演内容についてあらかじめ調べること 講演内容をレポートにまとめること	0.5 0.5
第3回	SPI 講座_1 SPI テスト①	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと 講義内容をノートに整理すること	0.5 0.5
第4回	少人数学習_1 研究室紹介①-1	少人数学習の準備をすること 少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5 0.5
第5回	SPI 講座_2 SPI テスト②	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと を予習とし、講義内容をノートに整理すること	0.5 0.5
第6回	少人数学習_2 研究室紹介①-2	少人数学習の準備をすること とし、少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5 0.5
第7回	SPI 講座_3 SPI テスト③	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと を予習とし、講義内容をノートに整理すること	0.5 0.5
第8回	少人数学習_3 研究室紹介②-1	少人数学習の準備をすること とし、少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5 0.5
第9回	SPI 講座_4 SPI テスト④	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと、 講義内容をノートに整理することを	0.5 0.5
第10回	少人数学習_4 研究室紹介②-2	少人数学習の準備を予習 とし、少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5 0.5
第11回	SPI 講座_5 SPI テスト⑤	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと を予習とし、講義内容をノートに整理することを復	0.5 0.5
第12回	少人数学習_5 研究室紹介③-1	少人数学習の準備を予習すること 少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5 0.5
第13回	少人数学習_6 研究室紹介③-2	少人数学習の準備を予習すること 少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5 0.5
第14回	セミナーごとに学期末面談	LMSの修学ポートフォリオへの自己評価の記述をすること。 セミナー教員との面談結果をノートに整理する。	0.5 0.5

24	財務会計論	LM-B-303	選択 2単位 2年前期
	Financial Accounting		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 川島 和浩			
授業の達成目標			
<p>企業会計は、会計情報の提供先の違いによって、財務会計と管理会計に分かれています。本授業では、外部報告会計としての財務会計を取り扱います。したがって、財務会計の体系や内容について理解できること、また、財務会計の知識を活かして、会計情報利用者として適切な判断と意思決定ができる能力を養うことを目標としています。</p>			
授業の概要			
<p>授業では、財務会計に関する基礎的な知識として財務諸表の体系や内容を学びます。具体的には、経営者が公表・開示する財務諸表がどのような会計法規やルールにもとづいて作成され、それがどのような手続きで会計情報として開示されているかを理解してもらいます。また、財務諸表にもとづく経営分析で算定した指標の活用方法とその限界について理解を深めてもらいます。なお、授業時間中に、学生の理解度を確認するために、学生のスマートフォンあるいはパソコンを利用して、Formsによる回答をしてもらいます。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
田中建二(2021)『財務会計入門(第6版)』中央経済社。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回の授業レポート(40%)、研究課題(20%)、期末試験(40%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した課題・レポートについては、WebClass および次回の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

24	財務会計論	LM-B-303	選択 2単位 2年前期
	Financial Accounting		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	財務会計の基礎	会社法、金融商品取引法、法人税法という3つの法律に支えられたわが国の会計制度について調べてみる。	2
第2回	財務諸表のしくみ	貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書などの財務諸表について、企業のHPからその情報開示内容を調べてみる。	2
第3回	棚卸資産の会計	貸借対照表による流動・固定の区分方法や、損益計算書における利益の区分計算方法について確認してみる。	2
第4回	有形固定資産の会計	棚卸資産の評価方法について、先入先出法、移動平均法、総平均法が売上原価や期末棚卸資産にどのような影響を与えるかについて調べてみる。	2
第5回	無形固定資産および繰延資産の会計	減価償却の意義や目的がどのようなものであり、定額法、定率法、生産高比例法による減価償却費の計算方法の違いについて調べてみる。	2
第6回	金融資産の会計	減価償却費の計算方法が実務のなかでどのように適用され、利益計算にどのような影響を与えているかを、企業のHPから確認してみる。	2
第7回	負債の会計	ソフトウェア制作費や繰延資産の会計処理がどのように行われているかについて調べてみる。	2
第8回	純資産の会計	繰延資産の会計処理方法について、企業のHPから確認してみる。	2
第9回	収益と費用の会計	現金預金、受取手形、売掛金、有価証券などの金融資産にはどのようなものがあるかについて調べてみる。	2
第10回	税効果会計	有価証券の保有目的によって異なる会計処理方法と、デリバティブの会計処理について確認してみる。	2
第11回	外貨換算会計	社債の種類や退職給付引当金のしくみなどに関する負債の会計処理について調べてみる。	2
第12回	企業結合会計	引当金の意義とその役割を確認し、「企業会計原則」注解に例示されている内容について確認してみる。	2
第13回	連結財務諸表	貸借対照表の純資産の部の構成内容について調べてみる。	2
第14回	財務会計論の振り返りの授業を行い、理解を確認するために期末試験を実施する	資本と利益の区分が要請されている理由と払込資本の会計処理について確認してみる。	2
		現金主義・発生主義に基づく収益と費用の認識と測定の方法について調べてみる。	2
		収益の認識基準として実現主義が採用されている理由について確認してみる。	2
		企業に課せられる税金の種類と、企業会計と課税所得計算の違いについて調べてみる。	2
		会計情報利用者の観点から採用される税効果会計の特徴について確認してみる。	2
		グローバル経済のもとで企業取引がなされる現代社会において、ドルなどの外貨建ての取引から生じた項目に関する外貨換算方法について調べてみる。	2
		外貨建金銭債権債務について為替相場による換算差額の会計処理について確認してみる。	2
		日本国内外における企業のM&A(買収や合併)の状況と、取得と持分の結合に関する考え方について調べてみる。	2
		持分プーリング法とパーチェス法の違いと、日本における「のれん」の償却方法について確認してみる。	2
		関心のある企業の企業集団・グループの状況と、連結の範囲を決定する持株基準、支配力基準や影響力基準について調べてみる。	2
		子会社および関連会社の業績がどのような手続きによって親会社が作成・公表する連結財務諸表に反映されるかについて確認してみる。	2
		授業ノート等により授業内容の理解を深めて期末試験に備える。	2
		期末試験に出題した問題について再確認をしてみる。	2

25	ミクロ経済学	LM-C-203	選択 2単位 2年前期
	Microeconomics		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	<input type="radio"/> 教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
初級のミクロ経済学の概要を理解する。前年度に学んだ「経済学入門」の内容と合わせて、ミクロ経済学の全体像を捉える。			
授業の概要			
「経済学入門」の続編として、ミクロ経済学の初級部分の概説を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書	講義ノートを配付する。		
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト(40%) + 試験(60%)で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては、webclassにてフィードバックを行う。			
備考			

25	ミクロ経済学	LM-C-203	選択 2単位 2年前期
	Microeconomics		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	生産関数	生産関数について、調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第2回	費用関数	費用関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第3回	利潤極大化	利潤極大化について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第4回	供給関数	供給関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第5回	損益分岐点・操業停止点	損益分岐点・操業停止点について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第6回	代替効果・所得効果	代替効果・所得効果について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第7回	中間のまとめと試験	これまでの学習内容を復習する。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第8回	マーシャル需要関数・ヒックス需要関数	マーシャル需要関数・ヒックス需要関数について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第9回	需要・供給曲線の弾力性	需要・供給曲線の弾力性について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第10回	市場均衡・安定性	市場均衡・安定性について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第11回	消費者・生産者余剰	消費者・生産者余剰について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第12回	独占	独占について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第13回	ゲーム理論	ゲーム理論について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第14回	まとめと試験	これまでに学習した内容を復習する。 試験内容についてノートなどに整理する。	2 2

26	データ分析	LM-H-202	選択 2単位 2年前期
	Analysis of Data		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
統計学の基本的考え方を修得するとともに、現実の問題に正しく適用できることを重視する。Excelの関数やデータ分析を利用して、現実の問題を解決できる力を身につける。			
授業の概要			
データの集計や分布の捉え方について理解し、推測統計学の最も基本的な応用である母平均の検定や推定、群間の差の検定を始め、相関や回帰分析等に関して広く学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
河口洋行 (2021) 『文系のための統計学入門-データサイエンスの基礎』日本評論社。			
参考書等			
他の文献についても授業の中で適宜情報提供を行う。			
成績評価方法・基準			
授業中の課題に対する取り組みの度合い (30%)、小テスト (30%)、期末試験 (40%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した課題や小テストについては、WebClass および次回の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

26	データ分析	LM-H-202	選択 2単位 2年前期
	Analysis of Data		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	統計学の基礎知識の体系	テキストを基に統計学とは何か自分で考える。 授業ノートを基に統計学の基礎知識について確認する。	2 2
第2回	代表値と散布度	代表値と散布度について授業資料を読み理解する。 代表値と散布度について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第3回	確率論と期待値	確率論と期待値について授業資料を読み理解する。 確率論と期待値について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第4回	正規分布	正規分布とは何かについて授業資料を読み理解する。 正規分布について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第5回	母集団と標本	母集団と標本とは何かについて授業資料を読み理解する。 母集団と標本について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第6回	標本変動と信頼区間	標本変動と信頼区間とは何かについて授業資料を読み理解する。 標本変動と信頼区間について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第7回	背理法と帰無仮説	背理法と帰無仮説について授業資料を読み理解する。 背理法と帰無仮説について、授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第8回	母平均の検定	母平均の検定について授業資料を読み理解する。 母平均の検定について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第9回	二つの母平均の検定	二つの母平均の検定について授業資料を読み理解する。 二つの母平均の検定について授業週に実施した作業を復習する。	2 2
第10回	散布図と相関係数	散布図と相関係数について授業資料を読み理解する。 散布図と相関係数について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第11回	単回帰分析	単回帰分析について、授業資料を読み理解する。 単回帰分析について、授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第12回	重回帰分析	重回帰分析について、授業資料を読み理解する。 重回帰分析について、授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第13回	尺度とクロス集計表	尺度とクロス集計表について授業資料を読み理解する。 尺度とクロス集計表について授業中に実施した作業を復習する。	2 2
第14回	カイ二乗検定とロジスティック回帰分析	カイ二乗検定とロジスティック回帰分析について授業資料を読み理解する。 カイ二乗検定とロジスティック回帰分析について授業中に実施した作業を復習する。	2 2

27	社会調査 I	LM-H-203	選択 2単位 2年前期
	Social Research I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		○ 教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 亀井 あかね			
授業の達成目標			
社会調査の意義と諸類型に関する基本的知識を習得することを目的とする。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、観察法(量的 / 統計的研究、質的 / 事例的研究)などについて解説し、資料やデータの収集から分析までの過程に関する基礎的な事項に重点をおく。			
授業の概要			
社会調査の初歩的な分析と資料作成ができるレベルを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
【電子教科書】社会調査の考え方 上、佐藤郁哉・著、東京大学出版会。			
参考書等			
社会調査法入門、盛山和夫・著、有斐閣。 社会調査の考え方 下、佐藤郁哉・著、東京大学出版会。 社会調査の考え方 下、佐藤郁哉・著、東京大学出版会 (2015/7/17) 社会調査の考え方 上、佐藤郁哉・著、東京大学出版会 (2015/5/30) 独自資料：その他の参考文献は適宜紹介する 履修要件：事前に「社会調査 I」を単位修得していることが望ましい			
成績評価方法・基準			
課題(予習ノート、小テスト、中間試験、期末試験、等)を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テスト(演習問題)は実施当日の講義もしくは次回講義で解説する。 中間試験および期末課題に関しては教科書出題箇所をWebClass等で示す。			
備考			

27	社会調査 I	LM-H-203	選択 2単位 2年前期
	Social Research I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
社会調査の歴史と目的	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2	
第1回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第2回	リサーチリテラシー：社会調査の方法論と倫理	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第2回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第3回	社会調査の種類と実例：統計的研究と事例的研究	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第3回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第4回	二次データ分析：国勢調査・官庁統計・地域経済システム・ビッグデータ	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第4回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第5回	質問紙調査とフィールドワーク	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第5回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第6回	調査設計(1) 社会調査の要件：調査の目的と調査方法	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第6回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第7回	調査設計(2) 調査企画の準備：リサーチデザイン理論・概念・変数	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第7回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第8回	調査設計(3) 仮説の定義：仮説構成	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第8回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第9回	リサーチ・クエスチョンの条件：質問文と調査票の作成方法	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第9回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第10回	量的・統計的研究(1) 全数調査と標本調査	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第10回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	
第11回	量的・統計的研究(2) 無作為抽出	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
第11回	当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2	

27	社会調査 I	LM-H-203	選択 2単位 2年前期
	Social Research I		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第12回	質的・事例的研究(1): インタビューの実施方法とフィールドノートの作成	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
		当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2
第13回	質的・事例的研究(2): 観察法・ビジュアル分析	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
		当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2
第14回	まとめと期末試験	第1~13回講義の学習内容について教科書で復習すること。	2
		当該学習内容について授業中に期末試験を実施する。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2

28	イノベーション政策論	LM-A-206	選択 2単位 2年後期
	Innovation policy		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 松枝 浩一郎			
授業の達成目標			
国が進めている「イノベーション政策」によって、わが国産業が再び競争力を取り戻すためには、知的財産に関する法律や知識をより深く理解して、経営戦略・事業戦略と知的財産戦略をしっかりと紐付けて事に当たることが肝要と考えられています。そのために、本授業では①知的財産とは何かについて理解すること、②知的財産の創造・保護・活用の管理ができる知識を有すること、③国が進める科学技術イノベーション政策とは何かについて理解すること、を達成目標に掲げています。そして、知的財産に関する理解や知識を身に付け、これからの実務（技術開発力、デザイン力、経営管理能力 etc.）に活かし、産業技術力や経営デザインの強化を担える人材になって欲しいと思います。			
授業の概要			
知的財産に関する各種の法律論を理解するための講義を実施し、その後、主な法律については、事例研究として判例等を取り上げて、法律の解釈の仕方も含めて学ぶと共に、企業における知的財産への関わりについても随時触れて行きます。特に、特許法に重点を置き、特許権の取得、活用について学び、国が進める科学技術イノベーション政策を支える知的財産（特に特許）に関する知識をより深く理解して身に付けて行きます。また、企業が知的財産を活用して経営をどのようにデザインするのかを知的財産の役割との関係で紐解きます。実務経験のある講師により実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、知的財産権の取得・活用等の手続きを代理する国家資格である弁理士であり、弁理士として従事した知的財産権業務の実績と経験を活かして授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義資料を毎回配布する。参考書：2022年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁の以下の URL より無料でダウンロード可能） https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2022_nyumon.html			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期の中頃に中間試験（第1回テスト）を行い、期末試験（第2回テスト）と併せて2回のテストの点数で評価する。2回のテストの平均点が60点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
希望者からの問い合わせに対して個別に開示する。			
備考			

28	イノベーション政策論	LM-A-206	選択 2単位 2年後期
	Innovation policy		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	概説（知的財産権の分類とその保護の必要性）	第1回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第1回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第2回	特許法①（特許制度の概略、発明の定義）	第2回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第2回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第3回	特許法②（特許要件）	第3回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第3回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第4回	特許法③（特許を受ける権利、職務発明）	第4回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第4回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第5回	特許法④（特許権の効力-特許権侵害）	第5回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第5回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第6回	特許法⑤（特許権の利用-ライセンス）	第6回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第6回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第7回	特許法⑥（特定領域分野の特許-ソフトウェア関連特許）	第7回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第7回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第8回	特許法⑦（実用新案制度、外国の特許制度）	第8回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第8回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第9回	特許法⑧（特許法のまとめ、第1回確認テスト（特許法））	第9回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第9回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第10回	意匠法	第10回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第10回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第11回	商標法①（識別力、商標の類比）	第11回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第11回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第12回	商標法②（商標権の効力、利用）	第12回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第12回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第13回	著作権法	第13回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第13回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2
第14回	不正競争防止法、第2回確認テスト（全範囲）	第14回授業で扱う内容に出てくる用語について調べておく 第14回授業の講義資料に対応する参考文献の該当箇所を復習	2 2

29	経営コミュニケーション学総合演習Ⅰ	LM-I-202	選択 1単位 2年後期
	Management and Communication Integrated Study Ⅰ		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 佐藤 勝幸 猿渡 学 佐藤 飛鳥 小祝 慶紀			
授業の達成目標			
経営コミュニケーション学総合演習Ⅱと一体となって、地域創生論での学習内容をもとに、地域創生のために活動している団体と連携し、実際に地域創生のための提案をまとめることにより、地域創生策の立案力を養成する。経営コミュニケーション学総合演習Ⅰでは、課題設定までを行う。			
授業の概要			
地域創生のために活動している団体と連携しながら、地域創生のための課題および何ができるかを考え、現地調査、グループワークを通じて、提案としてまとめる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない、必要に応じて適宜ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
フィールドワークを実施するが、事前に問題点を調査しまとめておく作業(30%)をおこなう。フィールドワークを実施したのち、その結果をまとめ(40%)、地域への提案に向けた課題設定を行う(30%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
フィールドワークの際の事前調査などについて講義中に問題点を指摘し修正を促すことでフィードバックをおこなう。			
備考			

29	経営コミュニケーション学総合演習Ⅰ	LM-I-202	選択 1単位 2年後期
	Management and Communication Integrated Study Ⅰ		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション	地域創生のために何が必要かを考える。/ 地域創生のために自分は何ができるかを考える。	0.5
第2回	連携先団体の紹介とグループ分け	「コミュニティネットワーク論」「地域創生論」を通して、地域の抱える問題点を整理することを復習課題とする。 各連携先団体について調べる。/ 連携先団体と連携して自分が何ができるかを考える。	0.5
第3回	机上調査	連携先団体の地域創生の理念や方法についてまとめることを復習課題とする。 連携先団体について事前に調べる。/ 机上調査結果を整理する。	0.5
第4回	連携先団体での概要調査(1)	ホームページや新聞記事などを検索し、各団体が当該地域に対してどのようなアプローチをおこなっているのかをまとめ、受講者(グループ)の関わり方を模索することを復習課題とする。	0.5
第5回	概要調査結果の整理・分析	概要調査の準備をする。 連携先団体の代表者などへのインタビュー項目などを整理することを復習課題とする。	0.5
第6回	連携先団体での詳細調査(2)	概要調査結果を事前分析する。 インタビュー・アンケートの分析をまとめることを復習課題とする。	0.5
第7回	現状分析	概要調査の準備をする。/ 概要調査結果を整理する。インタビュー内容・アンケート内容などを精査する。 連携先団体の代表者などへのインタビュー項目などを整理することを復習課題とする。	0.5
第8回	目標像の構築	詳細調査結果を事前分析する。 地域の抱えるどの問題にフォーカスすべきかをまとめることを復習課題とする。	0.5
第9回	問題点の洗い出し	目標像を事前検討する。 アプローチの具体的な方法を精査し、目標像を確立させることを復習課題とする。	0.5
第10回	問題点の調査	現状と目標像の差異を事前検討する。 調査の結果と目標像の差異をどう解決するかをプランを立てることを復習課題とする。	0.5
第11回	課題設定	ヒアリングの準備をする。 ヒアリングの結果をまとめることを復習課題とする。	0.5
第12回	振り返りと総括	問題点を事前に検討する。 調査結果を振り返ることを復習課題とする。	0.5
第13回	スコープの設定と問題点の選定	対象とすべき問題点を事前に洗い出す。 設定されたスコープを振り返る。	0.5
第14回	課題設定	課題を事前に検討する。 設定された課題を振り返る。	0.5
第15回	振り返りと総括	講義を振り返り学んだこと、反省すべきことをまとめる。提案書の作成、本講義のまとめを作成しプレゼンテーションをおこなう。 ディスカッションの結果を踏まえ、実行可能な提案として修正することを復習課題とする。	0.5

30	経営コミュニケーションセミナーⅣ	LM-J-204	必修 1単位 2年後期
	Management and Communication Seminar IV		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 佐藤 夏子 宮曾根 美香 猿渡 学 阿部 敏哉 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 大石 加奈子 小祝 慶紀 川島 和浩			
授業の達成目標			
経営コミュニケーション学科の専門教育科目の学びにおいて必要とされる学士力の基礎を身につける。①経営学・会計学・経済学に関する理解力と分析力を養う。②ヒューマン・ビジネス・メディアコミュニケーション能力を養う。③ ICT(情報通信技術)を用いた調査分析能力を養う。			
授業の概要			
個別セミナー教員との面談にもとづいて、学生とともに WebClass の修学ポートフォリオへの記入内容の確認を行う。1年次の導入教育を発展させる少人数学習を中心として展開するとともに、経営コミュニケーションキャリアセミナーへの発展を支援するための講義など。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキスト SPIノートの会〔2022〕『これが本当のSPI3だ!』講談社 (1年次で配布したものです)			
参考書等			
成績評価方法・基準			
少人数学習評価(60%)、SPI(20%) レポート(20点)により総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題提示や提出課題はLMSを通じて行い、フィードバックもLMSで実施する。			
備考			

30	経営コミュニケーションセミナーⅣ	LM-J-204	必修 1単位 2年後期
	Management and Communication Seminar IV		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	個別面談	WebClassの修学ポートフォリオへの記述	0.5
第2回	少人数学習_1 研究室紹介④-1	面談の内容をノートに整理することを復習とする。	0.5
第3回	SPI 講座_1 SPI テスト⑥	少人数学習の準備をすること	0.5
第4回	少人数学習_2 研究室紹介④-2	少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5
第5回	SPI 講座_2 SPI テスト⑦	少人数学習の準備をすること	0.5
第6回	少人数学習_3 研究室紹介⑤-1	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと	0.5
第7回	SPI 講座_3 SPI テスト⑧	講義内容をノートに整理すること	0.5
第8回	少人数学習_4 研究室紹介⑤-2	少人数学習の準備をすること	0.5
第9回	SPI 講座_4 SPI テスト⑨	少人数学習の結果をノートに整理すること	0.5
第10回	少人数学習_5 研究室紹介⑥-1	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと	0.5
第11回	SPI 講座_5 SPI テスト⑩	少人数学習の準備を予習とし、少人数学習の結果をノートに整理することを復習とする。	0.5
第12回	少人数学習_6 研究室紹介⑥-2	SPI テキストのうち、学科で割り当てた学習範囲を学ぶこと、 講義内容をノートに整理することを復習とする	0.5
第13回	4年生による就職体験講座	少人数学習の準備をすること	0.5
第14回	セミナーごとに学期末面談	就職活動に係る資料を収集すること 4年生の就職内定者による体験記などをノートに整理すること	0.5
		LMSでの修学ポートフォリオへの自己評価の記述すること	0.5
		セミナー教員との面談結果をノートに整理する。	0.5

31	経営組織論	LM-A-205	選択 2単位 2年後期
	Business Organization		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 阿部 敏哉			
授業の達成目標			
様々な組織の構造と機能を正しく理解し、それを自らが所属している組織に応用できるようになること。			
授業の概要			
本講義では、企業、学校、病院、NPO等様々な組織を取り上げ、それについて考察していく。企業をはじめとする様々な組織は、営利の追求や理念の達成等の目標に向かって日々活動している。しかしそれらは社会と関わりながら活動している以上、人間性や社会性、公共性を無視して繁栄することはできない。こうした問題意識のもと、組織の構造と機能を正しく理解し、将来社会人として自らが組織で担うべき役割を学ぶことを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員はメガバンクでの勤務経験を活用し、組織の仕組みやマネジメントについて、学生が自分たちの生活に応用できるような知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。			
参考書等			
適宜指示する。			
成績評価方法・基準			
期末試験の結果により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は課さない。			
備考			

31	経営組織論	LM-A-205	選択 2単位 2年後期
	Business Organization		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	組織の基本的考え方	組織の概念を見直す。 公式組織の概念についてノートを整理する。	2 2
第2回	組織構造	組織構造について見直す。 組織の発展過程についてノートを整理する。	2 2
第3回	非営利組織	非営利組織について考える。 非営利組織のマネジメントについてノートを整理する。	2 2
第4回	古典的な作業組織	作業組織の変遷について考える。 作業組織の古典的理論についてノートを整理する。	2 2
第5回	近代的な作業組織	作業組織の変遷について考える。 近・現代の作業組織についてノートを整理する。	2 2
第6回	誘因の方法	誘因について見直す。 誘因の方法の種類と特徴についてノートを整理する。	2 2
第7回	説得の方法	説得の方法について考える。 説得の方法の種類と特徴についてノートを整理する。	2 2
第8回	リーダーシップ理論	リーダーシップについて考える。 代表的なリーダーシップ理論についてノートを整理する。	2 2
第9回	モチベーションとリーダーシップ	リーダーシップについて考える。 モチベーションとリーダーシップの関係についてノートを整理する。	2 2
第10回	組織文化	組織文化について考える。 組織文化の種類とその特徴についてノートを整理する。	2 2
第11回	組織と戦略の古典的な捉え方	組織と戦略について考える。 組織と戦略の古典的な捉え方についてノートを整理する。	2 2
第12回	組織と戦略の近代的な捉え方	組織と戦略について考える。 組織と戦略の近代的な捉え方についてノートを整理する。	2 2
第13回	組織学習と組織変革	組織変革について考える。 組織学習・組織変革の重要性とプロセスについてノートを整理する。	2 2
第14回	まとめと試験	講義についてノートをまとめ直す。 理解が不十分だった点を見直す。	2 2

32	財務管理論	LM-B-304	選択 2単位 2年後期
	Financial Management		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	<input type="radio"/> 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 菊池 祐輝			
授業の達成目標			
財務管理の基礎理論を理解し、体系的な理解の上に、複式簿記や会計と融合した経営管理手法を修得する事が目標である。			
授業の概要			
財務会計情報と管理会計情報を基礎として、原価管理、資金管理、利益管理を学習し、資本調達管理及び資本運用管理まで学習していく。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、税理士としての業務実績と経験を活かして、授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
坂本孝司【2015】『中小企業の財務管理入門』中央経済社。			
参考書等			
授業内で紹介する。			
成績評価方法・基準			
課題レポート(20%)、期末試験(80%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題レポートについては、WebClass および授業のなかでフィードバックする。			
備考			

32	財務管理論	LM-B-304	選択 2単位 2年後期
	Financial Management		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	財務管理の意義	第1章を読み財務管理の意義について学習する。	2
第2回	財務管理と会計	財務管理の内容を把握し、資本収益性の尺度である総資本経常利益率について理解する。 第2章を読み財務管理と会計の関係性について学習する。	2
第3回	財務分析	財務管理と会計の関係性について理解するとともに3つの制度会計と決算書について学ぶ。 第3章を読み財務分析の概要と各種分析について学習する。	2
第4回	利益管理	収益性分析、生産性分析、安全性分析、債務償還能力、成長性分析の意義を理解する。 第4章を読み利益管理の概要とCVP分析について学習する。	2
第5回	資本調達の意義と金融機関	損益分岐点分析と変動損益計算書について理解する。 第5章を読み資本調達の意義と金融機関の種類について学習する。	2
第6回	金融機関からの借入	金融機関の業態の違いと借入の方式、自己査定・信用格付、保証制度について理解する。 第6章を読み金融機関からの借入について学習する。	2
第7回	その他の外部調達と自己金融	金融機関の融資業務のしくみと中小企業金融に関連する用語の意味内容を理解する。 第7章を読み金融機関からの借入以外の資本調達について学習する。	2
第8回	資本運用の最適化	社債、株式の発行による資本調達及び自己金融機能について理解する。 第9章を読み資本運用管理の意義と資本運用の最適化について学習する。	2
第9回	設備投資の経済的評価	事業部分の最適化と財務部分の最適化について理解し、長期資本運用計画について知る。 第10章を読み設備投資の経済性評価の概要を学習する。	2
第10回	原価管理	貨幣の時間価値と割引計算を理解するとともに具体的な計算手法を知る。 第11章を読み原価管理の概要を学習する。	2
第11回	資金管理	工業簿記の体系と原価計算のしくみを理解する。 第12章を読み資金管理と運転資金の概要について学習する。	2
第12回	管理の実務的展開	資金繰り表の作成と必要運転資金について理解する。 第13章を読み業績管理について学習する。	2
第13回	税務管理の重要性	月次決算、部門管理等の実務的展開について理解する。 第14章を読み財務管理と税務管理の関係性について学習する。	2
第14回	資金調達と税金及び期末試験	法人税の体系と企業会計とのかかわりを理解する。 第15章を読み資金調達と税法の関係性について学習する。	2
		引当金、準備金、圧縮記帳及び欠損金の繰越控除について理解する。	2

33	マクロ経済学 Macroeconomics	LM-C-204	選択 2単位 2年後期
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/> 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
<input type="radio"/> オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	<input type="radio"/> 教職科目 (商業)		
<input type="radio"/> クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
財市場・貨幣市場・労働市場の同時均衡の仕組みを理解でき、財政政策や金融政策の影響を論ずることが出来るようにする。学部レベルのマクロ経済学の全体像をつかむ。			
授業の概要			
「経済学入門」で履修した内容の続編として、マクロ経済学の初級部分の概説を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義ノートを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト (40%) + 試験 (60%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては、webclassによりフィードバックを行う。			
備考			

33	マクロ経済学 Macroeconomics	LM-C-204	選択 2単位 2年後期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	乗数過程	乗数過程について、調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第2回	利率を変数にした投資関数	利率を変数にした投資関数を調査・研究する。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第3回	IS曲線	IS曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第4回	貨幣需要と貨幣供給について	貨幣需要と貨幣供給について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第5回	LM曲線	LM曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第6回	与件の変化と政策の効果	与件の変化と政策の効果について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第7回	中間のまとめと試験	それまでに学習した内容を復習する。 試験内容についてノートなどに整理する。	2 2
第8回	AD曲線	AD曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第9回	古典派の第1公準・第2公準	古典派の第1公準・第2公準について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第10回	ケインズ派の労働理論	ケインズ派の労働理論について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第11回	AS曲線	AS曲線について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第12回	経済成長理論	経済成長理論について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第13回	開放経済	開放経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートなどに整理する。	2 2
第14回	まとめと試験	これまでに学習した内容を復習する。 試験内容についてノートなどに整理する。	2 2

34	環境経済学	LM-C-305	選択 2単位 2年後期
	Environmental Economics		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 小祝 慶紀			
授業の達成目標			
我々の生活を取り巻く様々な環境問題（例えば、大気汚染、土壌汚染、廃棄物リサイクル、地球環境）の発生背景を理解し、持続可能な社会作りのための多様な政策手法について、理論・実際両面からの理解を深める。			
授業の概要			
現代の環境問題は複雑で、我々が環境汚染の被害者にも加害者にもなりうる可能性がある。このような環境問題への対処として、これまでは法規制によってその対策が行われてきた。しかし、それだけでは我々の社会経済を持続可能な社会へと変化させていくことは難しい。そこで、本講義は、まず、環境問題への対応として経済学の理論的展開について講義する。次に、具体的な問題への政策について講義する。これらを踏まえ、持続可能な社会の構築のため、環境経済学の果たす役割について考えていく。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業の事務部局において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
グラフィック 環境経済学 浅子和美、落合勝昭、落合由紀子 新世紀社 2018			
参考書等			
参考書は、適宜授業で紹介する。 毎回レジュメをWebClassへ掲載するので、必ずダウンロードしておくこと。			
成績評価方法・基準			
授業内課題 30% 中間レポート 20% まとめの試験 50%を基本とし、その他小テストなどの合計得点を総合的に評価する。 なお、中間レポート等については、第1回授合のときに提示する。 中間レポートのついては、第1回の授業の時に提示する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内課題など授業で提示したレポート等については、次回の授業で全体に対してレポートでの重点事項等の解説を行い、フィードバックする。			
備考			

34	環境経済学	LM-C-305	選択 2単位 2年後期
	Environmental Economics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	環境経済学への招待 (イントロダクション)	教科書の次の単元を事前に読んでおく。	2
第2回	環境問題とは何か	教科書全般を概観する。	2
第3回	環境問題とは何か	環境問題の種類や歴史を事前に調べる。	2
第4回	経済学と環境経済学 (1) 市場の役割	授業の最後に指定した箇所を復習する。環境問題の歴史をまとめる。	2
第5回	経済学と環境経済学 (1) 市場の役割	市場メカニズムについて事前に調べる。	2
第6回	経済学と環境経済学 (1) 市場の役割	市場の役割についてまとめる。特に「市場の失敗」とその要因の一つである外部不経済についてまとめる。	2
第7回	経済学と環境経済学 (2) 環境経済学の目的と課題	経済学における環境経済学の位置づけについて調べる。	2
第8回	経済学と環境経済学 (2) 環境経済学の目的と課題	授業の最後に指定した箇所を復習する。環境経済学の今日的課題をまとめる。	2
第9回	経済学と環境経済学 (3) 外部効果	市場の失敗について事前に調べる。	2
第10回	環境問題への対処 (1) 直接規制	授業の最後に指定した箇所を復習する。「市場の失敗」とその要因の一つである外部不経済についてまとめる。	2
第11回	環境問題への対処 (1) 直接規制	環境法制度について事前に調べる。	2
第12回	環境問題への対処 (2) 経済的手法	授業の最後に指定した箇所を復習する。これまでの環境規制の効果をまとめる。	2
第13回	環境問題への対処 (2) 経済的手法	経済的インセンティブについて事前に調べる。	2
第14回	環境問題への対処 (2) 経済的手法	授業の最後に指定した箇所を復習する。環境経済学の基礎的政策についてまとめる。	2
第15回	ゲストスピーカーによる環境政策の事例紹介	環境対策お手法を開発している企業の方を招いて講義を行う。当該企業について事前に調べる。	2
第16回	環境問題への対処 (3) 社会的共通資本とは何か	企業の環境政策についてまとめる。	2
第17回	環境問題への対処 (3) 社会的共通資本とは何か	授業の最後に指定した箇所を復習する。社会的共通資本の概念を調べる。	2
第18回	環境を評価する	授業の最後に指定した箇所を復習する。社会的共通資本の考え方についてまとめる。	2
第19回	環境を評価する	環境を評価することとは何かについて事前に調べる。	2
第20回	ごみ問題を考える	授業の最後に指定した箇所を復習する。環境の価値を貨幣へ評価する手法をまとめる。	2
第21回	ごみ問題を考える	ごみ問題について事前に調べる。	2
第22回	ごみ問題を考える	授業の最後に指定した箇所を復習する。身近なごみ問題について考えてみる。	2
第23回	エネルギーと環境・資源	日本のエネルギー源を事前に調べる。	2
第24回	エネルギーと環境・資源	授業の最後に指定した箇所を復習する。再生エネルギーの今後について考える。	2
第25回	地球環境問題と持続可能性	持続可能性とは何か、事前に知らべる。	2
第26回	地球環境問題と持続可能性	授業の最後に指定した箇所を復習する。SDGsと環境問題について考える。	2
第27回	まとめと試験	教科書やノートなどをきちんとまとめ、	2
第28回	まとめと試験	これまでの学習内容を復習しておく。	2

35	映像・イメージ学	LM-E-202	選択 2単位 2年後期
	Film Study and Theory of image		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 猿渡 学			
授業の達成目標			
この講義は、1年次必修科目「メディアコミュニケーション入門」の講義内容をより実践的に展開する。「映像(動画)」と「写真」がメディアであることの理解を前提として、具体的な映像制作をおこなうための企画立案と、制作のための知識と技術を習得することを目標とする。その過程において、企画実現に向けて必要な手続きの仕方やドキュメントの作成など、映像制作に関わる周辺領域についての知識と経験を蓄積する。			
授業の概要			
映像やイメージについての概略を解説する。映像制作のワークフローに従ってプリプロダクションからポストプロダクションまでの一連の流れをシミュレーションする。実際に企画立案と実現を目指して、グループワークをおこなう。講義形式のセクションとグループワークのセクションにわかれており5分程度のショートムービーの作成を試みる。なおこの講義は実践をとまなうもので、講義以外の作業時間が必須であることを確認の上、履修すること。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
配付資料によって講義を進めるほか、参考資料や映像などは適宜指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
ステップに応じた課題(A)を実施するとともに、作品提出の形式レポート(2作品)を課す(40ポイントずつ2回)。Aについては20ポイント、Bについては80ポイントを満点とし、(A)と(B)の合算によって最終評価とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
LMSを用いて各作品については進捗状況を含めてフィードバックを行う。優秀作品については配信などを行うこともある。			
備考			

35	映像・イメージ学	LM-E-202	選択 2単位 2年後期
	Film Study and Theory of image		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション	1年次必修科目「メディアコミュニケーション入門」の復習をおこなう。事前に資料を通読しておくことを予習課題とする。写真技術と映像技術について確認しておくことを復習課題とする。	2
第2回	映像学史	映像学についての研究史を概観する。映画が誕生してから今日に至るまでの技術的な発達史を中心に、映像と私たちの暮らしとの関わり方について考察する。映像学について所定の書籍・文献などに当たることを予習課題とする。講義の内容を踏まえてまとめることを復習課題とする。	2
第3回	写真史	写真について概観する。写真については、特にポートレートについての写真史を中心に私たちの暮らしとの関わり方について考察する。ポートレートによる組写真を作成することを予習課題とする。写真批評を復習課題とする。	2
第4回	映像制作のワークフロー: プリプロダクション(企画の立案)	与えられたテーマに基づいて、ブレインストーミングを経て企画を立案する。企画原案の作成と関係書類の書き方などを実習する。企画の骨子を作成することを予習課題とする。提出用の企画書の作成を復習課題とする。	2
第5回	映像制作のワークフロー: プリプロダクション(プレゼンテーション)	企画書に基づいて、プレゼンテーションを展開する。第三者に対して説得力のあるプレゼンテーションをおこなうためのポイントを解説する。プレゼンテーション資料を作成することを予習課題とする。プレゼンテーションをおこなった結果を踏まえて改善点などをまとめることを復習課題とする。	2
第6回	映像制作のワークフロー: プリプロダクション(制作の準備)	企画に基づいた具体的な制作過程を構築するために必要なプロセスを学ぶ。撮影前の段階の全ての過程をシミュレーションし、実現可能かどうかの判断をおこなう。実際に制作された作品のプロセスを知る(配付資料などを用いる)ことを予習課題とする。実現可能かどうかの判断とその根拠をまとめることを復習課題とする。	2
第7回	映像制作のワークフロー: プロダクション(撮影機材について)	企画に基づいた撮影を行うために機材の選定とその習得を目指す。映像技術についての確認(配付資料など)をおこなうことを予習課題とする。機材の使い方を確認することを復習課題とする。	2
第8回	映像制作のワークフロー: プロダクション(撮影)	プリプロダクションで作成したスケジュールに従って撮影のシミュレーションをおこなう。それぞれの役割分担などについて確認する。使用する機材についての習熟度を確認することを予習課題とする。撮影時にそれらが発揮されたかどうかを相互チェックすることを復習課題とする。	2
第9回	映像制作のワークフロー: ポストプロダクション(編集ソフトの実践)	大学で使用可能な編集ソフトを用いて、編集のワークフローを確認する。コンピュータで編集作業をする際の注意点などを確認することを予習課題とする。	2
第10回	映像制作のワークフロー: ポストプロダクション(編集について)	編集について1年次必修科目「メディアコミュニケーション入門」の内容を確認する。編集における方法論を確認する。予習課題として編集について学び、実際に編集ソフトを用いた簡単な編集を行うことを復習課題とする。キャプチャーによって素材を整理することを復習課題とする。	2
第11回	映像制作のワークフロー: ポストプロダクション(編集の実践)	粗い編集をおこない作品全体の流れを確認する。スクリプトに従って編集した場合と、作品として成立させるために編集を行なった場合との違いについて学ぶ。スクリプトに則った編集をおこなうことを予習課題とする。編集のテクニックを確認することを復習課題とする。	2
第12回	映像制作のワークフロー: ポストプロダクション(音響編)	収録した音と映像のリンクだけではなく、整音(雑音処理など)をおこなう。音響に関するソフトウェアの使い方を習得する。音響処理についての知識を配付資料などで確認することを予習課題とする。音の演出処理をおこなうことを復習課題とする。	2
第13回	映像制作のワークフロー: ポストプロダクション(完成)	作品を完成させるために必要なクレジットなどを入れる。その際、Illustrator や aftereffect などのソフトウェアの習得を目指す。そのため、クレジットなどを事前に作成しておくことを予習課題とする。制作した映像に効果的にクレジットなどを入れることで、作品として完成させることを復習課題とする(提出)	2

35	映像・イメージ学	LM-E-202	選択 2単位 2年後期
	Film Study and Theory of image		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 14 回	広告素材とは？	作品の完成に伴い、必要な宣伝素材の作成をおこなう。写真を用いて、レイアウトの知識を活かしながら、Illustratorでポスターをアウトプットする。第13回でおこなったIllustratorの使い方を確認することを予習課題とする。	2
		ポスターを実際に制作することを復習課題とする。	2

36	パブリックスピーチ	LM-F-205	選択 2単位 2年後期
	Public Speech		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 佐藤 夏子 大石 加奈子			
授業の達成目標			
聴衆に対する効果的なスピーチ (日本語・英語) の仕方と準備法を身につける。			
授業の概要			
本講義では、聴衆に対してスピーチをする際の、発声、発音法、姿勢、伝え方、非言語コミュニケーションの効果的な使用方法、聴衆を前にした際の心理面のコントロールについて学ぶ。クラスを2つに分け、1クラスはこのシラバス通りに進み、第8回～第14回の内容を先に学習し、続いて第1回～第7回の内容を学習する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
開講時に指示する。			
参考書等			
一流ビジネスパーソンが無意識にやっている 英語でプレゼン・スピーチ 15の法則 25のスライドタイプで鍛える! 愛場吉子 三修社 2017 ロジカルに伝わる 英語プレゼンテーション 必須英語表現、資料作成のノウハウ、オンラインでのプレゼンの段取り 江藤友佳 クロスメディア 2021			
成績評価方法・基準			
毎回の授業でのコミュニケーションワーク (40%) と、第7回、第14回のスピーチ発表 (60%) を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
毎回の授業の提出課題については、LMS および授業内にフィードバックする。			
備考			

36	パブリックスピーチ	LM-F-205	選択 2単位 2年後期
	Public Speech		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	パブリックスピーチ基本スキル 演習: 日本語スピーチを学ぶ目標をスピーチ	人間の五感に働きかける表現の効果について資料を読んで予習をし、学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第2回	人間の五感に働きかける表現 演習: 会社新入社員として挨拶スピーチ	実物を使ってスピーチする練習をしていく。学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第3回	実物や模型を使ったスピーチ 演習: 自社製品を説明する。	ボディランゲージの効果について資料を読んで予習をしていく。/学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第4回	ボディランゲージとアイコンタクトの効果的な活用 演習: 新入社員に仕事の価値をスピーチする	スピーチの構成について資料を読んで予習をしていく。学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第5回	ポインターの効果的な使い方 演習: 百貨店企画部での製品説明をする。	自己のスピーチに必要な資料を準備していく。学んだことをもとに繰り返し発表練習を行う。	2
第6回	本番成功に備えるリハーサルの方法 演習: 次週の発表のリハーサルを行う。	仲間にも聞いてもらい繰り返し発表練習を行う。これまで得たスピーチスキルを将来どのように活用するかまとめる。	2
第7回	スピーチ発表会 (日本語)	スピーチ発表の練習をよくする。自分の日本語スピーチについて振り返ってみる	2
第8回	英語のスピーチ・プレゼンテーションの特徴 演習: Self-introduction モデルスピーチの内容	Self-introduction スピーチ原稿の内容を考える。スピーチ原稿を何度も音読する。	2
第9回	音読とシャドウイングの効用 演習: Self-introductionSpeech 原稿作成	授業の資料を読んでくる。学習したことを元に音読練習を行う。	2
第10回	英語発話の際の声の効果と発音の明瞭さ 演習: Self-introduction スピーチの発表と peer ev	授業の資料を読んでくる。英語の発話と発音練習を行う。	2
第11回	英語の発音の特徴 演習: 日本人が苦手な音の発音練習	授業の資料を読んでくる。優れたスピーチの動画を何度も視聴して、シャドウイングを行う。	2
第12回	よいスピーチ・プレゼンテーションから学ぶジェスチャーとアイコンタクトの使い方 英語	授業の資料を読んでくる。効果的なジェスチャーとアイコンタクトの仕方について練習する。発表会のスピーチ原稿を完済させる。	2
第13回	発表会の英語スピーチのリハーサル	スピーチ発表会の発表練習を何度も行う。復習: 発表回リハーサルでの自分のスピーチについて自己評価をしてみる	2
第14回	スピーチ発表会 (英語)	スピーチ発表会の発表練習を完璧にして暗記する。発表回の自分のスピーチについて自己評価をしてみる。	2

37	社会調査 II	LM-H-304	選択 2単位 2年後期
	Social Research II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		○ アクティブラーニング	
		実務経験のある教員担当	
		○ メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 亀井 あかね			
授業の達成目標			
前半は、社会調査の種類論(量的・質的・直接的・間接的)について解説する。後半は、調査の進行プロセスに沿って体験しながら、「調べ」「読み」「分析」したものを「書く」という社会調査の方法を身につける。技術的な意味でさまざまな分析アプローチを使えるようになるだけでなく、調査行為そのものについての再帰的な思考に習熟することが最終的な目標である。			
授業の概要			
量的調査において、調査票調査を中心に、関連する統計学的知識について講義する。質的調査において、既存文献の検討・インタビュー調査についての基礎的事項を講義する。量的調査・質的調査それぞれの知識を習得するため、小テストを実施する。地域研究(データ収集・分析)により社会調査のプロセスを体験(Forms, Excel等を活用した演習)する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
【電子教科書】社会調査の考え方 下、佐藤郁哉・著、東京大学出版会。			
参考書等			
社会調査の考え方 上、佐藤郁哉・著、東京大学出版会。 Excelではじめる調査データ分析：企画から統計解析まで、喜岡恵子・著、オーム社。 独自資料：その他の参考文献は適宜紹介する 履修要件：事前に「社会調査Ⅰ」を単位修得していることが望ましい			
成績評価方法・基準			
課題(予習ノート、小テスト、中間試験、期末試験、等)を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テスト(演習問題)は実施当日の講義もしくは次回講義で解説する。 中間試験および期末課題に関しては教科書出題箇所をWebClass等で示す。			
備考			

37	社会調査 II	LM-H-304	選択 2単位 2年後期
	Social Research II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回	因果推論：社会事象と統計学	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第2回	標本調査と標本数	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第3回	既存資料の活用：二次分析	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第4回	リサーチ・リテラシー(1) 単純集計・度数分布・代表値	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第5回	リサーチ・リテラシー(2) クロス集計	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第6回	リサーチ・リテラシー(3) 相関関係・擬似相関・因果関係	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第7回	リサーチ・リテラシー(4) 検定・推定の理論	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第8回	リサーチ・デザイン：調査企画・調査報告書の書き方	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第9回	混合研究法	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第10回	地域研究(1) 調査企画と準備	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2
第11回	地域研究(2) 実査・データ集	講義の学習内容について教科書で予習すること。 当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート(含小テスト)・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2 2

37	社会調査 II	LM-H-304	選択 2単位 2年後期
	Social Research II		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 12 回	地域研究（3）分析	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
		当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート（含小テスト）・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2
第 13 回	地域研究（4）調査報告書作成	講義の学習内容について教科書で予習すること。	2
		当該学習内容について授業中に小テストを実施する。小テストの解説は翌授業内で取り上げ、各学生が講義内容を繰り返し学習により学びの定着を促す。教科書・ワークシート（含小テスト）・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2
第 14 回	まとめと期末試験	第1～13回講義の学習内容について教科書で復習すること。	2
		当該学習内容について授業中に期末試験を実施する。教科書・ワークシート（含小テスト）・参考資料を活用し、復習することで更に繰り返し学習に取り組むこと。	2

38	ネットワークとビジネス Network and Business	LM-G-202	選択 2単位 2年後期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/> 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
<input type="checkbox"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
<input type="checkbox"/> オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	<input type="radio"/> 教職科目 (商業)		
<input type="checkbox"/> クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 本田 秀行			
授業の達成目標			
インターネットの普及により、時間と場所の制約を超え、膨大な情報の活用が可能となり、インターネットを活用したビジネスも生まれている。本授業では、社会において情報通信ネットワークを活用するための基礎を学ぶ。			
授業の概要			
インターネットが生まれた背景を学ぶと共に、インターネットの各プロトコル階層の役割を学んだ後、インターネットを活用したビジネスについて学ぶ。また、情報セキュリティマネジメントについても学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
独自資料			
参考書等			
適宜紹介する			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テスト (20%) 中間試験 (30%) 宿題、レポート (50%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中に提示する課題等はすべて LMS を用いて実施し、フィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

38	ネットワークとビジネス Network and Business	LM-G-202	選択 2単位 2年後期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ネットワークの基本概念	ネットワークとは何か、基本用語の調査 講義内容のレビュー、用語の整理	2 2
第2回	回線交換方式とパケット交換方式	回線交換方式とパケット交換方式の基本理解 各方式の利点と制限の比較、実世界の応用例の検討	2 2
第3回	インターネットとネットワークモデルの概要	OSIモデルとTCP/IPモデルの基本概念の理解 講義での説明の復習、モデル間の違いと特徴の比較	2 2
第4回	アプリケーション層の概要	アプリケーション層の主要なプロトコルの調査 アプリケーション層の役割とプロトコルの役割の深掘り	2 2
第5回	トランスポート層の概要	TCPとUDPの基本的な違いの理解 トランスポート層のセキュリティとパフォーマンスの詳細検討	2 2
第6回	インターネット層の概要	IPアドレス、IPv4とIPv6の基本的な違い ルーティングの原理とアドレス解決プロトコルの詳細分析	2 2
第7回	ネットワークインターフェース層の概要	LAN/WAN技術、データリンク層の基本 物理層の概念、ケーブルタイプとネットワークデバイスの詳細研究	2 2
第8回	IoTとネットワーク技術	IoTの基本とBluetooth, LPWAの概要調査 IoTのビジネス応用事例の詳細な分析等	2 2
第9回	情報セキュリティマネジメント	セキュリティの基本原則と主要なセキュリティ技術の調査 セキュリティポリシーとリスクマネジメントの実際の適用例の復習	2 2
第10回	中間試験とその解説	中間試験に備え、これまでの学習内容を復習する。 配付された解答により、中間試験を復習する。	2 2
第11回	Webの高度な利用	現代のWeb技術とクラウドコンピューティングの基本 Webベースのビジネスモデルとその事例の詳細分析	2 2
第12回	ネットビジネスの歴史	インターネットの発展史と初期のネットビジネス ビジネスモデルの変遷とデジタル革命の影響の深掘り	2 2
第13回	ネットビジネスの類型化	ネットビジネスの類型化について、授業資料を読み理解する。 ネットビジネスの類型化について復習し、宿題を行う。	2 2
第14回	ネットビジネスの事例研究	ネットビジネスの事例について、授業資料を読み理解する。 ネットビジネスの事例について復習し、宿題を行う。	2 2

39	経営コミュニケーション学総合演習 II	LM-I-203	選択 1単位 3年前期
	Management and Communication Integrated Study II		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	<input type="radio"/> 地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 佐藤 勝幸			
授業の達成目標			
経営コミュニケーション学総合演習 I と一体となって、地域創生論での学習内容をもとに、地域創生のために活動している団体と連携し、実際に地域創生のための提案をまとめることにより、地域創生策の立案力を養成する。経営コミュニケーション学総合演習 II では、経営コミュニケーション学総合演習 I での課題設定に基づき、提案作成(含む、プレゼン)までを行う。			
授業の概要			
宮城県や仙台市などのフィールドで地域創生のために活動している団体と連携しながら、実際に地域創生策を検討して提案を作成する。			
実務経験を活かした教育について			
技術士及び経営コンサルタントとして、実際の地域や事業者等を行っている地域活性化事業のノウハウを活かして、実践性の高い教育を行う。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない、必要に応じて適宜ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
特になし			
成績評価方法・基準			
地域創生策作成への取り組み(30%) 地域創生策(50%) プレゼンへの取り組み(20%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各授業の前に状況をフィードバックする。			
備考			

39	経営コミュニケーション学総合演習 II	LM-I-203	選択 1単位 3年前期
	Management and Communication Integrated Study II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	課題設定の検討	課題設定の修正を事前に検討する。	0.5
第2回	課題設定の深堀	修正された課題設定を振り返る。	0.5
第3回	解決に向けた好事例の発掘	当該地域の課題設定について深堀する。	0.5
第4回	発掘した好事例の調査	当該地域の課題を振り返り、課題理解を深める。	0.5
第5回	解決策の方向性の検討	好事例を事前発掘する。	0.5
第6回	解決策の方向性の連携先団体への確認	発掘された好事例を整理する。	0.5
第7回	解決策の検討	好事例を事前調査する。	0.5
第8回	解決策の具体化①	好事例の調査結果を振り返る。	0.5
第9回	解決策の具体化②	解決策の方向性を事前に検討する。	0.5
第10回	解決策の実現に対する制約の洗い出し	解決策の方向性を振り返る。	0.5
第11回	制約に基づく解決策の修正	確認の事前準備をする。	0.5
第12回	地域創生策の作成	確認結果を整理する。	0.5
第13回	地域創生策の取りまとめ	解決策を事前に検討する。	0.5
第14回	地域創生策の連携先団体へのプレゼンと振り返り	具体化された解決策を振り返る。	0.5
		事前検討した解決策の深堀する。	0.5
		具体化された解決策を振り返る。	0.5
		制約を事前に検討する。	0.5
		洗い出された制約を振り返る。	0.5
		解決策の修正を事前に検討する。	0.5
		修正した地域創生策を振り返る。	0.5
		地域創生策を事前に検討する。	0.5
		作成した地域創生策を振り返る。	0.5
		地域創生策を事前に取りまとめる。	0.5
		取りまとめた地域創生策を振り返る。	0.5
		プレゼンの準備をする。	0.5
		講義全体を振り返り学んだこと、反省すべきことをまとめる。	0.5

40	経営コミュニケーション概論Ⅰ	LM-J-305	必修 1単位 3年前期
	Management and Communication StudiesⅠ		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 佐藤 夏子 宮曾根 美香 猿渡 学 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 川島 和浩 黎 敏利			
授業の達成目標			
①自らの研究領域に関わる専門知識を深め、問いを立てる力、分析する力、考える力、判断する力、創造する力、発表する力を養う。 ②自己の行動に対するマネジメント、教員・学友とのコミュニケーション、ならびに文献・データ等の整理といった社会に出てから必要なスキルの基本を身につける。			
授業の概要			
各学生が所属する研究室の目標、研究領域に親しむ。毎回の授業では、文献講読をもとに、発表や議論を行い、卒業研究に対応できる知力を高めていく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
研究室ごとに指示がある。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
ゼミ指導時間内の発表・発言(30%)、レポート課題とプレゼンテーション(70%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
時間内に必要なフィードバックを行う。			
備考			

40	経営コミュニケーション概論Ⅰ	LM-J-305	必修 1単位 3年前期
	Management and Communication StudiesⅠ		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	自己の学びの目標を明確にする。これまでに学んだ基礎科目について復習をする。 ガイダンス内容をもとに今後の自分の研究計画を展望する。	0.5 0.5
第2回	資料調査①	関心のある研究領域に関する資料を探してくる。 自分の研究テーマを考えながら、読んだ資料について整理する。	0.5 0.5
第3回	資料調査②	関心のある研究領域に関する資料を探してくる。 自分の研究テーマを考えながら、読んだ資料について整理する。	0.5 0.5
第4回	資料調査③	関心のある研究領域に関する資料を探してくる。 自分の研究テーマを考えながら、読んだ資料について整理する。	0.5 0.5
第5回	研究テーマ検討①	配属された研究室での学びに必要な図書を事前に読んでおく。 授業で得たことを自己の研究にどう活かすかをまとめる。	0.5 0.5
第6回	研究テーマ検討②	配属された研究室での学びに必要な図書を事前に読んでおく。 授業で得たことを自己の研究にどう活かすかをまとめる。	0.5 0.5
第7回	文献購読①	次回に学ぶ研究内容について予習をする。 授業で得たことを自己の研究にどう活かすかをまとめる。	0.5 0.5
第8回	文献購読②	次回に学ぶ研究内容について予習をする。 授業で得たことを自己の研究にどう活かすかをまとめる。	0.5 0.5
第9回	文献購読③	次回に学ぶ研究内容について予習をする。 授業で得たことを自己の研究にどう活かすかをまとめる。	0.5 0.5
第10回	文献購読④	次回に学ぶ研究内容について予習をする。 授業で得たことを自己の研究にどう活かすかをまとめる。	0.5 0.5
第11回	プレゼンテーション資料の作成方法について学ぶ。	パワーポイントの使い方について図書やネットで検索し、予めしらべておく。 授業で新しく知った知識についてまとめる。	0.5 0.5
第12回	効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	次回に学ぶ研究内容について予習をする。 プレゼンテーションの準備を始める。	0.5 0.5
第13回	研究室毎 プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備を万全にする。 研究室で受けたフィードバックをもとに今後の進め方を考える。	0.5 0.5
第14回	研究室毎 学習計画のフォローアップ	目標にどれほど到達しているかを振り返る。 授業で得たことを後期の研究にどう活かすかをまとめる。	0.5 0.5

41	経営コミュニケーションキャリアセミナー I	LM-D-309	必修 1単位 3年前期
	Management and Communication Carrier Seminar I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 宮曾根 美香			
授業の達成目標			
就職ガイダンス／CAB・GAB・SPI対策／就職講話を通して自らの進路開拓ができるようになる。			
授業の概要			
就職ガイダンス／CAB・GAB・SPI対策／就職講話を通して進路開拓に必要な内容を修得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
なし 『2025年度版 CAB・GAB完全対策』 就活ネットワーク 実務教育出版 2022			
参考書等			
2年次の経営コミュニケーションセミナーIII・IVで使用したもの。 『24 最新! SPI3【完全版】』 柳本新二 高橋書店 2021			
成績評価方法・基準			
各回の小テスト40%、レポート20%、試験40%			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストは、webclassによりフィードバックを行う			
備考			

41	経営コミュニケーションキャリアセミナー I	LM-D-309	必修 1単位 3年前期
	Management and Communication Carrier Seminar I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	就職ガイダンス	自分の興味のある職種・業界について事前に調べる。	0.5
第2回	CAB 暗算 効率的な計算方法を学習する。	ガイダンスの内容、配付された資料の復習をする。	0.5
第3回	GAB 計数① GABで求められていることを理解する	テキストP14~P18の内容を確認しておく	0.5
第4回	GAB 計数② 前回学習したGAB計数の理解を深める	テキストP14~P24の内容を読み直し、問題は解き直しを行う	0.5
第5回	SPI 29図形の展開図・30サイコロ・31空間図形の考え方を学習する	テキストP168~P174の内容を確認しておく	0.5
第6回	CAB 法則性 図形群の法則性を見つけるポイントを学習する	テキストP168~P179の内容を読み直し、問題は解き直しを行う	0.5
第7回	GAB 言語 長文を論理的に読解するポイントを学習する	テキストP128~P129・P132~P133・P136~P137の内容を確認しておく	0.5
第8回	SPI 32軌道と回転・33その他の図形問題の考え方を学習する	テキストP128~P139の内容を読み直し、問題は解き直しを行う	0.5
第9回	CAB 命令表① 命令表の指示を理解し反映させるポイントを学習する	テキストP34~P37の内容を確認しておく	0.5
第10回	CAB 命令表② 前回学習した命令表の理解を深める	テキストP34~P57の内容を読み直し、問題は解き直しを行う	0.5
第11回	CAB 暗号 図形の変化から暗号の内容を解読するポイントを学習する	テキストP214~P221の内容を確認しておく	0.5
第12回	就職対策講話：就職情勢・傾向について	テキストP214~P231の内容を読み直し、問題は解き直しを行う	0.5
第13回	就職対策講話：自己分析について	就職情勢・傾向について、インターネットなどを使って調べる 講話内容を整理する	0.5
第14回	まとめと試験	自分の性格、興味、傾向について、考えてくる 講義内容を整理する	0.5
		これまでの授業内容を復習してくる	0.5
		試験で問われた内容を整理する	0.5

42	経営戦略論	LM-A-307	選択 2単位 3 年前期
	Business Strategy		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 黎 敏利			
授業の達成目標			
経営戦略の理論を理解し、経営実践に応用することができる。 ①経営戦略の理論について、自ら説明することができるようになる。 ②経営戦略論を理解し、実際の経営実務に応用することができるようになる。			
授業の概要			
今後、企業間の競争の激化が予想されるなかで、企業にとってはこれまで以上に経営戦略を意識し、事業計画を策定する必要が高まるであろう。そこで、この授業では、①経営戦略の基本的なフレームワーク、戦略の役割など経営戦略論の基礎的知識の習得と、②理論と実践を結合し、特定の戦略要素に焦点を絞って細分化されている戦略の理論を、戦略の策定プロセスに沿って体系的に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
井上善海・大杉奉代・森宗一(2022)『経営戦略入門』中央経済社。			
参考書等			
他の文献についても授業の中で適宜情報提供を行う。			
成績評価方法・基準			
授業中の課題に対する取り組み状況(30%)、課題レポート(30%)、期末試験(40%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した課題レポートについては、WebClass および次回の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

42	経営戦略論	LM-A-307	選択 2単位 3 年前期
	Business Strategy		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	経営戦略論とは何か	テキスト(序章)を基に経営戦略の定義や役割について考える。 授業ノートを基に経営戦略の定義や変遷、階層についてまとめる。	2 2
第2回	経営戦略の基本: ミッションとドメイン	テキスト(第1章と第2章)を基に企業の経営目的について考える。 授業ノートを基にミッション・ドメインの役割等についてまとめる。	2 2
第3回	経営戦略の基本: 環境・資源分析	テキスト(第3章)を基に、市場環境の分析手法について学ぶ。 身近な企業について、それを取り巻く市場環境をSWOT手法で分析してみる。	2 2
第4回	成長戦略: 成長ベクトルと多角化	テキスト(第4章と第5章)を基に、企業の成長戦略について学ぶ。 身近な企業を観察し、その企業がどのような製品・市場マトリックスで成長してきたか分析する。	2 2
第5回	成長戦略: 製品ポートフォリオ・マネジメント (PPM)	テキスト(第6章)を基に、身近な企業を1社取り上げ、その経営資源の特性について調べる。 企業の経営活動と経営資源の配分の関係についてノートを整理する。	2 2
第6回	成長戦略: 成長戦略の展開	海外展開を行なっている身近な企業を1社取り上げ、その理由について考える。 グローバル戦略とオープン・イノベーション戦略の目的と背景についてノートを整理する。	2 2
第7回	ワークショップー組織が先か、戦略が先か	組織と戦略の関係について考える 「組織と戦略はどちらが先か」について身近な企業例を取り上げ、その理由をまとめる。	2 2
第8回	競争戦略: 業界の構造分析	テキスト(第8章)を基に、業界構造分析のフレームワークについて学ぶ。 具体的な企業を例に、その企業の五つの競争要因を調べてみよう。	2 2
第9回	競争戦略: 競争の基本戦略とバリューチェーン	テキスト(第9章と第10章)を基に、競争戦略の考え方と展開について学ぶ。 具体的な業界を取り上げ、その企業のバリューチェーンについて考えてみよう。	2 2
第10回	ワークショップー戦略の選択と集中	戦略の選択と集中のメリット・デメリットについて考える 日本企業が行った選択と集中の戦略事例を調べてみよう	2 2
第11回	競争戦略: 競争地位と競争定石	テキスト(第9章)を基に、競争地位の考え方と展開について学ぶ。 具体的な業界を取り上げ、その業界の各企業の競争地位がどのようになっているかを考えてみよう。	2 2
第12回	競争戦略: 競争戦略の展開	テキスト(第11章)を基に、タイムベース戦略について学ぶ。 ブルーオーシャン戦略をとる企業事例を調べてみよう。	2 2
第13回	経営戦略の実行と評価	テキストの創発的戦略に関する部分を読んでそのメリットについて考える。 BSCを活用している企業を調べてみよう。	2 2
第14回	まとめと試験	テキストやこれまでの授業ノートを基に復習して試験に備える。 試験問題について解けなかった問題はしっかり確認しておくこと。	2 2

43	日本経済論	LM-C-306	選択 2単位 3年前期
	Japanese Economy		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 金井 辰郎			
授業の達成目標			
第二次世界大戦敗戦後の焼け野原から今日の経済大国まで発展した日本経済の成長の理由と、バブル崩壊以後の低成長経済から抜け出せずにいる日本経済の現状を理解し、次の時代においてとるべき日本経済の戦略を展望する。			
授業の概要			
授業の前半は戦前・戦中から戦後の日本経済史を扱い、中盤以降は現代日本の抱える種々の問題をフォーカスする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義ノートを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト(40点) + 試験(60%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては、webclassでフィードバックを行う。			
備考			

43	日本経済論	LM-C-306	選択 2単位 3年前期
	Japanese Economy		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	日本経済史：戦前・戦中の日本経済	戦前・戦中の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第2回	日本経済史：占領～高度成長前期	占領～高度成長期の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第3回	日本経済史：高度成長前期	高度成長前期の日本経済について調査・研究を行う 講義内容についてノートに整理する。。	2 2
第4回	日本経済史：高度成長後期	高度成長後期の日本経済について調査・研究を行う 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第5回	日本経済史：安定成長の時代	安定成長の時代の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第6回	日本経済史：バブルと平成不況以後	バブルと平成不況以後の日本経済について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第7回	中間のまとめと試験	学習した内容を復習する。 試験内容についてノートに整理する。	2 2
第8回	現代日本経済：社会保障・少子高齢化問題	日本の社会保障・少子高齢化問題について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第9回	現代日本経済：財政	日本の財政について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第10回	現代日本経済：労働問題	日本の労働問題について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第11回	現代日本経済：農業問題	日本の農業問題について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第12回	現代日本経済：金融制度・政策	日本の金融制度・政策について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第13回	現代日本経済：日本経済と地方創生	日本における地方創生の現状及び今後について調査・研究を行う。 講義内容についてノートに整理する。	2 2
第14回	まとめと試験	前回までに学習した内容を理解し、復習する。 試験内容についてノートに整理し、種々の論点について自分の意見を言えるようにする。	2 2

44	中小企業会計論	LM-B-405	選択 2単位 3 年前期
	Accounting Theory for Small and Medium-sized Entities		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 川島 和浩			
授業の達成目標			
<p>本授業では、国内外の中小企業会計をめぐる動向を踏まえ、わが国の中小企業会計基準（中小指針と中小会計要領）の設定プロセスおよびその会計基準のフレームワークについて理解ができることを目標としています。また、中小企業が作成・公表する貸借対照表や損益計算書などの計算書類や財務諸表の数値を正確に読み取り、会計情報利用者の観点から、財務分析ができることを目標としています。</p>			
授業の概要			
<p>わが国の中小企業における会計制度の基礎をなしている会社法会計と税務会計の枠組みとともに、中小企業会計の歴史的な発展を説明し、その理論的前提として大企業と中小企業との属性の違いを明らかにします。そのうえで、中小企業会計の概念的枠組みと方法論的特徴を説明し、中小企業の会計基準として設定された、中小指針と中小会計要領の特徴を明らかにします。特に、最新の会計基準である中小会計要領の論点を整理します。さらに、中小企業の決算書の読み方を解説し、財務分析を行うことで経営実務における数値感覚を養成します。</p> <p>なお、授業時間中に、学生の理解度を確認するために、学生のスマートフォンあるいはパソコンを利用して、Formsによる回答をしてもらいます。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
<p>教科書は使用しません。 授業で使用するPPTスライド資料をテキストの代用とします。</p>			
参考書等			
<p>必要に応じて指示します。 『銀行が貸したい会社が変わる 社長のための「中小企業の決算書」財務分析のポイント』 安田順 日本実業出版社 2022 最新 中小企業会計論 河崎照行 中央経済社 2016</p>			
成績評価方法・基準			
毎回の授業レポート（40%）、課題レポート（20%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート・課題については、WebClass および次回の授業のなかでフィードバックする。			
備考			

44	中小企業会計論	LM-B-405	選択 2単位 3 年前期
	Accounting Theory for Small and Medium-sized Entities		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	中小企業会計の制度的基盤と中小企業会計の制度化の歴史	日本の会計制度の特徴と中小企業会計の制度化の歩みについて調べてみる。 中小企業を規制する計制度が会社法会計と税務会計であることを理解し、中小指針と中小会計要領の設定プロセスを確認してみる。	2 2
第2回	中小企業簿記要領の現代的意義と中小企業会計の理論的基盤	中小企業簿記要領の現代的意義と大企業と中小企業における属性の違いを調べてみる。 中小企業簿記要領の目的を理解し、中小企業会計の理論的前提を確認してみる。	2 2
第3回	中小企業会計の概念的枠組みと方法論および中小企業会計と国際会計基準(IFRS)	中小企業会計基準の概念的枠組みと国際会計モデルと日本型会計モデルとの違いについて調べてみる。 中小企業会計基準における2つのアプローチを理解し、国際会計基準導入のメリットとデメリットについて確認してみる。	2 2
第4回	中小企業会計基準の原点回帰—なぜ、中小会計要領が必要とされたのか—	中小企業会計基準の見直しが要請された背景について調べてみる。 中小指針の問題点を理解し、中小会計要領策定の論点について確認してみる。	2 2
第5回	中小会計要領における「総論」9項目の考察	中小会計要領における9項目の総論と14項目の各論の構成について調べてみる。 中小会計要領の基本的な考え方を理解し、記帳の重要性について確認してみる。	2 2
第6回	中小会計要領における「各論」2項目—収益費用の基本的な会計処理と資産・負債の基本的な会計処理—	企業会計における収益費用アプローチと資産負債アプローチの違いについて調べてみる。 発生主義会計の認識・測定と費用性資産の評価の重要性について確認してみる。	2 2
第7回	計算書類の信頼性保証と中小企業会計の普及・活用の戦略モデル	中小企業における計算書類の信頼性がどのように保証されているかについて調べてみる。 会計参与制度と書面添付制度を理解し、中小企業会計の普及・活用に向けた戦略モデルについて確認してみる。	2 2
第8回	中小企業における決算書の読み方	貸借対照表と損益計算書の構成要素とその仕組みについて調べてみる。 企業取引によって変動する、資産、負債、純資産からなる貸借対照表と収益と費用からなる損益計算書の関係性について確認してみる。	2 2
第9回	中小企業における財務体質の改善点と借入金の返済計画	中小企業に融資する銀行が重視する会計項目がどのようなものであり、どのような財務比率にもとづいて融資が判断されるかについて調べてみる。 中小企業に融資する銀行が重視する「営業利益」と「経常利益」の赤字が2期以上継続していないか、支払利息の返済額が増減しているかについて確認してみる。	2 2
第10回	中小企業における決算書の財務分析方法	中小企業に融資する銀行が重視する財務比率の指標について調べてみる。 中小企業の事業性評価がどのように行われているかを理解し、決算書において活用される財務指標について確認してみる。	2 2
第11回	中小企業における資金計画—キャッシュフロー計算書の活用—	中小企業における資金繰り表であるキャッシュフロー計算書の構成について調べてみる。 中小企業の資金繰りの重要性を理解し、財務キャッシュフローの役割について確認してみる。	2 2
第12回	中小企業における貸借対照表の実践的な読み方と考え方	中小企業における貸借対照表の論点について調べてみる。 中小企業の貸借対照表における流動・固定項目の関係を理解し、財務の安定性を確保するための資金管理について確認してみる。	2 2
第13回	中小企業における税務会計実務	中小企業における法人税の計算構造と税金計画（タックス・プラン）について調べてみる。 法人3税である「法人税、住民税及び事業税」について理解し、中小企業の節税策や繰越欠損金の活用について確認してみる。	2 2
第14回	中小企業会計論の振り返りの授業を行い、理解を確認するために期末試験を実施する	授業ノート等により授業内容の理解を深めて期末試験に備える。 期末試験に出題した問題について再確認をしてみる。	2 2

45	異文化コミュニケーション	LM-D-306	選択 2単位 3 年前期
	Intercultural Communication		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 富川 多佳子			
授業の達成目標			
<p>「異文化」とは外国文化だけを指すのではなく、自分以外の人はずべて異文化だと定義される。この授業では、まず異文化適応、異文化の認識など、今日のグローバル社会で、日本人を含む多様な価値観をもつ人々と協調・協働して生きていくために必要な知識を学ぶ。次に他者と同様に自己への理解し認め、互いに対等で差別のない心の持ち方を成長させる。さらに効果的な非言語も活用したアサーティブ・コミュニケーションの技術を修得し、対等・共感・尊重・信頼を基盤とした「多文化共生社会を実現できる人」になることを目指す。</p>			
授業の概要			
<p>「異文化コミュニケーション」の定義の共通認識から始め、そのコミュニケーションを学ぶことにより、人間が社会でどう豊かに生きるかを学ぶ。自己の文化についての理解と考えを深めると同時に、他者がもつ多様な価値観をどのように認識するかを演習を通じて実践的に学ぶ。他者の異なる価値観を認めながら、どのように自分を表現するかについてはグループワーク等を通して学習者相互から学んでいく。グループワークでは、配布されるペーパーを用いて自己のアイデアを整理したのちに学習グループ内で意見交換を行い、自己と他者の考えや価値観の違いを客観的に分析する。また、定期的に異なるメンバーと学習グループになってコミュニケーションの演習を行うことにより、異文化コミュニケーション力のさらなる向上を目指す。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
原沢伊都夫「異文化理解入門」(研究社) 独自資料			
参考書等			
適宜紹介する			
成績評価方法・基準			
コミュニケーションワーク (50%)、毎回の授業で記入・提出するリアクションペーパー (30%)、最終授業で記入・提出するリアクションペーパー (20%) を総合的に評価する。毎回の授業で出される課題については次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
毎回の授業での提出課題については次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

45	異文化コミュニケーション	LM-D-306	選択 2単位 3 年前期
	Intercultural Communication		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション 異文化を理解する 異文化理解の意義を学び、自己の目標を見出す	本シラバスをよく読んでくる。異文化コミュニケーションについて調べてくる。 授業で説明された概要を再確認する。自己のコミュニケーションの目標を明確にする。	2
第2回	文化とは(その1) 「文化」とは何か、自分の言葉で説明できるようになる	「文化」の定義について教科書を読んで予習をしてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第3回	文化とは(その2) 多文化共生社会実現のために、自分を支える文化をよく	多文化共生について教科書を読んで予習してくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第4回	異文化適応 異文化に馴染む過程を学び、自分の異文化適応に役立て	異文化適応について教科書を読んで予習してくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第5回	異文化の認識 固定観念に捕らわれる自分に気づき、そこから解放され	固定観念とステレオタイプについて教科書を読んで予習をしてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第6回	差別を考える(その1) 差別の種類を学び、差別が生まれる背景について考える	身近に起きている差別について調べてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第7回	差別を考える(その2) 多文化共生に向け差別をなくしていくための考えを述べ	身近に起きている差別について調べてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第8回	世界の価値観 価値観に関する4つの理論を学び自分をより客観的に見	世界の価値観の理論を教科書を読んで予習してくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第9回	異文化トレーニング 文化の違いによる不信感を解決し、関係を向上させる	外国と日本との文化の違いについて調べてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第10回	異文化受容 異文化の段階的な受容プロセスを知り、適応に役立てる	異文化受容の段階的プロセスを教科書を読んで予習してくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第11回	自分を知る 自分自身の自己開示度を知り、向上させる	ジョハリの窓について教科書を読んで予習をしてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第12回	非言語的コミュニケーション 効果的な非言語コミュニケーションを日常生活で活用する	非言語コミュニケーションの効果について教科書を読んで予習をしてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第13回	アサーティブコミュニケーション 日常で使えるアサーティブな依頼の仕方や断り方を学ぶ	アサーティブネスの概念について教科書を読んで予習をしてくる。 学んだことを実生活で活用して復習する。	2
第14回	多文化共生社会の実現に向けて 多文化共生社会実現に向けての取り組みを具体的に考え	多文化共生社会の実現方法について教科書を読んで予習をしてくる。 全体の授業を通じて得たことをまとめてくる。 学びを今後どう活かすかについてまとめる。	2

46	ビジネスイングリッシュ	LM-F-306	選択 2単位 3 年前期
	Bussiness English		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		○ 教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 佐藤 夏子			
授業の達成目標			
ビジネス通信(手紙、電子メール)の基本、社交関係の英語(面会の申し入れ、ホテルの予約、慶弔など)、雇用関係の英語(履歴書、応募の手紙など)引き合い、オファー、クレームの調整のビジネス文書を作成できるようになる。また電話での会話に習熟する。ビジネス英語検定3級合格程度の実力をつけることを目標とする。			
授業の概要			
ビジネス通信(手紙、FAX、電子メール)の基本を学び、社交関係、雇用関係、取引関係のビジネス文書を実際に作成する。ビジネス英語検定3級の問題にも取り組む。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は初回授業までに指示する。			
参考書等			
売上1000億円超! 海外営業のプロが教える 世界基準のビジネス英語表現 関一宏 アルク 2020 改訂版 日商ビジネス英語検定2・3級公式模擬問題集 日本商工会議所 日本能率協会マネジメントセンタ? 2014 改訂版日商ビジネス英語検定2級公式テキスト 日本商工会議所 日本能率協会マネジメントセンタ? 2014 ネス英語検定3級公式テキスト 日本商工会議所 日本能率協会マネジメントセンタ? 2014 英文ビジネス eメールの教科書ー書き方の基本から応用表現まで 柴田真一 NHK出版 2019 ビジネス英語表現大辞典6000 + イジューン アルク 2018 英会話ペラペラビジネス100 (スティーブ・ソレイシィの英会話シリーズ) スティーブ ソレイシィ アルク 2021			
成績評価方法・基準			
定期試験(70%)、課題への取り組み(30%)で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題へのフィードバックはML および授業内に行う。			
備考			

46	ビジネスイングリッシュ	LM-F-306	選択 2単位 3 年前期
	Bussiness English		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション ビジネス英語検定について	ビジネス英語検定のウェブサイトアクセスし、ビジネス英語検定の概要について理解する。ビジネス英語検定の例題を解いてみる。	2
第2回	ビジネス通信の基本: 英文ビジネスレターの構成要素とフォーム	英文ビジネスレターの構成要素とフォームの特徴について考える。英文ビジネスレターの構成要素とフォームに関する練習問題に取り組む。	2
第3回	ビジネス通信の基本: 電子メール	英語の電子メールと日本語の電子メールの違いについて考える。復習: 課題の文章を電子メールで送ってみる。	2
第4回	電話による応対	電話で用いる英語と通常の英会話の違いについて考える。電話で用いる英語表現を何度も音読して覚える。	2
第5回	面会の申し入れとその対応	面会のアポイントを取るために留意すべき点について考える。面会を申し入れるレターを作成する。	2
第6回	履歴書の構成と書き方	日本語で履歴書を作成し、英文履歴書の例を見て、日本語の履歴書との違いについて考える。復習: 英文履歴書を作成する。	2
第7回	就職応募の手紙と面接	就職の面接の際に留意すべき点について考える。復習: 履歴書と共に送付する就職応募の手紙を作成する。	2
第8回	ホテルの予約	ホテルの予約について留意すべき点について考える。ホテルを予約するメールを作成する。	2
第9回	社交関係の英語: 慶弔	日本語による慶弔の通信文の例について考える。英語で慶弔の通信文を作成する。	2
第10回	引き合い	ビジネスにおいて問い合わせが必要な場合はどのような場合か考える。復習: 引き合いのビジネスレターを作成する。	2
第11回	クレームとその対応	クレームをする際に留意すべきことについて考える。クレームに対応するビジネスレターを作成する。	2
第12回	ビジネス英語検定3級 模擬問題第1回	ビジネス英語検定3級 模擬試験問題を自分の力で解いてみる。模擬試験問題(1)の間違った箇所を再度取り組む。	2
第13回	TOEICに見られるビジネスイングリッシュ	TOEICの練習問題を自分の力で解いてみる。TOEIC練習問題の間違った個所に再度取り組む。	2
第14回	課題の総括とまとめテスト	これまでの学習内容をふりかえり、まとめテストの準備をする。まとめテストのためにこれまでの学習内容を総復習する。	2

47	映像心理学	LM-D-305	選択 2単位 3 年前期
	Psychology of Visual Image		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
情報技術の発達により、情報伝達や表現のために文書や音声だけでなく、映像が用いられることが多くなった。この講義では、映像の認知に関与する人間の情報処理過程を学ぶことで、マルチメディアを情報伝達手段に用いる効果的な方法を考える力を身につける。			
授業の概要			
この講義では、映像を認知する際の人間の心の仕組みを認知心理学の研究を中心に学んでいく。具体的には、映像を見るのに必要な人間の基礎的な情報処理能力から始まり、映像が人間の心理側面に与える影響まで、人間と映像に関わる複数のテーマについて学習する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
映像の心理学ーマルチメディアの基礎ー 中島義明著 サイエンス社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
グループワークの得点および授業中に行う小テスト (40%)、期末試験 (60%) の総合点で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中に提示する課題はすべて LMS を用いて実施し、レポートのフィードバックも LMS を通じて行う。			
備考			

47	映像心理学	LM-D-305	選択 2単位 3 年前期
	Psychology of Visual Image		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	映像心理学とは (ガイダンスを含む)	予習として関連本などをよみ映像心理学に関してどのようなものかイメージを持っておく。 講義で学んだことをノートに整理し、復習する。	2
第 2 回	運動の知覚 (1) "運動の見え" について	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 講義で得た知識をノートにまとめ復習する。	2
第 3 回	運動知覚 (2) 運動知覚の脳内基盤	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 運動知覚の脳内基盤についてノートにまとめ復習する。	2
第 4 回	立体視の知覚	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 立体視の脳内基盤についてノートにまとめ復習する。	2
第 5 回	映像での立体的表現	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像での立体表現についてノートにまとめ復習する。	2
第 6 回	映像の認知	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像の認知についてノートにまとめ復習する。	2
第 7 回	人間の情報処理と映像との関係	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像に関わる人間の情報処理についてノートにまとめ復習する。	2
第 8 回	グループワーク (映像が人間の心理状態に与える影響をグループで検討する)	映像が与える影響について資料を検索し、目を通しておく。 グループで検討した結果をまとめる。	2
第 9 回	グループワーク発表会	グループでまとめた内容を発表する準備を行う。 すべてのグループの発表内容をまとめ、復習する。	2
第 10 回	映像効果の要素 (1) (色彩・画像の種類・言語情報と映像情報の関わり)	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像の効果についてノートにまとめ復習する。	2
第 11 回	映像効果の要素 (2) (画像位置・視覚的キュー・映像効果の個人差)	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像の効果についてノートにまとめ復習する。	2
第 12 回	映像操作の心理的効果・映像編集の心理的効果	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像操作の心理的効果についてノートにまとめ復習する。	2
第 13 回	映像の影響	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像編集の心理的効果についてノートにまとめ復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	授業資料を読み、講義範囲を予習する。 映像の影響についてノートにまとめ復習する。	2

48	データベースと経営	LM-G-203	選択 2単位 3年前期
	Database and Management		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	<input type="radio"/> 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 藤原 和彦			
授業の達成目標			
現代社会では、データベースは組織活動の実践の上でも、また、管理のためにも不可欠である。本科目では、そのためのデータベースの基礎を学ぶ。			
授業の概要			
データ独立性と3層スキーマ、ERモデルとER図、関係モデル、関係代数と正規化、SQL言語によるデータ定義とデータ操作など、リレーショナルデータベースを講義と実習で学習する。データ管理技術の代表としてのリレーショナルデータベースについて基礎知識を修			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：ゼロからはじめるデータベース操作 SQL ミック著 翔泳社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テスト、課題(100%)。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テスト、課題については次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

48	データベースと経営	LM-G-203	選択 2単位 3年前期
	Database and Management		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	データベースとは	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第2回	データベースの基礎理論 1	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第3回	データベースの基礎理論 2	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第4回	データベースの設計 1	配付資料の内容を確認しておく。 授業内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第5回	データベースの設計 2	データベースの設計手法について確認しておく。 課題に取り組み、期日までに提出する。	2 2
第6回	データベースの設計 3	データベースの設計手法について確認しておく。 課題に取り組み、期日までに提出する。	2 2
第7回	データベースの設計 4	データベースの設計手法について確認しておく。 課題に取り組み、期日までに提出する。	2 2
第8回	データ操作言語 SQL 1	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第9回	データ操作言語 SQL 2	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第10回	データ操作言語 SQL 3	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第11回	データ操作言語 SQL 4	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第12回	DBMS の機能と特徴 1	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第13回	DBMS の機能と特徴 2	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2
第14回	DBMS の機能と特徴 3	配付資料の内容を確認しておく。 小テストの内容を復習し、理解を深めておく。	2 2

49	映像制作実習 I	LM-E-303	選択 3単位 3 年前期
	The Practice of Film Making I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 猿渡 学			
授業の達成目標			
グループワークにより、5分から10分程度の映像を制作することを目標とする。写真を含む映像の歴史を確認しつつ、その特徴を把握した上で実際に映像を制作する。2 年次選択科目「映像・イメージ学」でシミュレーションしたことを実践すること、知識だけではなく積極的な姿勢で制作することを念頭に、コミュニケーションの一つである映像の可能性を探る。			
授業の概要			
映像で表現するためのコミュニケーションの構造や映像の原理（映像の文法）などを確認する。制作プロセスにおいては、役割分担を明確にすることで、一つの成果に対して自分がどのように貢献すべきか、あるいは作業工程の管理をどのようにおこなうかなど、ワークフロー全体に目を配りながら制作をおこなう。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義中に配付するほか、1、2 年次開講科目「メディアコミュニケーション入門」「映像・イメージ学」などで配付した資料を併用する。参考書については適宜指示する。			
参考書等			
この実習は3コマを通して行うが、それ以外に制作に関わる別の時間が必要となる。			
成績評価方法・基準			
ワーク中に提出するチェック表など (A) と作品 (B) を合算して評価する。A は 20 ポイント、B は 80 ポイントとする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各回ごとに成果についてのレビュー（講評会）をおこなってフィードバックする。			
備考			

49	映像制作実習 I	LM-E-303	選択 3単位 3 年前期
	The Practice of Film Making I		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション	1、2 年次の講義の復習をおこなう。実習の概要についてのオリエンテーションを実施し、企画内容について立案をおこなう。企画書の作成とプレゼンテーションを実施する。事前に1年次「メディアコミュニケーション入門」を確認することを予習課題とする。	0.5
第2回	機材についてのオリエンテーション：映像撮影	実習で用いる映像撮影機材全般についてのレクチャーをおこなう。一眼レフの動画機能の確認と設定については、写真技術が必須となるのであらかじめ資料などで準備しておく必要がある。カメラの設定方法などを事前に確認することを予習課題とする。	0.5
		撮影後の映像のチェックを復習課題とする。	0.5
第3回	機材についてのオリエンテーション：録音・照明	実習で用いる録音機器についてのレクチャーをおこなう。専門性の最も高いものなのであらかじめ資料などで準備しておく必要がある。照明に関してはスタジオなどで実際に照明を使ったレクチャーを行う。所定のドキュメントを確認することを予習課題とする。	0.5
		照明や録音機材について特徴などをまとめておくことを復習課題とする。	0.5
第4回	機材についてのオリエンテーション：編集機器	Apple 社「FinalCutProX」、Adobe 社「PremierePro」などの使い方と、実習室にある Mac などの使い方を中心に、実習で用いる編集機器についてのレクチャーをおこなう。二つのソフトウェアのマニュアルを確認しておくことを予習課題とする。	0.5
		データ処理の方法などについて確認することを復習課題とする。	0.5
第5回	映像制作の実践：プリプロダクション（法律・権利関係）	立案した企画の見直しを行い、制作のための準備を行う。その際、映像制作に関わる権利関係・許可などについてレクチャーを行う。撮影に関する法律について事前に調査することを予習課題とする。	0.5
		特に著作権を中心とした法律についてまとめることを復習課題とする。	0.5
第6回	映像制作の実践：プリプロダクション（キャスト・台本読み合わせ）	役割分担を明確にして、台本に基づきキャストとの台本読み合わせなど、撮影前におこなう全てのプロセスをおこなう。プリプロダクションに関わる全ての項目のチェックリストの作成を予習課題とする。	0.5
		チェックを復習課題とする。不十分な場合は補習とする。	0.5
第7回	映像制作の実践：撮影（屋内での撮影について）	プリプロダクションに基づき、撮影をおこなう。特に、屋内での撮影について必要な照明、音響についてのレクチャーをおこなう。照明と音響の機器マニュアルを確認することを予習課題とする。	0.5
		実際に使用した機材の使用方法についてまとめておくことを復習課題とする。	0.5
第8回	映像制作の実践：撮影（屋外での撮影について）	プリプロダクションに基づき、撮影をおこなう。特に、屋外での撮影について注意しなければならない照明や音響などについてのレクチャーをおこなう。照明と音響の機器マニュアルを確認することを予習課題とする。	0.5
		実際に使用した機材の使用方法についてまとめておくことを復習課題とする。	0.5
第9回	映像制作の実践：特殊撮影技術（ドローンを用いた撮影）	ドローンを用いた撮影について、法的処理や問題点、申請書類の書き方などをレクチャーする。体育館などで飛行の体験もおこなう。新たな表現の可能性を探る。空撮技術の問題点などについて調査することを予習課題とする。（天候によっては別日を指定する）	0.5
		ドローン映像の現状と可能性について考察することを復習課題とする。	0.5
第10回	映像制作の実践：特殊撮影技術（クレーンなど）	クレーンや三軸ジンバルを用いた特殊な撮影について実習をおこなう。特殊な撮影について動画サイトなどで閲覧しておくことを予習課題とする。	0.5
		特殊撮影技術の進化についてまとめることを復習課題とする。	0.5
第11回	映像制作の実践：特殊撮影技術（合成）	グリーンバックを用いた合成撮影の実習をおこなう。配信機材を用いたライブ合成を中心に実習を行う。配信に関する調査を予習課題とする。	0.5
		実習でおこなった合成映像の仕上げを復習課題とする。	0.5
第12回	映像制作の実践：編集のプロセス（プロキシ編集）	編集ソフトを用いた映像編集の実習をおこなう。ソフトウェアの原理を理解し、ハイビジョン撮影された映像を適切な設定で編集をおこなうための技術的レクチャーをおこなう。ハイビジョン以前の映像について調査することを予習課題とする。	0.5
		今後の映像の展望について考察することを復習課題とする。	0.5

49	映像制作実習 I	LM-E-303	選択 3単位 3年前期
	The Practice of Film Making I		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 13 回	映像制作の実践：編集のプロセス（グレーティング）	編集ソフトを用いた映像編集の実習をおこなう。シーンごとに異なる色の調整を「グレーティング」というが、色の不整合を整えるステップはポストプロダクションの重要な工程の一つである。ソフトウェアの使い方をレクチャーするとともに、色に深く関わる照明についての確認もおこなう。色彩についての基礎知識を確認することを予習課題とする。	0.5
		グレーティングによって映像の印象がどのように変わるのかを5つほどのパターンに分けてまとめておくことを復習課題とする。	0.5
第 14 回	映像制作の実践：編集のプロセス（音響処理・完成）	収録された音源の調整はポストプロダクションの重要な工程の一つである。ソフトウェアの使い方をレクチャーする。音は撮影された場によって音質や音圧が異なることがあり、均一化する必要がある。さらに、音もまたメディアの重要なポイントであるため映像同様、編集が必要であり、この点を学ぶ。録音機材についてマニュアルなどで確認することを予習課題とする。	0.5
		音響処理について5つほどのパターンに分けて印象が変わることをまとめる復習課題を課す。	0.5

50	経営コミュニケーション概論 II	LM-J-306	必修 1単位 3年後期
	Management and Communication Studies II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 佐藤 夏子 宮曾根 美香 猿渡 学 金井 辰郎 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 川島 和浩 黎 敏利			
授業の達成目標			
卒業研究テーマを決定する。自己の研究領域における専門知識や技能の基本を総合的に修得する。4年次に、1年間という長い期間をかけて一つの事を最後までやり遂げるために惜しみない努力ができる意欲や知力を高める。			
授業の概要			
各研究室の特徴を活かした学習活動を行う。関連文献の輪講、実験、実習、ディスカッションなどを通じて、自らが取り組む卒業研究のテーマを明確にし、それについてのプレゼンテーションを行う。また、研究の遂行に必要な、研究の現状把握、課題の抽出、社会のニーズに基づいた問題の解決の方法など体得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
研究室毎に指導教員からの指示がある。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
ゼミ指導時間内の発表・発言 (30%)、レポート課題とプレゼンテーション (70%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
研究室内で必要なフィードバックを行う。			
備考			

50	経営コミュニケーション概論 II	LM-J-306	必修 1単位 3年後期
	Management and Communication Studies II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	前期までの学習を振り返り、学年末に向けての研究目標を描く。	0.5
第2回	研究テーマ検討①	ガイダンスでの指示を踏まえ、その達成のために研究室でどのように学ぶかを考える。	0.5
第3回	研究テーマ検討②	前期の研究活動で分かったことをまとめ、研究テーマの変更、具体化などより良いものになるよう検討する。	0.5
第4回	研究テーマ検討③	調査、作業した結果をふまえ、さらに検討を続ける。	0.5
第5回	研究テーマ検討④	研究テーマの変更、具体化などより良いものになるよう検討する。	0.5
第6回	研究テーマ検討⑤	調査、作業した結果をふまえ、さらに検討を続ける。	0.5
第7回	研究テーマ検討⑥	研究テーマの変更、具体化などより良いものになるよう検討する。	0.5
第8回	研究テーマ検討⑦	調査、作業した結果をふまえ、さらに検討を続ける。	0.5
第9回	文献購読①	購読内容について予習をする。	0.5
第10回	文献購読②	購読した内容を整理する。	0.5
第11回	文献購読③	購読内容について予習をする。	0.5
第12回	文献購読④	購読した内容を整理する。	0.5
第13回	文献購読⑤	購読内容について予習をする。	0.5
第14回	文献購読⑥	購読した内容を整理する。	0.5
第15回	文献購読⑦	購読内容について予習をする。	0.5
第16回	文献購読⑧	購読した内容を整理する。	0.5
第17回	文献購読⑨	購読内容について予習をする。	0.5
第18回	文献購読⑩	購読した内容を整理する。	0.5
第19回	文献購読⑪	購読内容について予習をする。	0.5
第20回	文献購読⑫	購読した内容を整理する。	0.5
第21回	文献購読⑬	購読内容について予習をする。	0.5
第22回	文献購読⑭	購読した内容を整理する。	0.5
第23回	文献購読⑮	購読内容について予習をする。	0.5
第24回	文献購読⑯	購読した内容を整理する。	0.5
第25回	文献購読⑰	購読内容について予習をする。	0.5
第26回	文献購読⑱	購読した内容を整理する。	0.5
第27回	文献購読⑲	購読内容について予習をする。	0.5
第28回	文献購読⑳	購読した内容を整理する。	0.5
第29回	文献購読㉑	購読内容について予習をする。	0.5
第30回	文献購読㉒	購読した内容を整理する。	0.5
第31回	文献購読㉓	購読内容について予習をする。	0.5
第32回	文献購読㉔	購読した内容を整理する。	0.5
第33回	文献購読㉕	購読内容について予習をする。	0.5
第34回	文献購読㉖	購読した内容を整理する。	0.5
第35回	文献購読㉗	購読内容について予習をする。	0.5
第36回	文献購読㉘	購読した内容を整理する。	0.5
第37回	文献購読㉙	購読内容について予習をする。	0.5
第38回	文献購読㉚	購読した内容を整理する。	0.5
第39回	文献購読㉛	購読内容について予習をする。	0.5
第40回	文献購読㉜	購読した内容を整理する。	0.5
第41回	文献購読㉝	購読内容について予習をする。	0.5
第42回	文献購読㉞	購読した内容を整理する。	0.5
第43回	文献購読㉟	購読内容について予習をする。	0.5
第44回	文献購読㊱	購読した内容を整理する。	0.5
第45回	文献購読㊲	購読内容について予習をする。	0.5
第46回	文献購読㊳	購読した内容を整理する。	0.5
第47回	文献購読㊴	購読内容について予習をする。	0.5
第48回	文献購読㊵	購読した内容を整理する。	0.5
第49回	文献購読㊶	購読内容について予習をする。	0.5
第50回	文献購読㊷	購読した内容を整理する。	0.5
第51回	文献購読㊸	購読内容について予習をする。	0.5
第52回	文献購読㊹	購読した内容を整理する。	0.5
第53回	文献購読㊺	購読内容について予習をする。	0.5
第54回	文献購読㊻	購読した内容を整理する。	0.5
第55回	文献購読㊼	購読内容について予習をする。	0.5
第56回	文献購読㊽	購読した内容を整理する。	0.5
第57回	文献購読㊾	購読内容について予習をする。	0.5
第58回	文献購読㊿	購読した内容を整理する。	0.5
第59回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第60回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第61回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第62回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第63回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第64回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第65回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第66回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第67回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第68回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第69回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第70回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第71回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第72回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第73回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第74回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第75回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第76回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第77回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第78回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第79回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第80回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第81回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第82回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第83回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第84回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第85回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第86回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第87回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第88回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第89回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第90回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第91回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第92回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第93回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第94回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第95回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第96回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第97回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第98回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5
第99回	文献購読	購読内容について予習をする。	0.5
第100回	文献購読	購読した内容を整理する。	0.5

51	経営コミュニケーションキャリアセミナーⅡ	LM-D-310	必修 1単位 3年後期
	Management and Communication Carrier Seminar II		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
○オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 宮曾根 美香			
授業の達成目標			
キャリアアップ・レクチャ/就職講話を通じ、自らの進路決定ができるようになる。			
授業の概要			
キャリアアップ・レクチャ/就職講話の2カテゴリーから進路決定に必要な内容を修得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
なし 『2025年度版 CAB・GAB完全対策』 就活ネットワーク 実務教育出版 2022			
参考書等			
成績評価方法・基準			
CAB・GAB小テスト10%、就職講話レポート20%、キャリアアップ・レクチャのレポート 45%、試験25%			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
webclassにて各課題に対する評価などをフィードバックする。			
備考			

51	経営コミュニケーションキャリアセミナーⅡ	LM-D-310	必修 1単位 3年後期
	Management and Communication Carrier Seminar II		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	就職講話 01: 外部講師講演 1	外部講師講演 1について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 1についての資料の復習	0.5 0.5
第2回	キャリアアップ・レクチャ 01: 就活支援講座 1	就活支援講座 1について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 1についての資料の復習	0.5 0.5
第3回	キャリアアップ・レクチャ 02: 就活支援講座 2	就活支援講座 2について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 2についての資料の復習	0.5 0.5
第4回	キャリアアップ・レクチャ 03: 就活支援講座 3	就活支援講座 3について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 3についての資料の復習	0.5 0.5
第5回	就職講話 02: 外部講師講演 2	外部講師講演 2について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 1についての資料の復習	0.5 0.5
第6回	キャリアアップ・レクチャ 04: 就活支援講座 4	就活支援講座 4について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 1についての資料の復習	0.5 0.5
第7回	キャリアアップ・レクチャ 05: 就活支援講座 5	就活支援講座 5について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 5についての資料の復習	0.5 0.5
第8回	キャリアアップ・レクチャ 06: 就活支援講座 6	就活支援講座 6について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 5についての資料の復習	0.5 0.5
第9回	キャリアアップ・レクチャ 07: 就活支援講座 7	就活支援講座 7について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 5についての資料の復習	0.5 0.5
第10回	キャリアアップ・レクチャ 08: 就活支援講座 8	就活支援講座 8について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 5についての資料の復習	0.5 0.5
第11回	キャリアアップ・レクチャ 09: 就活支援講座 9	就活支援講座 9について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座 5についての資料の復習	0.5 0.5
第12回	GAB 言語	テキストpp. 214-219の内容を確認しておく テキストpp. 214-231の内容を読み直し、問題は解き直しを行う	0.5 0.5
第13回	OPQ	pp. 240-244の内容を確認しておく pp. 240-244の内容を読み直し、問題は解き直しを行う	0.5 0.5
第14回	まとめと試験	これまでの授業内容について復習をする 試験で問われた内容について整理する	0.5 0.5

52	人的資源管理論	LM-A-308	選択 2単位 3年後期
	Human Resource Management		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 佐藤 飛鳥			
授業の達成目標			
自治体、地域、企業等の組織が有する課題を認識し、その構成員である人がよりよく生きるためには、さまざまな働き方と働く環境を十分に知る必要がある。一方で、経営者はひとりひとりの従業員が能力を最大限に発揮できる職場環境を整え、業績を向上させるマネジメントをしなければならない。企業の持つ経営資源の中で最も大切な「人」を、コストではなく「人的資源」と捉え、モチベーションや能力を高める方法を学習する。これにより、地域を支えるヒト・モノ・カネ・場・情報を最適に配置し、地域の課題を解決して発展につなげることを意図した人的資源管理を行えるようにする。			
授業の概要			
本講義は経営者側の視点から従業員の能力を引き出すマネジメント手法を学習するが、学生諸君は働く者の視点を大切に、現実社会の多様な職場環境、つまり自分自身がこれから置かれる状況と置き換えて社会に出る覚悟をして欲しい。毎回、講義形式で理論を教授した後、受講者を経営者と労働者の立場で2グループに分け、ディスカッションを行う。今後どのように自分の人生、キャリアを切り開いていくのかを考え、社会に柔軟に対応できる考え方を身につけること。以下の授業計画内学習内容の最後に示す【X章】は、テキスト①の該当章を示している。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキスト①澤田幹／平澤克彦／守屋貴司 編著 (2009) 『明日を生きる人的資源管理入門』ミネルヴァ書房 定価 2,800 円＋税。②佐藤飛鳥／浅野和也／橋場俊展 (2023) 『入門 人的資源管理論』法律文化社 定価 2,800円＋税 (予価、決定次第変更)			
参考書等			
成績評価方法・基準			
ディスカッションの内容 (理論の理解度、発言者の立場の理解度、主張の整合性と説得力を見る。) 70%、最終レポート (到達目標の達成度を見る。) 30%。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
ディスカッションの内容は各回の最後に評価を行い、ホームワークを LMS 上で指示する。ホームワークへのフィードバックは LMS 上で行う。			
備考			

52	人的資源管理論	LM-A-308	選択 2単位 3年後期
	Human Resource Management		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	戦略的人的資源管理とは【1・2章】	1・2章の用語や概念を調べる。	2
第2回	若年者の働き方の多様化【12章】	PM から SHRMへと企業が考え方を変えた時代背景と SHRM の概念を理解する。 12章の用語や概念を調べる。 自分自身のキャリアデザインを考える。	2 2 2
第3回	ライフデザインと自律的キャリア開発【10章】	10章の用語や概念を調べる。 エンプロイアビリティを考える。	2 2
第4回	雇用管理 (採用、配置、異動、退職)【6章】	6章の用語や概念を調べる。 コース別採用(総合職・一般職)のどちらを希望するか考える。	2 2
第5回	人事考課制度 (従業員の評価)【8章】	8章の用語や概念を調べる。 講義時のディスカッションのチームメンバーで 10 項目からなる職務評価表を作成する。	2 2
第6回	タレントマネジメント【3・4章】	3・4章の用語や概念を調べる。 労働市場や企業からどのような人材が求められているかを考える。	2 2
第7回	賃金管理【7章】	7章の用語や概念を調べる。 どのような賃金制度が企業業績を上げ、従業員が安心して働き続けられるかを考える。	2 2
第8回	労働時間管理【9章】	9章の用語や概念を調べる。 多様な働き方と労働時間制度の事例を検索し、5つまとめる。	2 2
第9回	職場環境と福利厚生制度【11章】	11章の用語や概念を調べる。 就職を希望する業界や企業が用意している福利厚生制度を調べ、自分自身はどのような福利厚生制度を重視するかを考える。	2 2
第10回	ダイバーシティ・マネジメント【5章】	5章の用語や概念を調べる。 今後の日本企業において考慮の必要なダイバーシティについて考え、解決策を考える。	2 2
第11回	非正規雇用【該当章なし】	非正規雇用に含まれる就労形態、用語や概念を調べ、問題点を3つ考える。 予習で挙げた問題点の解決策を考える。	2 2
第12回	女性の働き方【13章】	13章の用語や概念を調べる。 人口減少の中での女性の労働について、活用法や問題点、問題点を解消するための方法を考える。	2 2
第13回	公務員の働き方【14章】	14章の用語や概念を調べる。 公務員改革と公務員人事管理について考える。	2 2
第14回	人的資源管理論の今後の課題【終章】と最終レポートについて	終章の用語や概念を調べる。 全講義のノート、ディスカッションをまとめ、総まとめとして自分自身の考えまとめ、レポートを記述する。	2 2

53	国際経済論	LM-C-307	選択 2単位 3年後期
	International Economy		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 宮崎 義久			
授業の達成目標			
現代世界経済における国際貿易・国際資本移動の基本的特徴を把握する。現代世界経済のアウトラインを理解する。			
授業の概要			
現代世界は1980年代以降、とりわけ1990年代以降に進行したグローバリゼーション下にある。これは国際資本移動と国際貿易の動向にもっともよく現れている。本講義では、この動向を理解するための基礎的な知識を修得するとともに、現代世界経済のアウトライン、現代世界が抱える問題について理解することを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しません。毎回の授業でプリントを配付します。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テストなどの平常点 20%、試験 80%			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストなどについては次回授業時に全体に対しフィードバックを行う			
備考			


53	国際経済論	LM-C-307	選択 2単位 3年後期
	International Economy		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス: 授業の進め方、内容、日程など	シラバスをよく読んでおくこと。	2
第2回	国際経済論を学ぶにあたって	ガイダンスで示された授業内容や授業の進め方についてよく考え、履修するかどうかを決めること。 インターネット等で世界主要国の1人あたり所得について調べておくこと。	2
第3回	国際貿易の理論1-貿易の利益	インターネット等で貿易の利益について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第4回	国際貿易の理論2-バラッサ・サムエルソン効果、国際分業パターンの有利不利	インターネット等で世界主要国の物価水準について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第5回	自由貿易と保護貿易	インターネット等で農業の多面的機能について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第6回	国際資本移動1-直接投資	インターネット等で日本の対外直接投資について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第7回	国際資本移動2-証券投資	インターネット等でブラジル国債について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第8回	外国為替取引	インターネット等で外国為替について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第9回	外国為替市場と為替相場	インターネット等で購買力平価について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第10回	2008 世界同時不況はどのようにして発生したのか	インターネット等でサブプライムローンについて調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第11回	BRICs の発展で世界はどうなるのか	インターネット等で BRICs について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第12回	現在の先進国が直面する課題は何か	インターネット等で日本の財政状況について調べておくこと。 配布されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第13回	開発途上国の現状はどうなっているのか	インターネット等で途上国の現状について調べておくこと。 配付されたプリントを読みなおして整理すること。	2
第14回	まとめと試験	これまでに配付されたプリントを読みなおし、試験に備えること。 試験の問題を復習すること。	2

54	組織の経済学	LM-C-308	選択 2単位 3年後期
	Organization Economics		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 小祝 慶紀			
授業の達成目標			
ミクロ経済学では、企業は市場取引の重要なファクターとして役割を担い、企業行動として分析の対象となっている。一方、企業内取引などの非市場取引や系列などの企業間関係などはこれまで分析の対象となることはほとんどなかった。本講義では、「市場構造」と「企業（組織）行動」の相互の連関関係を理解することを目標とする。			
授業の概要			
本講義の目標は、経済学の「効率性」、「衡平性」などの基本的な理論を学び、市場メカニズムと企業組織の相互連関を理解することである。そのため、経済学の基礎理論を学び、その後、現実の企業が市場または非市場（組織内部や系列関係）でどのような行動をとるのか事例を交えながら講義する。本講義で企業行動の「見方」、「考え方」を養うことは、将来、職業人として重要な論理的思考力となりうる。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業の事務部局において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
産業組織とビジネスの経済学 花園誠 有斐閣ストゥディア 2018			
参考書等			
参考書は、適宜授業で紹介する。 毎回レジュメをWebClassへ掲載するので、必ずダウンロードしておくこと。			
成績評価方法・基準			
授業内課題 30% 中間レポート 20% まどめの試験 50%を基本とし、その他小テストなどの合計得点を総合的に評価する。 なお、中間レポート等については、第1回授業のときに提示する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内で提示したレポート等については、次回授業時に、提出課題に対しての見解や、よくある誤り等についてコメントする。			
備考			

54	組織の経済学	LM-C-308	選択 2単位 3年後期
	Organization Economics		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	イントロダクション 講義の概要	教科書の目次とはじめにを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第2回	企業の行動原理の基礎	教科書の産業組織やビジネス・エコノミクスとは何かについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第3回	価格決定の原理（企業行動）	教科書の営利企業の目的とその目的達成の手段についてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第4回	価格決定の原理（消費者行動）	教科書の需要の代替性についてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第5回	価格差別	教科書の同じ財でも異なる価格を設定することについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第6回	垂直的な企業関係	教科書の「垂直的」な企業関係とは何かについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第7回	寡占市場での企業競争	教科書の企業間の「水平的」関係についてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第8回	競争政策の基礎（効率性・公平性）	教科書の企業の社会的価値の創造とは何かについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第9回	競争緩和のための非価格戦略	教科書の「製品の差別化」とは何かについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第10回	価格決定における企業共謀	教科書の「談合」や「カルテル」とは何かについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第11回	市場構造の決定要因	教科書の市場への参入の「インセンティブ」とは何かについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第12回	市場構造を変更する戦略	教科書の合併による競争緩和の効果とは何かについてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第13回	ネットワーク効果と消費者・企業行動	教科書のネットワークによるコミュニケーションのあり方についてを事前に読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	教科書やノートなどをきちんとまとめ、 これまでの学習内容を復習しておく。	2 2

55	メンタルヘルスケア	LM-D-307	選択 2単位 3年後期
	Mental Health Care		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 二瀬 由理			
授業の達成目標			
本講義の目標は以下の3点である。①日常生活の中での心の病に関する理解を深めること。②この講義で学んだ知識と対処法を実生活に活かせるようになること。③組織におけるストレスマネジメントやメンタルヘルスに関する取り組みについて学ぶこと。			
授業の概要			
現代、日常生活を送る中で、様々なストレスが存在する。このようなストレス社会を生きていくためには、自分にかかるストレスを十分に理解し、さらにはその対処法を知っておく必要がある。本講義では、身近な精神的ストレスおよびそれが原因として生じる症状に焦点を当て、その対策やケアの方法を学習する。さらに、ストレス軽減のための心身のストレスマネジメントやストレスに強くなるためのコーピングスキルを心理学的立場から学習する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
授業資料に関しては、適宜、プリントを配付する。参考資料は、講義中に指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
グループワークおよび小レポートの評価(40%)と期末テスト(60%)の総合点で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業課題および小レポートおよび小テストはすべてLMSを用いて実施し、レポートやテストのフィードバックもLMSを通じて行う。			
備考			

55	メンタルヘルスケア	LM-D-307	選択 2単位 3年後期
	Mental Health Care		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	心の健康とは	“心の健康とは” どういったことか、予め調べておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第2回	パーソナリティが健康に与える影響	“パーソナリティ(性格)と健康”との関係について調べておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第3回	心の病の種類とそれぞれの特徴	日常生活を送る上で障害になるような特徴を列挙しておく。 心の病の種類とそれぞれの特徴について整理する。	2
第4回	ストレスとストレス反応	ストレスとストレス反応に関して具体的にどのようなものがあるか調べておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第5回	行動の原因帰属特性	配付した資料を予め読んでおく。 講義で学んだことを踏まえ、自分の行動を振り返り自分がどのような原因帰属をしがちなのか見直す。	2
第6回	原因帰属がうつ病や学習性無力感に与える影響	配付した資料を予め読んでおく。 講義で学んだことをノートにまとめ原因帰属の仕方の違いがうつ病の発症や学習性無力感に与える影響を理解する。	2
第7回	グループワーク(1) 日常生活におけるストレス事例を検討する	自分の周りにおけるストレス事例を列挙しておく。 グループでディスカッションした内容を整理する。	2
第8回	グループワーク発表会	予習として発表の準備をしておく。 各グループが発表した内容を踏まえストレスとは何か、自分なりに考えをまとめる。	2
第9回	様々なストレスマネジメントの方法	“ストレスマネジメント”とは何か予め調べておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第10回	性格的・行動的特徴別のストレスマネジメント法	自分に適したストレスマネジメントの方法を列挙しておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第11回	認知行動療法	“認知行動療法”とは何か予め調べておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第12回	職場におけるストレスマネジメントの必要性	職場で起きるストレスに関してその事例を予め調べておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第13回	職場におけるストレスマネジメントの方法	企業が従業員のメンタルヘルスについてどのような対策をとっているのか予め調べておく。 講義で学んだことをノートにまとめ復習する。	2
第14回	まとめと試験	第14回までに学んだことを復習する。 試験でよく分からなかった部分に関しては講義で配付されたプリントやノートを疑問を解決しておく。	2

56	交渉学	LM-D-308	選択 2単位 3年後期
	Negotiation Studies		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 佐藤 和美			
授業の達成目標			
<p>「交渉」とは当事者がそれぞれの利益を求めて駆け引きを行うもので、相手を言い負かすコミュニケーションであると考えられることが多い。しかし本講義では、そのような勝ち負けのネゴシエーションではなく、良好な関係構築・情報交換・相互理解により、問題解決に導いていくアサーティブ交渉技術を修得する。そのような交渉の知識をもとに、交渉相手と自分の双方を尊重しながら、協力して問題解決していく話し合いが無理なくできるようになることを目指す。さらに身近な日常の場面での交渉から、ビジネスの現場で役立つ交渉まで、あらゆるシチュエーションにおいて、自尊心と相手への敬意を持ち続けられる良好な交渉スタイルを、自らの考えで構築できるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>アサーティブ・ネゴシエーションの根底には、臨床心理学の理論があり、WIN-WIN になれる交渉ができる自分になるために、どう自分の感情を扱い、どんなことを表現していくかについて身近な事象を題材にして学んでいく。さらに交渉の理論を理解し、受講者相互の交際トレーニングを行う。主にロールプレイとペアワークによる交渉演習を行い、お互いのフィードバックから気づきを深めていく。また、交の実践と応用として、クレーム対応・模擬会議・ディベートを体験し、多様性や異文化の中で生きる上での交渉の価値と可能性に気づく、日常のさまざまな場面で交渉（ネゴシエーション）を活かしていく力を身に付ける。</p>			
実務経験を活かした教育について			
<p>コミュニケーション講師・コーチとして、各種企業・行政、教育機関・福祉関連団体等での人材育成、課題解決に向けたプログラム開発と研修講師に従事している実績と経験を授業内容及びワークのリードに活かす。それにより、交渉学で重要となる関係形成に生きる実践的なコミュニケーションセンスの体得を促進する。</p>			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「交渉学ノススメ」NPO法人日本交渉協会編 生産性出版 2020（第3刷）			
参考書等			
独自資料を適宜配布し教材とする。			
成績評価方法・基準			
授業でのコミュニケーションワークとリアクションペーパー・授業で提示した課題（50%）と最終レポート（50%）を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した提出課題については次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

56	交渉学	LM-D-308	選択 2単位 3年後期
	Negotiation Studies		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	交渉学とは何か	教科書第1章を読み、基本を理解する。	2
第2回	日常生活の中にある交渉場面への気づき	第1回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第3回	認知バイアスの存在とコミュニケーションへの影響	教科書第2章を読み、基本を理解する。	2
第4回	アサーティブ・コミュニケーション（ロールプレイ）	教科書第4章 P.162～187を読み、基本を理解する。	2
第5回	意図を意味するインテンショナルメッセージ・Noが言える関係性（ペアワーク）	第4回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第6回	ハイコンテキスト・ローコンテキストによる交渉への影響とインテンショナルメッセージトレーニング	第5回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第7回	インテンショナルメッセージを使った模擬交渉と振り返り（グループワーク）	第6回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第8回	交渉学の基礎概念、BATNA等	教科書第4章 P.124～146を読み、基本を理解する。	2
第9回	分配型交渉から統合型交渉へ	教科書第4章 P.124～146の内容について、授業内容と共に復習する。	2
第10回	win-winを創り出す模擬交渉（グループワーク）	教科書第4章 P.147～164を読み、基本を理解する。	2
第11回	交渉の場のセットアップ～あり方と聴き方（ペアワーク）	第9回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第12回	交渉学の実践と応用～クレーム対応（ケーススタディ）	第10回目授業で提示した課題に取り組む。	2
第13回	交渉学の実践と応用～コンフリクト・マネジメントと模擬会議	学んだことを実生活で活用し、振り返りをする。	2
第14回	交渉学の実践と応用～多様性・異文化とディベートからの気づき	教科書「交渉学の実践と応用1」を読み、基本を理解する。	2
		教科書「交渉学の実践と応用3」を読み、授業での模擬会議の振り返りを行う。	2
		教科書「交渉学の実践と応用2」を読み、基本を理解する。	2
		アサーティブな交渉方法を将来にどう活かすかをまとめる。	2

57	映像制作実習 II	LM-E-304	選択 3単位 3年後期
	The Practice of Film Making II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 猿渡 学			
授業の達成目標			
この講義は3年次選択科目「映像制作実習 I」を前提として、40分程度の映画を製作することを目標とする。テーマを設定し、内容が伝えられることを念頭に「コミュニケーションとしての映像であること」を実習の主目的とする。			
授業の概要			
40分程度の映画を制作するために、映像制作のワークフローに従ってプリプロダクションからポストプロダクションまでを実習する。作品については以下の点を踏まえたものとする。①ロケ地を学内に限定しないこと。②キャストを幅広い年齢層などで構成する。③綿密な計画書を実現するためのプリプロダクションをおこなう。④撮影前に撮影スケジュールを確定させ、工程表を作成する。* 実習時間以外に多くの時間を必要とすることを理解しておくこと。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作プリントを配付する。1年次、2年次のメディア系の講義で配付された資料を準備しておくこと。			
参考書等			
この実習は3コマを通して行うが、それ以外に制作に関わる別の時間も必要となる。			
成績評価方法・基準			
グループワーク用のシートを、作品制作のプロセスごとに毎回提出し、10ポイント満点で評価する(A)。作品そのものを40ポイント満点で評価し(B)、(A)と(B)の合算によって一つのセッションの評価とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
自分の作品の訴求力などを確認するための課題についてのレビュー(講評会)を実施する。			
備考			

57	映像制作実習 II	LM-E-304	選択 3単位 3年後期
	The Practice of Film Making II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回	オリエンテーション	自主制作映画についての現状を紹介し、具体的な作品例をつかって制作過程とその問題点を指摘する。事前に指定した動画の閲覧を予習課題とする。	0.5
第2回	プリプロダクション：構想から企画まで	自主制作映画や独立系映画制作の現状についてまとめることを復習課題とする。	0.5
第3回	プリプロダクション：撮影準備	テーマに沿った作品の構想を練り、アウトラインを決定する。起承転結を意識した構成とし、台本化する。同時に企画書を作成し、撮影の交渉を開始するための準備をおこなう。事前に指定した劇場公開された映画を観てくることを予習課題とする。	0.5
第4回	プリプロダクション：感情表現の演出方法	実際の台本との齟齬などについて見解をまとめることを復習課題とする。	0.5
第5回	撮影技術について：フレーミング・照明について	撮影段階に入るまでの準備を完了させる。以下の点を踏まえて撮影までのプロセスを完成させる。①撮影場所の決定②撮影許可の申請③台本(撮影稿)の作成④キャストとの交渉と出演の決定⑤撮影スケジュールの策定プリプロダクションに関わる全ての項目についてリスト化することを予習課題とする。	0.5
第6回	撮影技術について：カメラの設定について	演出の方法について学ぶ。同じ台本でも異なる演出が可能であるが、制作したい作品のテイストに沿った演出とは何かを実習する。感情表現の方法論として、「能」「狂言」「歌舞伎」「落語」など、日本の古典的芸能に触れる。台本読み合わせなど、キャストとのコミュニケーションの機会をつくる。事前に指定した配付資料を確認することを予習課題とする。	0.5
第7回	編集の概念と編集技術	日本の伝統芸能についての見解をまとめることを復習課題とする。	0.5
第8回	映像制作の実践：法律・権利関係・撮影許可	フレーミングによって変化する意味を実習を通して学ぶ。同時に照明実習を通して、照明による印象の変化について学ぶ。フレーミングの基礎的事項を映画の文法に則ってまとめることを予習課題とする。	0.5
第9回	映像制作の実践：特殊撮影技術(クレーンなど)	照明による印象のパターンの違いをまとめることを復習課題とする。	0.5
第10回	映像制作の実践：編集のプロセス(グレーディングの基礎)	動画一眼レフカメラを使用する際に必要な、被写界深度や感度の設定、シャッタースピードとの組み合わせについて学ぶ。使用する機材について熟知するための事前の講習を受けることを予習課題とする。	0.5
第11回	映像制作の実践：編集のプロセス(グレーディングの応用)	それぞれのパラメーターの違いによって生じる映像の印象の違いをまとめることを復習課題とする。	0.5
第12回	映像制作の実践：編集のプロセス(音響処理の基礎)	編集の概念的な理解を促すための学習をおこなう。さらに、Apple社「Final Cut Pro X」、Adobe社「Premiere Pro」など、実習で用いる編集機器とソフトウェアについてのレクチャーをおこなう。二つのソフトウェアのマニュアルを確認しておくことを予習課題とする。	0.5
		データ処理の方法などについて確認することを復習課題とする。	0.5
		映像撮影に関わる権利関係、道路使用許可、ドローンの使用に関するレクチャーをおこなう。空撮技術の問題点などについて調査することを予習課題とする。	0.5
		ドローン映像の現状と可能性について考察することを復習課題とする。	0.5
		撮影に関する法律について、特に著作権を中心とした法律についてまとめることを復習課題とする。	0.5
		クレーンや三軸ジンバルを用いた特殊な撮影について実習をおこなう。特殊な撮影について動画サイトなどで閲覧しておくことを予習課題とする。	0.5
		特殊撮影技術の進化についてまとめることを復習課題とする。	0.5
		編集ソフトを用いた映像編集の実習をおこなう。ソフトウェアの使い方をレクチャーするとともに、色に深く関わる照明についての確認もおこなう。色彩についての基礎知識を確認することを予習課題とする。	0.5
		グレーディングによって映像の印象がどのように変わるのかを5つほどのパターンに分けてまとめておくことを復習課題とする。	0.5
		第10回でおこなったグレーディングの精度を上げる実習をおこなう。カラーチャートを用いた色調整を軸として、様々なフィルタリングを試みる。前回5つほどのパターンに分けてまとめた課題の確認を予習課題とする。	0.5
		フィルタリングによって変化する印象をまとめることを復習課題とする。	0.5
		 ：収録された音源の調整のために、ソフトウェアの使い方をレクチャーする。Audition (Adobe)を用いて音の調整と、音源のミキシングなどについて学ぶ。録音機材についてマニュアルなどで確認することを予習課題とする。	0.5
		音響処理について5つほどのパターンに分けて印象が変わることをまとめる復習課題を課す。	0.5

57	映像制作実習 II	LM-E-304	選択 3単位 3年後期
	The Practice of Film Making II		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 13 回	映像制作の実践：編集のプロセス（音響処理の応用・楽曲制作の基礎）	Audition (Adobe) をプラットフォームとして、ミキシングを行う実習。様々な音源を使って楽曲を作成することを目指した実習をおこなう。実習室にある様々な楽器の音源をサンプリングしてオリジナル曲を作る。事前にサンプリングのための音源収集をおこなってくることを予習課題とする。	0.5
		楽曲を完成させることを復習課題とする。	0.5
第 14 回	映像制作の実践：映画音楽	映画音楽について概観し、音楽が映像に与える影響について実習する。同じ映像素材に異なる音を入れることでテーマがどのように変化するのかを調査する。事前に指定した映像に自分なりに音源を入れてくることを予習課題とする。	0.5
		音とイメージについて考察・まとめを復習課題とする。	0.5

58	情報システム学	LM-G-304	選択 2単位 3年後期
	Theory and Practice of Information Systems		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 本田 秀行			
授業の達成目標			
現代社会は情報システムなしでは成り立たない。組織運営の合理化のために情報システムが欠かせないだけでなく、情報システムを活用した様々なビジネスが生まれている。本科目では、組織において情報システムの活用を立案できるための基礎を学ぶ。			
授業の概要			
現代社会における情報システムの役割を事例を中心に学んだ後、テーマ別にグループに別れ、グループワークにより情報システムの活用計画を策定する。少なくとも、「ネットワークとビジネス」「データベースと経営」のいずれかを履修していることが望ましい。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
なし			
参考書等			
参考資料に関しては適宜指示する			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テスト、宿題 (20%) グループワーク (80%) 授業中に提示する課題等はすべて LMS を用いて実施する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
フィードバックは LMS を通じて行う。			
備考			

58	情報システム学	LM-G-304	選択 2単位 3年後期
	Theory and Practice of Information Systems		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	情報システムの基礎と現代社会における役割	予習: 情報システムに関する基本事項についての事前学習 復習: 現現代社会における情報システムの応用事例の調査と授業の復習	2 2
第2回	組織運営における情報システムの活用	予習: 組織における情報システムのケーススタディの調査 復習: 自分の興味のある業界における情報システムの活用事例の調査と授業中の復習	2 2
第3回	新ビジネスモデルの開発と情報システム	予習: 情報システムを活用した新しいビジネスモデルの事例について事前調査 復習: 情報システムがビジネスに革命をもたらす可能性についてのレポート作成	2 2
第4回	テーマ設定とグループ分け	予習: 希望するテーマについて考える 復習: グループメンバーとの初期ミーティングの実施	2 2
第5回	グループワーク: 目標の確認	予習: 目標設定のための資料収集と分析 復習: 目標に基づくアクションプランの策定	2 2
第6回	グループワーク: 現状調査・分析	予習: 市場調査や技術分析の方法に関する事前学習 復習: 収集したデータの分析とグループによるレポート作成	2 2
第7回	グループワーク: 問題発見/課題設定	予習: 問題発見のための思考法やツールの事前調査 復習: 課題に関する具体的な計画の策定	2 2
第8回	グループワーク: 指標と目標値の設定	予習: 指標設定の方法に関する事前学習 復習: 指標に基づくプロジェクトの進捗管理方法の整理	2 2
第9回	グループワーク: 解決策の検討	予習: 問題解決手法に関する事前学習 復習: 提案された解決策の詳細な検討と改善	2 2
第10回	グループワーク: 情報システム化案検討	予習: 情報システム化案の事例検討 復習: 検討された情報システム化案の整理	2 2
第11回	グループワーク: 情報システム化案作成	予習: 情報システムの設計と実装に関する基本的な知識の事前調査 復習: 計画案の詳細な洗練と改善	2 2
第12回	グループワーク: プロジェクト計画作成	予習: プロジェクト管理の基本原則やケーススタディの調査 復習: 各グループの計画に対するフィードバックを分析し、必要に応じて計画を調整	2 2
第13回	最終プロジェクト発表: 組織運営の合理化	予習: 情報システムを活用した組織運営の合理化の発表準備をする 復習: それぞれの発表を振り返る	2 2
第14回	最終プロジェクト発表: 新ビジネスモデル	予習: 情報システムを活用した新たなビジネスの発表準備をする 復習: それぞれの発表を振り返る	2 2

59	経営コミュニケーション研修Ⅰ	LM-J-407	必修 2単位 4 年前期
	Management and Communication (Graduation) Thesis Writing Ⅰ		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 金井 辰郎 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 川島 和浩 黎 敏利			
授業の達成目標			
各人の問題意識に沿った卒業研究の構想をまとめる。一連の研究活動を通じて専門分野に関する知識を深め、研究の具体的な方法と発表の技術を修得する。			
授業の概要			
卒業研究に取り上げるテーマに関する専門性を高め、新規性、有効性のある研究テーマを明確にするための研究活動を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「知的な論文・レポートのためのリサーチ入門」竹田茂生 / 藤木清 [著] くろしお出版「論文を書くための Word 利用法一文書も頭も構造化する」上山あゆみ [著] くろしお出版「レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション」石坂春秋 [著] くろしお出版他、各員の指示による。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
論文構想への取り組み (50%) 論文構想 (50%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
適宜教員が指導する。			
備考			

59	経営コミュニケーション研修Ⅰ	LM-J-407	必修 2単位 4 年前期
	Management and Communication (Graduation) Thesis Writing Ⅰ		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	研究室単位でのオリエンテーション	経営コミュニケーション概論Ⅱまでの研究のまとめをしておく。 4 年次前期での学びの計画をたてる。	1 1
第 2 回	研究室単位での研究指導	どのようなスタンスで卒業論文を作成していくか構想する。 卒業研究の全体像を把握する。	1 1
第 3 回	論文の基本的方向性の検討	卒業論文の構想をまとめる上で必要な実施項目を考える。 卒業論文の構想をまとめるためのスケジュールを立てる。	1 1
第 4 回	構想をまとめるための実施項目の検討	過去の卒業論文を読む。 関連する文献を読んで整理する。	1 1
第 5 回	研究テーマの検討のための既存研究の調査	自己の研究テーマを考える。 自己の研究テーマをまとめる。	1 1
第 6 回	研究テーマの検討	指導教員の勧める論文を読む。 自己の研究領域での関連知識をまとめる。	1 1
第 7 回	研究テーマに沿った既存研究の調査	自己の研究テーマの新規性を考える。 新規性がどこにあるかをまとめる。	1 1
第 8 回	研究テーマの新規性の確認	自己の研究テーマの有効性を考える。 有効性がどこにあるかをまとめる。	1 1
第 9 回	研究テーマの有効性の確認	自己の論文のゴールを決める。 取り組む問題を定義する。	1 1
第 10 回	論文のゴールの設定	どのように論文のゴールに到達するかを構想する。 仮説をまとめる。	1 1
第 11 回	仮説の検討	仮説と検証の構想を練る。 アプローチ手法をまとめる。	1 1
第 12 回	仮説の検証方法の検討	アプローチ手法を適応するとどのようになるか展望をもつ。 仮説を明確に立てる。	1 1
第 13 回	仮説の明確化	どのような事実が仮説証明になるかをまとめる 仮説の証明に要するデータを絞り込む。	1 1
第 14 回	論文構想書の取りまとめ	卒業論文の構想をまとめる。 改善の目標を設定をする。	1 1

60	ビジネスロールプレイング	LM-A-409	選択 2単位 4 年前期
	Business Role Playing		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 佐藤 飛鳥			
授業の達成目標			
<p>地域資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を総合し、地域・産業・技術のイノベーション展開を実現するための組織・協働システムとして産官学連携を想定した role-playing（グループワーク）を通じ、組織のミッションを遂行する上での個人の役割、組織内での情報共有、外部組織との円滑なコミュニケーション及び取引を体験し、組織内外で起こる諸問題に対応するための適応力を養う。本講義は地域や宮城県をフィールドに学生諸君がさまざまな組織の一員を演じ、これまで学んできた経営関連講義とコミュニケーション関連講義の両方の知識を総動員して「どう動いたら自組織や相手組織にとって望ましい結果につながるか」を実践的に学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>営利企業に限らず、あらゆる組織が組織のミッションを達成するために活動を行っている。また、それらの活動においては必ず他組織との関わりが発生し、取引を進めたり連携を図るために普段からの良好な関係構築と適切なコミュニケーション、さらにネットワークの拡大が必要となる。自組織内で自らの役割を果たすだけでなく、他組織との関わりの中でどのようにコミュニケーションを取り、交渉し、関係を築き上げていったらよいかを学ぶ。その方法として講義で適宜理論を紹介する。学生諸君はそれらを用いる形でグループワークに参加する。各自はこの講義を通して演じる 1 役を選び、それぞれが自組織内の役割に基づき他組織と交渉や連携をすすめるバーチャルな産官学連携を体験する。</p>			
実務経験を活かした教育について			
<p>文部科学省知的クラスター創成事業において石川県の予防型社会創造産業形成に携わった経験を授業に活かし、適応力養成に還元する。</p>			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
<p>本学両キャンパス図書館に所蔵の下記 2 冊を参考図書とする。（財）石川県産業創出支援機構 知的クラスター創成事業 社会システム研究会『石川予防型社会創造産業クラスターと予防型医療社会システムの展開』、『予防医療先進地域石川の実現をめざして』用しない。</p>			
参考書等			
成績評価方法・基準			
<p>講義中に配付するワークシート（主に role-playing に関わるワーク。理論の理解度と応用力を見る。）30%、Role-playing 時の発表内容（全員に自分の役割についての発言機会を与える。産官学連携を成功に導くためにどのような努力や工夫をしているかを見る。）の達成目標に関するテーマ。目標到達度を見る。）30%。</p>			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
<p>ワークシート及びロールプレイングの発表内容は次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。レポート内容はWebClassを通して各自にコメントする。</p>			
備考			


60	ビジネスロールプレイング	LM-A-409	選択 2単位 4 年前期
	Business Role Playing		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	産官学連携とは	「産官学連携」の概念を調べる。	2
第 2 回	事例紹介：文部科学省知的クラスター創成事業金沢地域	宮城県内の産官学連携事例を調べる。	2
第 3 回	組織編成（Role-playing 配役）	国からの補助金による産官学連携の事例に何があるかを調べる。	2
第 4 回	組織のミッション（組織の目標設定）	講義で配付するワークシートを仕上げる。	2
第 5 回	組織のパラメータ設定（組織の経営／運営状況と特徴を明らかに）	自動車産業の振興に関わる組織や企業と、それらのために働く職種を調べる。	2
第 6 回	組織の情報公開（組織のパラメータの発表）	ロールプレイング上、自分自身に配役された役割についての知識を深める。	2
第 7 回	ネットワークづくり（Six Degrees of Separation、名刺交換）	配役された組織のミッションを考える。	2
第 8 回	取引・連携の開始（Role-playing による）	産官学連携と自組織の存在意義を整理する。	2
第 9 回	ネットワークの拡大とネットワークマップ（Role-playing 及びネットワークマップ作成）	組織の特徴を表すためのパラメータを（自由に強みを持つ項目を設定し、合計100になるように割り振りも）考える。	2
第 10 回	産官学連携と職務（産官学連携が自分のroleに与える影響について発表）	組織内で話し合い、コア・コンピタンスを明確にして数値設定をする。	2
第 11 回	Win-win交渉（ZOPA、BATNA、IntegrativeBargaining）	各組織がロールプレイングで発表したパラメータから、他組織の特徴（強み）を整理する。	2
第 12 回	アサーティブな取引・連携の継続（Role-playing による）	知人をたどって著名人まで迎り着くネットワークを書く。	2
第 13 回	外的環境変化への適応（Role-playing による）	ロールプレイングで行った名刺交換により、いかにネットワークが広がったかをワークシート上で計算する。	2
第 14 回	産官学連携を遂行する上での留意点、まとめと最終レポート課題について	自組織のミッションやコア・コンピタンスを基に、取引や連携に用いる交渉材料を考える。	2
		同一組織のメンバーと今後のロールプレイング上の方針を確認する。	2
		誰をキーパーソンにすればネットワーク拡大につながるかを考える。	2
		ネットワークマップを完成する。	2
		産官学連携の目的と、本来自分が組織内で果たすべき役割との不整合や遂行上障壁を考える。	2
		次回の学習内容のキーワードを調べる。	2
		Win-win交渉に導くための手法を自動車産業振興のためのロールプレイングに適用できるよう準備する。	2
		交渉相手の感触を組織に持ち帰り、次回の作戦を練る。	2
		ネットワークの維持・拡大を視野に取引内容を検討する。アサーティブネスにも留意する。	2
		ロールプレイングで行った取引の反省点を考える。	2
		ビジネス上起こりうる「想定外のこと」を想定する。	2
		リスクマネジメントの方針を立てる。	2
		全回を振り返り、ロールプレイング中の失敗を書き留める。	2
		講義内容、ロールプレイング内容の両者を復習する。ワークシート及びノートを読み、組織運営の方法や組織の一員として何に価値を置いて日々を過ごすのか考える。すべてを活かし、レポートを執筆する。	2

61	法と経済学	LM-C-309	選択 2単位 4 年前期
	Law and Economics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 小祝 慶紀			
授業の達成目標			
法と経済学は、法制度や法現象を、経済学の視点から分析する学際的分野である。本講義では、ミクロ経済学の基礎理論を用いて、法と経済学の基本的な考え方を習得することを目標とする。さらに、法制度や判例がもつ経済学的意味を習得しつつ、経済学の法学への導入がもつ可能性と限界を把握することも併せて目標とする。			
授業の概要			
本講義では、まず、法の経済学の考え方を紹介する。それぞれ各回のテーマについて経済学の理論との関係を解説していく。必要に応じて、各回のテーマについてその意義を検討するため、当該テーマの基礎となる設問を提示し、検討していきたい。特に「取引費用の問題」は、法と経済学を中心となる理論なので何度も繰り返し説明する。講義の最後に毎回『復習課題』を実施する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業の事務部局において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
法と経済学 福井秀夫 日本評論社 2017			
参考書等			
参考書は、適宜授業で紹介する。 毎回レジュメをWebClassへ掲載するので、必ずダウンロードしておくこと。			
成績評価方法・基準			
授業内課題 30% 中間レポート 20% まどめの試験 50%を基本とし、その他小テストなどの合計得点を総合的に評価する。 中間レポート等については、第1回の授業の時に提示する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内課題など授業で提示したレポート等については、次回の授業で、提出課題に対しての見解や、よくある誤り等についてコメントする。			
備考			



61	法と経済学	LM-C-309	選択 2単位 4 年前期
	Law and Economics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	イントロダクション法と経済学とは何か 授業の概要	シラバス記載内容を事前に確認する。 法と経済学の概要を復習する。	2 2
第2回	経済学と法	ミクロ経済学の基本を予習する。 市場の失敗などの方法論を復習する。	2 2
第3回	法の役割とは何か	法制度の基本的な事故を予習する。 我々の身近な法律と事例を復習する。	2 2
第4回	法と経済学のすすめ(1) 法の隠れた機能を知る	不法行為法、人権規定の基本を予習する。 法的効果などの方法論を復習する。	2 2
第5回	法と経済学の進め(2) 取引費用とは何か	教科書の序章の「取引費用」について読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第6回	契約法の経済分析の基礎	教科書の「契約」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第7回	所有権法の基礎理論(1) 所有権とは何か	教科書の「公共財」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第8回	種有権法の基礎理論(2) 取引費用の問題	教科書の「コースの定理」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第9回	損害賠償法の経済分析	教科書の「故意」「過失」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第10回	刑法の経済分析	教科書の「犯罪抑止」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第11回	会社法の経済分析	教科書の「会社規律の責任」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第12回	知的財産権の経済分析	教科書の「独占権」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第13回	環境問題の「法と経済学」	教科書の「環境を守る」とは何かについて読んでおく。 授業の最後に指定した箇所を復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	これまでの講義を教科書やノートなどをきちんとまとめる。 これまでの学習内容を振り返る。	2 2

62	身体表現研究	LM-D-409	選択 2単位 4 年前期
	Studies of Performance and Arts		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 宮曾根 美香			
授業の達成目標			
1. 心身のバランスおよび自律神経のバランスを整える。2. 自分の呼吸と体の動きを意識する。3. 抱えたストレスも上手に緩和する。			
授業の概要			
呼吸 (腹式呼吸) を丁寧にしながら、Warming up の動き、ヨガのアーサナを通して、自分の体の声を聴く。呼吸を深めることで meditation in silence、連続したアーサナで meditation in motion といった瞑想体験もする(対面の予定であるが、コロナの状況によっては急遽リアルタイムオンラインに切り替える)。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 『すぼらヨガ』 崎田 ミナ著 ¥1,222 (税込) 飛鳥新社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
課題2つ (25%×2) と期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出された課題にはコメントをして帰る。必要に応じて授業内またはLMSで全体的コメントを行う。			
備考			
コロナ禍下におけることから履修人数を制限する。事前に履修希望の理由と達成したいことを書いて提出してもらい、人数を絞る。			

62	身体表現研究	LM-D-409	選択 2単位 4 年前期
	Studies of Performance and Arts		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス～ヨガ概論～	ヨガの歴史について調べてみる。	2
第2回	呼吸 (腹式呼吸) と warming up の動き	ヨガの呼吸の種類について調べる。	2
第3回	呼吸 (腹式呼吸) とセルフ・アウェークニングヨガ	ヨガの呼吸の効果について調べる。	2
第4回	呼吸 (腹式呼吸) と座位のアーサナ (前屈)	ヨガの呼吸とアーサナの関係について調べる。	2
第5回	呼吸 (腹式呼吸) と座位のアーサナ (後屈)	ヨガの基本的なアーサナについて調べる。	2
第6回	呼吸 (腹式呼吸・胸式呼吸) と座位のアーサナ (前屈・後屈)	ヨガの座位のアーサナについて調べる。	2
第7回	呼吸 (腹式呼吸・胸式呼吸) と立位のアーサナ	ヨガの立位のアーサナについて調べる。	2
第8回	呼吸 (腹式呼吸・胸式呼吸) と立位のアーサナ	自分が関心のある立位のアーサナをテキストで見つけてくる。	2
第9回	呼吸 (腹式呼吸・胸式呼吸) とあおむけ、座位、立位のアーサナ	自分がやりたいアーサナをテキストで見つけてくる。	2
第10回	呼吸 (腹式呼吸・胸式呼吸) とあおむけ、座位、立位のアーサナ	自分の心身の状態をみて必要なアーサナについてテキストで見つけてくる。	2
第11回	呼吸 (腹式呼吸・胸式呼吸) と太陽礼拝 (meditation in motion)	太陽礼拝について調べる。	2
第12回	ヨガの語源、要素、効果、ハタヨガについて (課題レポート1提出)	ヨガの語源と要素について調べる。	2
第13回	ヨガの瞑想 (課題レポート2提出)	ヨガの瞑想について調べる。	2
第14回	まとめと試験 (webclass上で回答し、提出)	講義と演習の内容を整理する。	2
		最終的な振り返りをする。何を学んで自分がどのように変わったと思うか。今後どのように活かしていくか。	2

63	コーチング	LM-D-410	選択 2単位 4 年前期
	Coaching		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 佐藤 和美			
授業の達成目標			
近年の企業で必要とされるのは、自らのモチベーションによって行動を起こし、自らを評価し、成果を継続的に出していける人材である。経営の質はそのような人材の育成により高まる。いま経営の職務遂行能力の一つとみなされているコーチングは、一人ひとりの人間の可能性を信じ尊重することにより、主体的な人材育成を可能にするコミュニケーション・スキルである。この授業では、個々の人間に合ったコーチング・コミュニケーションを学ぶことにより、相手の可能性、能力、やる気、自発的行動などを引き出すスキルを修得する。			
授業の概要			
コーチングは、人間の能力を引き出すことに優れた人のコミュニケーションの特徴—自分のやり方を押し付けない、指示命令を最小限に、話をよく聴く、相手の存在を尊重する—などを体系的にまとめ、科学理論に裏付けられたコミュニケーション・スキルである。それらを知識として覚えるだけでは活用できない。実際に活用できるようになるために実践的トレーニングをほぼ毎回行う。相手を尊重するとはどのようにすることなのか、指示命令によらず人を動かすにはどのようにするのか等を、コーチングのコアとなる傾聴・質問・承認のスキルを中心に学ぶことによって体得していく。授業で得たことを、すぐに日常生活で活用することによりスキルを向上させる。半年継続することにより、国際的にも通用するコミュニケーション力、リーダーシップなどの人間力を高めていくことができる。			
実務経験を活かした教育について			
コミュニケーション講師・コーチとして、各種企業・行政、教育機関・福祉関連団体等での人材育成、課題解決に向けたプログラム開発と研修講師に従事している実績と経験を授業内容及びワークのリードに活かす。それにより、実践的なコミュニケーションセンスとコーチのスキルの体得を促進する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
独自資料を適宜配布し教材とする。 エンパワーメントコミュニケーション 岸 英光 あさ出版 2003			
成績評価方法・基準			
授業でのコミュニケーションワークとリアクションペーパー・授業で提示した課題 (50%) と最終レポート (50%) を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示した提出課題については次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

63	コーチング	LM-D-410	選択 2単位 4 年前期
	Coaching		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	コーチングとは・コミュニケーションが可能にするもの	コーチングについて調べてくる。	2
第2回	安心安全なコミュニケーションの場の創作 (グループワーク)	コーチングとティーチングの違いについて復習する。 コーチされた体験とその具体をまとめる。	2
第3回	人をエクスパンドするコミットメント・プロジェクトの創作	日常の中で2回目授業の内容を観察しまとめる。 自らのコミットまたは取り組みたいプロジェクトを設定する。	2
第4回	人の行動と結果を停滞させるもの (グループワーク)	3回目授業で提示した課題について実践する。 自分や社会、組織にあるパラダイムとその影響を観察し記録する。	2
第5回	成功恐怖パラダイムとバイアスの影響 (グループワーク)	認知バイアスについて調べてくる。 5回目授業資料を復習し、バイアスの影響を観察する。	2
第6回	パラダイムの次元を扱うコーチ・コミットメントの再創作 (ペアワーク)	自らのコミットについて振り返りをする。 6回目授業資料を復習し、ワークでの体験を記録する。	2
第7回	卓越した聴き方でコーチする (ペアワーク)	行動するきっかけとなった会話について考察する。 実生活で卓越した聴き方を実践する。	2
第8回	抵抗の処理・ペーシング・機能する質問とは (ペアワーク)	実生活で卓越した聴き方を実践した結果を記録する。 8回目授業資料を復習し、ワークでの体験を記録する。	2
第9回	直面からシフトを創る対話・チャックダウン・スライドアウトの技術 (ペアワーク)	8回目授業での学びを実生活で実践した結果を記録する。 ワークでの体験を振り返り、自らの行動に活用する。	2
第10回	迷いからの解放とパワフルな行動を引き出す意図を探る (ペアワーク)	9回目授業で提示した課題に取り組む。 意図の探求を続けると共に、実生活での行動の変化を観察する。	2
第11回	時間軸の変換を創る対話～バックキャスト・プレインストーミング	10回目授業で提示した課題に取り組む。 11回目授業資料を復習し、実生活で活用する。	2
第12回	バイタリティを引き出すコーチのメッセージ (ペアワーク)	11回目授業で提示した課題に取り組む。 12回目授業資料を復習し、実生活で活用する。	2
第13回	コーチの体験を活かすシェアのブラッシュアップとインビテーション (ペアワーク)	12回目授業での指示に沿って、体験のシェアを準備する。 13回目の授業資料を復習し、実生活で活用する。	2
第14回	創作としての完了・承認・感謝、そして次へ～振り返りとプレゼンテーション	授業で得たことを実生活で活用した具体と結果をまとめてくる。 コーチングを将来どう活かすかをまとめる。	2

64	経営コミュニケーション研修Ⅱ	LM-J-408	必修 4単位 4年後期
	Management and Communication (Graduation) Thesis Writing II		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 金井 辰郎 宮曾根 美香 猿渡 学 佐藤 夏子 佐藤 飛鳥 亀井 あかね 二瀬 由理 小祝 慶紀 川島 和浩			
授業の達成目標			
経営コミュニケーション研修Ⅰで得られた構想に基づいて研究を進展させ卒業研究を完成させる。研究計画立案・遂行を通じて自己管理能力を修得する。また研究室での共同作業を行う能力やコミュニケーションの能力を高める。			
授業の概要			
卒業論文完成に必要な文献調査、資料収集、研究テーマの具体化、実験などを発展させる。論証あるいは実験に裏付けられた卒業論文を完成させ、研究成果を学内で発表する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「知的な論文・レポートのためのリサーチ入門」竹田茂生 / 藤木清 [著] くろしお出版「論文を書くための Word 利用法一文書も頭も構造化する」上山あゆみ [著] くろしお出版「レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション」石坂春秋 [著] くろしお出版他、各員の指示による。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
卒業論文への取り組み(30%) 卒業論文(50%) 発表への取り組み(20%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
適宜教員が指導する。			
備考			

64	経営コミュニケーション研修Ⅱ	LM-J-408	必修 4単位 4年後期
	Management and Communication (Graduation) Thesis Writing II		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	研究室単位でのオリエンテーション	経営コミュニケーション研修Ⅰまでの研究のまとめをしておく。 4年次後期の学びの計画をたてる。	2 2
第2回	研究室単位での研究指導	卒業論文の全体像を確認する。 卒業論文の構成をまとめる。	2 2
第3回	研究室単位での研究指導	序論で論述する研究背景をまとめる。 従来研究との自己の研究の関係をまとめる。	2 2
第4回	研究室単位での研究指導	序論に研究目的・アプローチの方法を論述する。 先行研究としてとりあげる資料をまとめる。	2 2
第5回	研究室単位での研究指導	先行文献と図表の引用の仕方を確認する。 先行研究の内容をまとめる。	2 2
第6回	研究室単位での研究指導	先行研究の内容を詳細にまとめる。 先行研究の引用のしかたを改善する。	2 2
第7回	研究室単位での研究指導	自己の仮説や提案についての理由や特徴をまとめる。 仮説や提案のプロセスの有効性についてまとめる。	2 2
第8回	研究室単位での研究指導	仮説や提案の検証のプロセスをまとめる。 調査や実験を行った場合はそれらが目的に適していることをまとめる。	2 2
第9回	研究室単位での研究指導	分析の結果を考察する。 分析結果をまとめる。	2 2
第10回	研究室単位での研究指導	考察及び今後の展望をまとめる。 結論として何を目的に何を行い、何が達成できたかをまとめる。	2 2
第11回	研究室単位での研究指導	今後の課題(展望)をまとめる。 参考文献一覧をまとめる。	2 2
第12回	研究室単位での研究指導	論文の詳細の調整をする。 論文の仕上げと発表準備を行う。	2 2
第13回	卒業研究発表会(研究室単位)	発表準備を行う。 改善点について考察する。	2 2
第14回	卒業研究発表会(全体)	発表準備を行う。 改善点について考察する。	2 2

65	ICTビジネススキル	LM-G-405	選択 2単位 4年後期
	ICT Business Skills		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 亀井 あかね			
授業の達成目標			
ICT をビジネス・コミュニケーションの手段として活用し、ビジネススキル(統計処理)の基本的知識と技能(データ収集・分析・可視化、文書表現)を修得することを目的とする。			
授業の概要			
<p>ビジネスの現場におけるICTを活用したビジネススキル習得の目的は、1. 統計データ収集・分析・資料作成、2. ビジネス文章という手段を通じて「相手に納得してもらう」ことである。単に統計ソフトウェア、文章編集ソフトウェア等の操作知識があれば達成されるものではない。本講義では、社会人に求められるICTビジネススキルの基本を理解・実践するために必要な「ビジネス統計データの扱い方」について講義する。項目毎に事例を用いて解説する。学生は統計データ分析について実践的に学ぶ。ビジネスの現場で用いられるソフトウェアした資料作成技能の修得を目指す。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
<p>【電子教科書】よくわかる Excel ft Excel 関数テクニック、著作/制作 富士通ラーニングメディア、発行所 FOM 出版。 ※「アノテーション(電子教科書への書き込み)」を主資料として講義を進める。 ※本学の大学生協で電子教科書(コード)を購入することを推奨する。</p>			
参考書等			
<p>定量分析の教科書ービジネス数学力養成講座一、グロービス、鈴木健一・著、東洋経済新報社。 その他の参考文献は適宜紹介する。</p>			
成績評価方法・基準			
課題(予習ノート、小テスト、中間試験、期末試験、等)を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
<p>小テスト(演習問題)は実施当日の講義もしくは次回講義で解説する。 中間試験および期末課題に関しては教科書出題箇所をWebClass等で示す。</p>			
備考			

65	ICTビジネススキル	LM-G-405	選択 2単位 4年後期
	ICT Business Skills		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション:電子教科書ID登録、電子教科書使用方法について 注意:授業開始前に電子教科書を購入し、初回に必ず電子教科書コードを持参すること。	Microsoft Excel の基本的な使用方法について、確認しておくこと 1. 電子教科書へのアクセス方法を確認する(PC Webブラウザおよび携帯電話からのログイン方法) 2. 電子教科書のアノテーション機能について再確認する 3. 電子教科書システムにログインできない場合は、教科書システム管理会社へ連絡し、次回授業までにアクセス可能な状態にすること(管理会社への連絡方法はWebClassへ掲示する)	2 2
第2回	Microsoft Excel 関数の基本構造 学習内容について授業中に小テストを実施する	教科書「第1章」について項目確認し予習ノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第3回	Microsoft Excel を用いたビジネスデータ処理:請求書の作成	教科書「第2章」について項目確認し予習ノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第4回	Microsoft Excel を用いたビジネスデータ処理:売上データの集計	教科書「第3章」について項目確認し予習ノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第5回	Microsoft Excel を用いたビジネスデータ処理:顧客住所録の作成	教科書「第4章」について項目確認し予習ノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第6回	Microsoft Excel を用いたビジネスデータ処理:賃金計算書の作成	教科書「第5章」について項目確認し予習ノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第7回	Microsoft Excel を用いたビジネスデータ処理:社員情報の統計	教科書「第6章」について項目確認し予習ノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第8回	Microsoft Excel を用いたビジネスデータ処理:出張旅費伝票の作成	教科書「第7章」について項目確認し予習ノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第9回	Microsoft Excel 関数のまとめと中間試験	第2回から第8回までの学習内容について、予習ノート、電子教科書のアノテーション、等を確認する。 中間試験で取り上げた項目について、予習ノート、電子教科書のアノテーション、等を確認する。	2 2
第10回	ビジネス統計学:演習1 出題範囲:記述統計・基本的な確率	事前配布する統計用語について内容を確認しノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第11回	ビジネス統計学:演習2 出題範囲:離散確率分布・正規分布・標本分布	事前配布する統計用語について内容を確認しノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第12回	ビジネス統計学:演習3 出題範囲:仮説検定の基礎	事前配布する統計用語について内容を確認しノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第13回	ビジネス統計学:演習4 出題範囲:回帰分析	事前配布する統計用語について内容を確認しノートを作成する 予習ノート提出先:WebClass 当該回で取り上げた項目について、演習課題を完成することを通じて学びの定着を目指す。	2 2
第14回	ビジネス統計学のまとめと期末試験	第9回から第13回までの学習内容について、予習ノート、電子教科書のアノテーション、等を確認する。 実社会においてMicrosoft Excel 関数を用いてビジネス統計処理ができるように繰り返し学習を行う。	2 2

66	チャレンジアブロードプログラム	LM-K-001	選択 4単位 1年前期～4年後期
	Challenge Abroad Program		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学年全組(他学科の学生も履修可能) 宮曾根 美香 佐藤 夏子 二瀬 由理 大石 加奈子			
授業の達成目標			
1. 事前研修において海外で研修をするために必要な基本的知識とスキルを身につける。 2. 海外研修で異文化理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図る(現地研修は対面を予定、状況によってはオンライン留学でリアルタイムオンラインでの実施となる)。			
授業の概要			
1. 事前研修ー海外での生活、ホームステイ、英会話、プロジェクト・ワークについての事前指導と準備。 2. 海外研修ー海外の語学学校での語学研修に参加し、英語レッスンに加えて、プロジェクトワークをする。帰国後は報告書の提出が必須。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
ハンドアウトを配付する。			
参考書等			
海外研修のためにパスポートの取得が必要となる。			
成績評価方法・基準			
海外研修の報告書 50%、およびプロジェクト・ワーク 50%で評価する。授業及び LMS で必要なフィードバックを行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出された課題についてはコメントを書いて返す。必要に応じて全体的コメントを行う。			
備考			

66	チャレンジアブロードプログラム	LM-K-001	選択 4単位 1年前期～4年後期
	Challenge Abroad Program		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	1. 事前研修(後期)オリエンテーション 事前研修と海外研修について説明。概要、進め方、評価方法など	他の人たちの留学体験記を読んでくる。	2
第2回	英語で自己紹介	自分の留学の目標(大・小)と必要な事前準備について整理する。	2
第3回	英会話1 ホームステイ他	自己紹介文(英文)を作成してくる。	2
第4回	英会話2 食事他	自己紹介をよりアピールするものに修正し、実際に口頭で試みる。	2
第5回	英会話3 道を尋ねる他	ホームステイに必要な英会話表現を調べる。	2
第6回	英会話4 買い物他	授業で習った内容を復習し、自分なりにノートにまとめる。	2
第7回	プロジェクトワークの準備(グループ分けと企画)	食事に必要な英会話表現を調べる。	2
第8回	プロジェクトワークでの仕事分担およびタイムスケジュール作成	授業で習った内容を復習し、自分なりにノートにまとめる。	2
第9回	企画の準備(作業)	(現地)外国人に紹介したい日本文化について調べて、いくつか候補を考えてくる。	2
第10回	企画の準備(作業および英文の作成等)	話し合いでまとめたことと今後の課題を整理する。	2
第11回	企画の準備(作業および英文の作成等)	自分が担当する役割に必要なことを整理する。	2
第12回	プロジェクトワークのプレゼンテーション	話し合いでまとめたことと今後の課題を整理する。	2
第13回	プロジェクトワーク最終確認	自分が担当する役割に必要なことを整理する。	2
第14回	出発前の最終打ち合わせ	紹介する日本文化について必要な英単語と表現をメモしてくる。	2
第15回	2. 現地語学研修(2月～3月の間に実施予定)オリエンテーション	授業で受けた指摘をもとに英文を修正する。	2
第16回	自己紹介及び相手との情報共有の英会話	外国人を意識して英文をまとめてみる。	2
第17回	ホームステイでの生活に必要な表現及び語彙	授業で受けた指摘をもとに英文をさらに加筆・修正する。	2
第18回	場面に応じた会話	発表の担当箇所を練習してくる。	2
第19回	reading および writing の活動と演習	授業で受けた指摘をもとに、必要な修正や練習を行う。	2
		より完成度の高いパフォーマンスができるよう、練習してみる。	2
		授業で受けた指摘をもとに、必要な準備をする。	2
		レポート課題等について事前に確認する。	2
		移動の行程、滞在先、プロジェクトワーク、持ち物他について最終点検をする。	2
		自己紹介の準備	2
		受けた質問を整理し、回答の情報も含めて、よりアピールできる自己紹介を作成する。	2
		質問する英語表現をまとめてみる。	2
		他の学生たちから得た情報等を英語でまとめておく。	2
		ホームステイする際に必要と思われる単語、表現をまとめてみる。	2
		自分がホストファミリーに聞きたい質問を書いてみる。	2
		授業で習った表現、語彙を復習する。	2
		あいさち、質問、誘う、招待を受ける、断る、相手をほめる、感情を表現する等の表現についてまとめてみる。	2
		授業で習った表現、語彙を復習する。	2
		現地の日常文化についての英文を読んで要点を英語で書いてみる。	2
		授業で習った表現、語彙を復習する。	2

66 チャレンジアブロードプログラム		LM-K-001	選択 4単位 1年前期～4年後期
Challenge Abroad Program			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第20回	プロジェクトワークの準備	プロジェクトワークで使う表現、語彙をまとめる 不足している点を補う。	2 2
第21回	日本文化紹介（プレゼンテーション・交流）	最終のチェックをする。 寄せられた質問と回答をまとめる。	2 2
第22回	反省点を話し合う。	修正すべき点を英語でまとめる。 今回のプロジェクトワークで得られた反応、自分たちが学んだことを整理する。	2 2
第23回	異文化理解と異文化間コミュニケーション①	現地の文化と日本文化の共通点、違いを考えてみる。 授業で習った表現、語彙を復習する	2 2
第24回	異文化理解と異文化間コミュニケーション②	現地の文化について生活しての発見、正しい理解について考えてみる。 授業で習った表現、語彙を復習する。	2 2
第25回	トピックを決めて日本と現地の比較 ディスカッション①	有効な表現、語彙をまとめる。 授業で習った表現、語彙を復習する。	2 2
第26回	トピックを決めて日本と現地の比較 ディスカッション②	有効な表現、語彙をまとめる。 授業で習った表現、語彙を復習する。	2 2
第27回	感謝の挨拶	スピーチの準備 スピーチで使った表現等をまとめる。	2
第28回	まとめ 帰国後に報告書を作成、提出。	現地研修を振り返って簡単に英語でまとめる。 受けたフィードバックを整理する。	2 2

67	経営コミュニケーション特論「NPO 経営論」	LM-X-001	選択 2単位 1年前期～4年後期
	Special Lecture on Management Communication ""NPO Management Theory""		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学年全組 渡邊 一馬			
授業の達成目標			
NPO (非営利活動) の経営者 (代表者や事務局長等) の課題意識や理想とする社会像、経営手法にふれることで、地域社会の問題への関心を深めるとともに、その問題解決に主体的に関わろうとする意欲を高め、また自分なりの実践的な哲学や世界観を形成することを目標とします。さらに、他の受講生とのグループワークを通じたコミュニケーション力の向上、事業計画の共同作成を通じた企画力、調査力、チームワーク力などの養成をめざします。			
授業の概要			
NPO とは、非営利で社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のことです。今回は NPO の中でも事業活動によって地域社会が抱える問題の解決をめざす団体を題材に、彼らの発想力、問題解決能力、事業構想力から、受講生各自の今後のキャリア形成や生き方のヒントをいきます。講義&事例紹介と、ゲスト講義、そして、グループワークを組み合わせ、ソーシャゲスト各団体に対して、社会問題解決のための独自の事業プランを共同で立案してもらいます。			
実務経験を活かした教育について			
担当者が NPO 活動を支援する「中間支援組織」の代表であるため、全国の NPO 経営者とのネットワークがあるとともに、NPO 活動の立ち上げや立て直しのコンサルティングの実務経験が豊富である事を活かした教育を行う。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は指定しません。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
事業プラン策定を中心としたグループワーク (少人数学習) の評価 (60%) と、その他の受講レポート等評価 (40%) を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で提示したレポート等については、次回の授業で全体に対してのレポートでの重点事項等の解説を行い、フィードバックする。			
備考			

67	経営コミュニケーション特論「NPO 経営論」	LM-X-001	選択 2単位 1年前期～4年後期
	Special Lecture on Management Communication ""NPO Management Theory""		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション: 講義紹介、自己紹介など	予習: あなたが知っている NPO を一つ調べてきてください。 復習: 興味を持った NPO のことを再度調べてください。	2 2
第2回	講義: NPO とは何か、NPO と企業との違い	予習: NPO と企業は何か違うのか調べてください。 復習: NPO とは何か、講義内容の復習	2 2
第3回	講義: NPO における経営資源の集め方	予習: NPO が活用している経営資源を調べてきてください。 復習: NPO における経営資源とは何か、講義内容の復習	2 2
第4回	グループワーク: ゲスト講義の準備	予習: ゲスト予定の団体について調べてきてください。 復習: グループで検討した役割について復習してください。	2 2
第5回	ゲスト講義①: 実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	予習: グループで検討した役割に従って準備を進めます。 復習: ゲスト講義の内容をワークシートにまとめてください。	2 2
第6回	ゲスト講義②: 実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	予習: グループで検討した役割に従って準備を進めます。 復習: ゲスト講義の内容をワークシートにまとめてください。	2 2
第7回	講義: 中間振り返り、ゲスト講義の準備	予習: 自身がつくったワークシートを見直します。 復習: グループで検討した役割について復習してください。	2 2
第8回	ゲスト講義③: 実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	予習: グループで検討した役割に従って準備を進めます。 復習: ゲスト講義の内容をワークシートにまとめてください。	2 2
第9回	ゲスト講義④: 実際に NPO を経営している方から、取り組んでいるテーマ、経営方法について学ぶ	予習: グループで検討した役割に従って準備を進めます。 復習: ゲスト講義の内容をワークシートにまとめてください。	2 2
第10回	グループワーク: 社会問題解決テーマの決定と検討	予習: 自身がつくったワークシートを見直します。 復習: グループワークで決定したテーマについて復習してください。	2 2
第11回	グループワーク: 事業プランの策定1	予習: 担当するテーマについての事業アイデアを考えてきます。 復習: 事業アイデアについて見直してください。	2 2
第12回	グループワーク: 対象団体への質問検討	予習: 対象団体への質問内容を準備します。 復習: 対象団体へ質問を行います。	2 2
第13回	グループワーク: 事業プランの策定2	予習: グループで検討した役割に従って準備を進めます。 復習: ワークシートを見直しを行ってください。	2 2
第14回	グループワーク: 事業プランの発表全体振り返り	予習: 発表内容を作成します。 復習: これまでの発表内容等の復習をしてください。	2 2

68 **経営コミュニケーション特別課外活動 I** LM-X-002 選択 1 単位 1 年前期～4 年後期

Extracurricular Activities in Management and Communication

全学年全組 教授 川島 和浩

本学科の専門に関連の深い資格取得、検定等の合格、および学科が指定する課外活動に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、専門科目（経営コミュニケーション特別課外活動）もしくは教養教育科目（特別課外活動 I・II）として専門科目、教養科目それぞれ最大 4 単位の範囲内で単位認定を行う。

1. 資格の取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は「経営コミュニケーション特別課外活動」か、教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。どちらの科目に申請するかは本人が選択することとする。どのような資格や検定が「経営コミュニケーション特別課外活動」の対象となるかは学科が個別に判断するが、代表的なものとして下表を参考とすること。

2. 集中講義や学外講演会などへの参加による単位認定

認定対象となる集中講義や講演会、オープンカレッジなどがある場合は、開催日時および申請方法を事前にガイダンスするので、申請希望者は随時申し込むこと。

3. 単位認定の申請および認定単位

認定を希望する学生は、学科事務室に申し出て「経営コミュニケーション特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入して、申請する場合は教務学生課又は長町キャンパス事務室へ提出すること。申請は毎学期末（7 月末、1 月末）とする。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
日商簿記 3 級	1
TOEIC 500 点以上	1
ビジネス英検 3 級	1
映像音響処理技術者	1
IT パスポート	1

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

69

経営コミュニケーション特別課外活動Ⅱ

LM-X-003

選択 1単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Management and Communication

全学年全組 教授 川島 和浩

本学科の専門に関連の深い資格取得、検定等の合格、および学科が指定する課外活動に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、専門科目（経営コミュニケーション特別課外活動）もしくは教養教育科目（特別課外活動Ⅰ・Ⅱ）として専門科目、教養科目それぞれ最大4単位の範囲内で単位認定を行う。

1. 資格の取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は「経営コミュニケーション特別課外活動」か、教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。どちらの科目に申請するかは本人が選択することとする。どのような資格や検定が「経営コミュニケーション特別課外活動」の対象となるかは学科が個別に判断するが、代表的なものとして下表を参考とすること。

2. 集中講義や学外講演会などへの参加による単位認定

認定対象となる集中講義や講演会、オープンカレッジなどがある場合は、開催日時および申請方法を事前にガイダンスするので、申請希望者は随時申し込むこと。

3. 単位認定の申請および認定単位

認定を希望する学生は、学科事務室に申し出て「経営コミュニケーション特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入して、申請する場合は教務学生課又は長町キャンパス事務室へ提出すること。申請は毎学期末（7月末、1月末）とする。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
日商簿記 3級	1
TOEIC 500点以上	1
ビジネス英検3級	1
映像音響処理技術者	1
ITパスポート	1

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

70

経営コミュニケーション特別課外活動Ⅲ

LM-X-004

選択 2単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Management and Communication

全学年全組 教授 川島 和浩

本学科の専門に関連の深い資格取得、検定等の合格、および学科が指定する課外活動に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、専門科目（経営コミュニケーション特別課外活動）もしくは教養教育科目（特別課外活動Ⅰ・Ⅱ）として専門科目、教養科目それぞれ最大4単位の範囲内で単位認定を行う。

1. 資格の取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は「経営コミュニケーション特別課外活動」か、教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。どちらの科目に申請するかは本人が選択することとする。どのような資格や検定が「経営コミュニケーション特別課外活動」の対象となるかは学科が個別に判断するが、代表的なものとして下表を参考とすること。

2. 集中講義や学外講演会などへの参加による単位認定

認定対象となる集中講義や講演会、オープンカレッジなどがある場合は、開催日時および申請方法を事前にガイダンスするので、申請希望者は随時申し込むこと。

3. 単位認定の申請および認定単位

認定を希望する学生は、学科事務室に申し出て「経営コミュニケーション特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入して、申請する場合は教務学生課又は長町キャンパス事務室へ提出すること。申請は毎学期末（7月末、1月末）とする。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
日商簿記 2級	2
TOEIC 600点以上	2
ビジネス英検 2級	2
経済学検定 ERE	2

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

71	他学科開講科目群 LM-X-005	選択 8単位 1年後期～4年後期
Subjects offered by other departments		
各科目担当教員		
<p>本学科の専門知識をより良く理解するため他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の開講科目を履修した場合、教務学生課で所定の手続きを取ることによって「他学科開講科目」として卒業、進級に必要な専門選択科目の単位に算入することが出来る。受講条件の詳細については各科目のシラバスを参照すること。</p> <p>他学科開講科目の受講を希望する学生は、学科が定める申請プロセスに従って、履修申請手続きをすること。</p> <p>注意事項：学科が定める「他学科開講科目履修申請理由書」は各学期の提出期間内に学科教務委員へ提出すること。 期日を過ぎての申請は認めない。</p>		

72	他大学開講科目群 LM-X-006	選択 4単位 1年後期～4年前期
Subjects offered by other universities		
<p> 詳細についてはシラバスの「他大学開講科目」(平成 24 (2012) 年度以降の入学生は p.25)、キャンパスライフの「学都仙台単位互換ネットワーク協定および国内外の大学等との単位互換に関する協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。なお、学都仙台単位互換ネットワークに基づく特別聴講による履修登録は本学の CAP 制による履修登録上限の算定には含めない。 </p>		